

証券アナリストによる
ディスクロージャー優良企業選定

(平成18年度)

社団法人 日本証券アナリスト協会

ディスクロージャー研究会

ディスクロージャー研究会委員

座長	松島 憲之	日興シイグループ証券
座長代理	伊藤 敏憲	UBS証券
	北山 信次	新光証券
	許斐 潤	野村証券
	杉本 幸二	明治安田生命保険
	津田 和徳	大和総研
	東浦 久雄	野村アセットマネジメント
	久津 明	岡三証券
	矢野 晴巳	みずほコーポレート銀行

(五十音順)

ディスクロージャー研究会各専門部会長

建設・住宅・不動産	高木 敦	モルガン・スタンレー証券
食 品	三浦 信義	日興シイグループ証券
化 学	銀林 俊彦	モルガン・スタンレー証券
医 薬 品	田中 洋	みずほ証券
鉄鋼・非鉄金属	山口 敦	UBS証券
機 械	斎藤 克史	野村証券
電気・精密機器	石野 雅彦	三菱UFJ証券
自動車・部品・タイヤ	松島 憲之	日興シイグループ証券
電力・ガス	伊藤 敏憲	UBS証券
運 輸	手塚 裕一	住友信託銀行
通 信	乾 牧夫	UBS証券
商 社	石曾根 毅	大和総研
小 売 業	正田 雅史	野村証券
銀 行	山田 能伸	メリル Lynch日本証券
コンピュータソフト	大屋 高志	トイ証券
新興市場銘柄	齋藤 剛	JPモルガン証券
個人投資家向け情報提供	豊永 雅一	みずほインバスターズ証券

目 次

はじめに	3 頁
ディスクロージャー優良企業	4
高水準のディスクロージャーを連続維持している企業	5
ディスクロージャーの改善が著しい企業	5
新興市場銘柄における優良企業に準ずる企業	5
概 括	6
各 専 門 部 会 の 報 告	9
建設・住宅・不動産	10
食 品	17
医 薬 品	24
機 械	31
電気・精密機器	38
自動車・同部品・タイヤ	50
電 力 ・ ガ ス	58
運 輸	65
通 信	72
商 社	78
小 売 業	85
銀 行	93
コンピュータソフト	101
新興市場銘柄	108
個人投資家向け情報提供	117

はじめに

日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会は、企業情報開示の向上を目的として、「ディスクロージャー優良企業選定」制度を平成7年度からスタートさせましたが、このほど平成18年度（第12回）の選定結果がまとまりましたので、ここに公表します。

本制度における業種ごとの優良企業選定は、当初は7業種を評価対象としてスタートいたしました。その後対象は漸次増加し、これまでに評価対象とした業種は15となりました。

本年度は、15業種のうち、それぞれのディスクロージャーの状況に関する各専門部会における判断を踏まえ、2業種（化学、鉄鋼・非鉄金属）の評価を休止し、13業種（建設・住宅・不動産、食品、医薬品、機械、電気・精密機器、自動車・同部品・タイヤ、電力・ガス、運輸、通信、商社、小売業、銀行、コンピューターソフト）を評価対象としております。

また、ディスクロージャー研究会では、一昨年度、本制度に基づく評価が第10回目という節目を迎えたのを機に、本制度の今後のあり方について検討を行いました。この検討結果を踏まえ、昨年度から、従来の業種別優良企業選定とは別に、新興市場銘柄および個人投資家向け情報提供における優良企業選定を開始しております。

当研究会は、今後もこの制度による優良企業の選定を通じて企業情報開示の向上、充実に寄与して参りたいと存じますので、関係各方面のご理解とご支援をお願いする次第であります。

ディスクロージャー優良企業

建設・住宅・不動産	大東建託	(前回 3 位)
食 品	アサヒビール	(4 回連続)
医 薬 品 〔再開・前回 15 年度〕	エーザイ	(前回 3 位)
機 械 〔再開・前回 16 年度〕	小松製作所	(2 回連続)
電気・精密機器	松下電器産業	(2 回連続)
自動車・同部品・タイヤ	ヤマハ発動機	(3 回連続)
電 力 ・ ガ ス	東京瓦斯	(3 回連続)
運 輸	東日本旅客鉄道	(前回 2 位)
通 信	KDDI	(4 回連続)
商 社	三菱商事	(11 回連続)
小 売 業 〔再開・前回 13 年度〕	ローソン	(前回 7 位)
銀 行	住友信託銀行	(前回 2 位)
コンピューターソフト	野村総合研究所	(4 回連続)
新興市場銘柄	テレウェイヴ	(2 回連続)
	サイバーエージェント	〔前回優良企業に準 ずる企業〕
	エン・ジャパン	(2 回連続)
個人投資家向け情報提供	三菱商事	(2 回連続)
	サイバーエージェント	
	住友信託銀行	(2 回連続)

高水準のディスクロージャーを連続維持している企業

本優良企業選定制度において3回連続して上位（2位ないしは3位）の評価を受けた次の4社を高水準のディスクロージャーを維持している企業として称賛状を贈呈することといたしました。

自動車・同部品・タイヤ	日	産	自	動	車
自動車・同部品・タイヤ	本	田	技	研	工
電力・ガス	大	阪	瓦	斯	
商社	住	友	商	事	

ディスクロージャーの改善が著しい企業

ディスクロージャーの改善が著しいとして評価された次の企業に称賛状を贈呈することといたしました。

食 品 キ ュ ー ピ ー

新興市場銘柄における優良企業に準ずる企業

新興市場銘柄については、優良企業に次ぐ評価を受けた次の2社をディスクロージャー優良企業に準ずる企業として称賛状を贈呈することといたしました。

ディー・エヌ・エー

ソネット・エムスリー

概 括

ディスクロージャー研究会
座長 松島 憲之

本ディスクロージャー優良企業選定は本年度で 12 回目を迎えたが、その概要は次のとおりである。

1. 評価対象

- (1) 業種別については、原則として東証 1 部上場株式時価総額を基準として選定した、建設・住宅・不動産 (19 社)、食品 (20 社)、医薬品 (13 社)、機械 (16 社)、電気・精密機器 (30 社)、自動車・同部品・タイヤ (18 社)、電力・ガス (13 社)、運輸 (14 社)、通信 (6 社)、商社 (6 社)、小売業 (16 社)、銀行 (11 社)、コンピューターソフト (17 社) の 13 業種合計 199 社を対象とした。
- (2) 新興市場銘柄については、ジャスダック、マザーズ、ヘラクレス、セントレックス、Q-Board およびアンビシャスの六つの市場に上場している企業の中で、時価総額上位であって、かつその企業を調査対象としているアナリストの数が一定以上の 50 社 (昨年度 49 社) とした。このうち 27 社は昨年度に引続き継続評価対象企業である。
- (3) 個人投資家向け情報提供については、本年度のディスクロージャー優良企業選定対象である各業種 (13 業種) および新興市場銘柄についての選定結果における上位 1 割 (小数点切上げ) の企業の 30 社 (昨年度 31 社) とした。このうち 18 社は昨年度に引続き継続評価対象企業である。
- (4) 評価対象としたディスクロージャーの状況は、原則として、平成 17 事業年度に関する企業情報 (平成 18 年 6 月末のスコアシート記入までに開示された情報を含む。) に係るものとした。

2. 評価方法等

- (1) 業種別評価基準は、各業種共通項目として、「1. 経営陣の IR 姿勢・IR 部門の機能・IR の基本スタンス」、「2. 説明会、インタビュー、説明資料における開示および四半期開示」、「3. フェアー・ディスクロージャー」、「4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示」、「5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示」の五つの分野を取り上げることとした。各分野の配点は、一定の範囲で各専門部会が決定し、また、各分野の具体的評価項目も、それぞれの専門部会の判断に基づき設定した。

この業種別評価基準（スコアシート）に基づき、証券アナリスト経験年数3年以上でかつ現在当該業種担当概ね2年以上のアナリスト、延439名が評価を行った。

- (2) 新興市場銘柄については、各評価対象企業の業種が一律でないことから、上記の5分野のうち「各業種の状況に即した自主的な情報開示」を除く4分野について9項目の具体的評価基準を設定した。この評価基準（スコアシート）に基づき、新興市場銘柄をカバーしている99名のアナリストが評価を行った。
- (3) 個人投資家向け情報提供については、「1. 個人投資家向け会社説明会の開催等」、「2. ホーム・ページにおける開示等」、「3. 事業報告書の内容」の3つの分野について16項目の具体的評価基準を設定した。この評価基準（スコアシート）のうち、7項目については、各評価対象企業にアンケート調査を実施しその回答結果を基に評点を付した。残りの9項目は、個人営業を行っている証券会社において、個人投資家向けの情報提供に携わっているアナリストから構成されている「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員が評点を付し、最終評価は両者の評点を合算して行った。
- (4) 上記の評価結果を基に、経験豊富なアナリストで構成する各専門部会（15部会計116名の委員）において慎重に分析し、各部会としての報告書の取りまとめを行った。当研究会は、この報告書をもとに各業種等の優良企業の選定を行った。

3. 評価結果

評価結果の詳細は、後掲の各専門部会の報告に示すとおりであるが、その概要は次のとおりである。

- (1) 業種別における評価平均点は、建設・住宅・不動産 63.9点（昨年度 65.1点、以下カッコ内は前回実施時）、食品 66.3点（62.0点）、医薬品 69.7点（70.7点）、機械 65.4点（65.2点）、電気・精密機器 67.5点（71.9点）、自動車・同部品・タイヤ 64.7点（66.2点）、電力・ガス 67.8点（68.5点）、運輸 71.2点（71.9点）、通信 66.8点（68.9点）、商社 70.2点（70.0点）、小売業 74.7点（76.5点）、銀行 69.9点（62.9点）、コンピューターソフト 64.9点（62.9点）であった。

業種別における業種間の評価平均点の違いは、具体的評価項目の内容および配点に業種間の相違があることも反映している。

また、前回実施時の評価平均点との比較に関しては、具体的評価項目の内容の修正、配点の見直し、対象企業の入れ替え・追加といった点を考慮する必要があり、一概に数値の増減だけでディスクロージャーの水準について前回と比較することは難しい。しかしながら、評価を行ったアナリストの意見を総合的に勘案すると、企業のディスクロージャーは全体として着実に向上していると評価することができる。

なお、昨年度から新たに取り上げた、具体的評価項目の「資本政策、株主還元策が十分に説明されているか。」については、昨年と同様に本年度もいずれの業種とも総じて評価は低く、改善を望むとのアナリストの意見が多かった。

(2) 昨年度から新たに本制度の対象として新興市場銘柄を取り上げた。

本年度の評価対象企業の評価平均点は59.4点（前回61.1点）、各社の総合評価点の標準偏差は8.1点（同8.4点）であった。

本年度は評価対象企業の相当数が昨年度と異なっていること等を勘案すると、数値上からディスクロージャーの水準について前回と比較することは難しい。しかしながら、評価実施アナリストの意見を見ると、一部の企業を除き、経営トップが自ら説明会等に出席するなど IR への取り組みが積極化していることや、四半期決算説明会を開催していることなど、総じてディスクロージャーに対する前向きな取り組み姿勢が見られることを評価する声が多かった。

(3) 資本市場の活性化を図るためには個人投資家の株式市場への一層の参入が不可欠であるとの認識が高まるとともに、近年多くの企業において、IR活動の対象として個人投資家を重視する傾向が高まっていること等を考慮し、昨年度から新たに本制度の対象として個人投資家向け情報提供を取り上げた。

本年度の評価対象企業の評価平均点は65.0点であった。

評価結果を見ると、本年度も多くの評価対象企業が、個人投資家に対する情報提供を充実するための努力を行っている様子がうかがえた。たとえば、具体的評価項目とした「個人投資家向け会社説明会を開催しているか。」については、評価対象企業30社中19社（63%）が開催しており、過去1年間の平均開催回数が4.2回に上っている。また、19社中13社（68%）が同説明会の内容をホームページに掲載し、うち10社（77%）は、配布資料に加え動画で視聴できるようになっている。また、ホームページに個人投資家向けコーナーを設けたり、事業報告書の内容について、グラフや図表を用いて、投資家が知りたいことを分かりやすく、かつ簡潔に説明するといった工夫を行っている企業が多く見られた。

最後に、本年度の作業には、各専門部会委員およびスコアシート記入者として多数の経験豊富なアナリストが参加されたが、いずれも多忙を極める中で企業ディスクロージャーの改善、充実を目指し、真摯な姿勢で精力的な作業に当たっていただいたことに対し、ここに深甚なる感謝の意を表したい。

【各専門部会報告】

15 部会

※社名は登記社名に統一し、平成18年9月末現在である。

建設・住宅・不動産

コムシスホールディングス、大成建設、大林組、清水建設、鹿島建設、西松建設、前田建設工業、戸田建設、大東建託、五洋建設、住友林業、大和ハウス工業、積水ハウス、関電工、きんでん、協和エクシオ、三井不動産、三菱地所、住友不動産
(計 19 社)

1. 評価方法等

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢・IR 部門の機能・IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	20
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	説明会等	10	38
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	5	17
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	15
計		24	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 15 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 27 社の 34 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 14 頁参照）。

本年度の総合評価平均点は、昨年度の 65.1 点より若干低下して 63.9 点となった。評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点）（以下省略）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 68%、説明会等およびフェア・ディスクロージャーが 67%、コーポレート・ガバナンス関連が 53%、自主的情報開示が 56%となり、コーポレート・ガバナンス関連および自主的情報開示を除く他の 3 分野はまずまずの評価となった。

また、具体的評価項目について見ると、最も平均得点率の高かった説明会等における受注・契約、収益のデータは各々の業態に即して記載されているか（79%）、および、その次に高得点率のフェア・ディスクロージャーにおける、経営陣および IR 部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っているか（77%）については、いずれも評価対象企業 19 社中、約半数の 10 社が得点率（評価点／配点（以下省略））80%以上の評価を受けた。

さらに、評価対象企業のうち、建設部門と住宅・不動産部門の評価結果を比較して見ると、

総合評価平均点は、建設部門の 60.4 点に対し、住宅・不動産部門は 70.0 点とかなり上回った。同様に 5 分野別の平均得点率を比較すると、経営陣の IR 姿勢等は、建設部門：64%、住宅・不動産部門：73%（以下同順）、説明会等は 63%、74%、フェア・ディスクロージャーは 64%、72%、コーポレート・ガバナンス関連は 49%、61%、自主的情報開示は 53%、61%となり、昨年度に引き続きすべての分野で住宅・不動産部門が建設部門を上回っている。両部門の平均得点の差は、昨年度の 12.1 点から 9.6 点に縮小しているが、建設部門の一層の改善が望まれる。

なお、評価対象企業の総合評価点の標準偏差は 8.0 点となり、昨年度の 7.4 点を若干上回った。

また、評価実施アナリストの意見を見ると、多くの評価対象企業において、IR 部門の機能や説明資料が充実してきている点を評価する声があった。

今後、総じて改善が望まれる点は、当該四半期の実績を年度の見通しとの関係でどのように理解すべきかについての十分な説明（平均得点率 50%）、資本政策、株主還元策の十分な説明（同 51%）、および、期中のデータについての的確な説明の付加（同 52%）などである。

(2) 上位個別企業の評価概要

大東建託（ディスクロージャー優良企業、総合評価点：75.8 点、第 1 位←3 位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（得点率〈以下省略〉76%）が第 6 位、説明会等（76%）が第 4 位、フェア・ディスクロージャー（81%）およびコーポレート・ガバナンス関連（73%）が第 1 位、自主的情報開示（73%）が第 2 位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、説明会等においては、企業分析に必要な主要な連結子会社・関連会社の個別 BS・P/L を開示して、経営動向を十分に説明していることや、受注・契約、収益のデータを各々の業態に即して記載していることなどが高く評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、経営陣および IR 部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていることや、決算発表の早期化に努力していることなどが高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、具体的な株主還元策の数値目標を明示していることなどで他の評価対象企業に比べ極めて高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、月次情報等期中の定量的データを十分に開示していることが極めて高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

コムシスホールディングス（総合評価点：74.2 点、第 2 位←9 位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（85%）が第 1 位、説明会等（67%）が第 10 位、フェア・ディスクロージャー（79%）およびコーポレート・ガバナンス関連（71%）が

第2位、自主的情報開示（75%）が第1位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、社長が説明会またはミーティングに出席し、実質的な討議に参加していることなど、全体としての経営陣の IR への前向きな取組み姿勢が高く評価された。また、IR 部門へのアクセスが容易であり、十分な情報が集積されていることなど、同部門の機能が充実していることが極めて高い評価を受けた。さらに、IR の基本スタンスにおいても評価され、この結果、この分野の四つの評価項目のすべてにおいてトップの評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、決算説明会資料や期中のデータなど有用な情報がホーム・ページでも入手が可能であることや、英文による情報提供が充実していることなどが高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中・長期計画の進捗状況、達成のための具体的方策についての説明が評価された。

自主的情報開示においては、期中の定量的データを十分に開示していることが評価された。

三菱地所（総合評価点：73.7点、第3位←1位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（80%）が第2位、説明会等（77%）が第1位、フェア・ディスクロージャー（74%）およびコーポレート・ガバナンス関連（63%）が第5位、自主的情報開示（63%）が2社同得点第4位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、全体として経営陣の IR への取組み姿勢が積極的であることや、IR 部門へのアクセスが容易であり、十分な情報が集積されていることなど、同部門の機能が充実していることが高く評価された。

説明会等においては、短信および説明資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っていること、また、部門別の利益率の実績と見通しを十分に開示していることのほか、連結セグメント情報の分け方が各々の業態に即していることなど、説明資料等が充実していることでトップの評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、投資家にとって重要と判断される事項の開示を迅速に行っていることが高い評価を受けた。

三井不動産（総合評価点：72.1点、第4位←2位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（77%）が第4位、説明会等（76%）が第2位、フェア・ディスクロージャー（76%）が第4位、コーポレート・ガバナンス関連（64%）が2社同得点第3位、自主的情報開示（56%）が2社同得点第9位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、IR 部門へのアクセスが容易であり、十分な情報が集積されていることなど、同部門の機能が充実していることが高く評価された。

説明会等においては、短信および説明資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っていることや、短信に部門別の受注または売上見通しならびに利益率の実績と見通しを記載し、かつ部門分けが各々の業態に即していることなどが高く評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、決算発表の早期化に努力していることが極め

て高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策を十分説明していることが評価された。

協和エクシオ（総合評価点：71.5点、第5位←10位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（78%）が第3位、説明会等（68%）が第9位、フェア・ディスクロージャー（79%）が第3位、コーポレート・ガバナンス関連が（61%）第6位、自主的情報開示（71%）が第3位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、社長が説明会またはミーティングに出席し、実質的な討議に参加していることなど、経営陣の IR への積極的な取り組み姿勢が評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、経営陣および IR 部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っているかについてトップの評価を受けた。また、決算説明会資料や期中のデータなど有用な情報がホーム・ページでも入手が可能であること、および、英文による情報提供が充実していることが高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、月次の受注動向など、期中の定量的データを十分に開示していることが高く評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

住友不動産（総合評価点：70.1点、第6位←4位、経営陣の IR 姿勢等（77%）第5位、説明会等（76%）第3位、コーポレート・ガバナンス関連（64%）2社同得点第3位）

同社は、説明会等において、説明資料に部門別の受注または売上見通し、利益率の実績と見通しを記載し、かつ部門分けが各々の業態に即していることなど、説明資料等における開示で高い評価を受けた。

また、コーポレート・ガバナンス関連においては、中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策を十分説明していることが評価された。

大和ハウス工業（総合評価点：67.9点、第7位←7位、説明会等（73%）第5位）

同社は、説明会等において、受注・契約、収益のデータを各々の業態に即し記載していることなど説明資料における開示が高く評価された。

以 上

平成18年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (建設・住宅・不動産)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢・IR専門の機能・IRの基本スタンス (評価項目4 (配点20点))		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示 (評価項目10 (配点38点))		3. フェア・ディスクロージャー (評価項目5 (配点17点))		4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示 (評価項目2 (配点10点))		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (評価項目3 (配点15点))		昨年度 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	大東建託	75.8	15.1	6	28.7	4	13.8	1	7.3	1	10.9	2	3
2	コムシスホールディングス	74.2	16.9	1	25.5	10	13.5	2	7.1	2	11.2	1	9
3	三菱地所	73.7	16.0	2	29.4	1	12.5	5	6.3	5	9.5	4	1
4	三井不動産	72.1	15.4	4	29.0	2	12.9	4	6.4	3	8.4	9	2
5	協和エクシオ	71.5	15.6	3	25.7	9	13.4	3	6.1	6	10.7	3	10
6	住友不動産	70.1	15.3	5	28.8	3	11.4	8	6.4	3	8.2	11	4
7	大和ハウス工業	67.9	14.1	10	27.8	5	11.4	8	5.8	7	8.8	7	7
8	五洋建設	66.7	14.5	7	26.6	7	10.9	13	5.4	9	9.3	6	5
9	積水ハウス	65.6	13.2	11	26.8	6	11.6	7	5.6	8	8.4	9	8
10	住友林業	65.0	12.7	13	25.9	8	11.9	6	5.0	11	9.5	4	5
11	大成建設	61.4	14.4	8	23.6	14	9.9	16	4.9	12	8.6	8	11
11	きんでん	61.4	14.4	8	23.8	13	11.4	8	4.7	13	7.1	13	13
13	前田建設工業	60.4	13.2	11	24.8	11	11.1	12	4.4	15	6.9	18	15
14	鹿島建設	57.5	12.5	14	23.3	15	10.2	15	4.4	15	7.1	13	12
15	関電工	57.4	12.4	15	22.1	18	11.3	11	4.6	14	7.0	16	17
16	大林組	56.8	11.1	17	22.8	16	10.7	14	5.1	10	7.1	13	14
17	戸田建設	56.5	11.4	16	24.2	12	9.2	18	4.3	17	7.4	12	16
18	西松建設	54.1	10.7	18	22.8	16	9.7	17	3.9	18	7.0	16	18
19	清水建設	46.5	7.6	19	20.4	19	8.7	19	3.9	18	5.9	19	19
	評価対象企業評価平均点	63.9	13.5		25.4		11.3		5.3		8.4		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は8.0点、昨年度は7.4点であった。

18年度評価項目および配点一覧(建設・住宅・不動産)

1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス		配点 (20)点
(1)経営陣のIR姿勢		
① 全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどのように評価しますか。		5
② 社長は説明会またはミーティングに出席し、実質的な討議に参加していますか。		5
(2)IR部門の機能		
・ IR部門が十分に機能していますか。(アクセスの容易性、情報の集積、期中の収益動向の説明等)		5
(3)IRの基本スタンス		
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。		5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示		配点 (38)点
(1)説明会、インタビューにおける開示		
① 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。		5
② 質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。		5
(2)説明資料等(短信およびその附属資料を含む)における開示		
① 部門別(注1)の受注または売上見通し(注2)が記載され、かつ部門分けは各々の業態に即したものですか。(決算短信に限る。その他説明会配付資料は除く)		5
② 部門別(注1)の利益率の実績と見通しは十分に開示されていますか。		3
③ 連結セグメント情報(注3)の分け方は各々の業態に即していますか。		3
④ 企業分析に必要な主要な連結子会社・関連会社の個別BS・P/Lが開示され、経営動向が十分に説明されていますか。		3
⑤ 受注・契約、収益のデータは各々の業態に即して記載されていますか。		3
⑥ 資産および負債・資本のデータは各々の業態に即して記載されていますか。		3
⑦ キャッシュフロー計算書の実績と見通しは分かりやすく説明されていますか。		3
(3)四半期情報開示		
・ 当該四半期の実績を年度の見通しとの関係でどのように理解すべきかについて十分説明されていますか。		5
3. フェアー・ディスクロージャー		配点 (17)点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取り組み姿勢		
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。		3
② 投資家にとって重要と判断される事項(注4)の開示は迅速に行われていますか。		3
③ 決算発表の早期化に努力していますか。		3
(2)ホーム・ページにおける情報提供		
・ 決算説明会資料や期中のデータがホーム・ページでも入手が可能ですか。		6
(3)英文による情報提供		
・ 英文による情報提供は充実していますか。		2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示		配点 (10)点
(1)資本政策、株主還元策		
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。		4
(2)目標とする経営指標等		
・ 中・長期経営計画の進捗状況、達成のための具体的方策が十分説明されていますか。		6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示		配点 (15)点
(1) 期中の定量的データは開示され、頻度は十分ですか。		5
(2) 期中のデータについての的確な説明が付加されていますか。		5
(3) 生産・施工現場、研究開発施設および展示場、開発プロジェクトの見学会等を積極的に実施していますか。		5

(注1)「部門別」については、業態により・・
 ゼネコン:国内・海外および官・民・土・建・その他
 住宅:戸建て・アパート・一般建築・分譲・賃貸・その他
 不動産:分譲・賃貸・建設・委託業務・その他
 専門工事:電気ないし第一種通信事業会社向け・一般向け設備工事・その他建設工事・サービス・その他
 ・・と読み替えて下さい

(注2)「受注または売上見通し」については、業態により・・
 建設・住宅については受注・売上げの見通し
 不動産については売上げの見通し

(注3)「連結セグメント情報」については、業態により・・
 ゼネコン:建設、分譲、賃貸、その他
 住宅:住宅建築、一般建築、分譲、賃貸、その他
 不動産:分譲、賃貸、建設、委託業務、その他
 専門工事:通信ないし電気工事、一般工事、サービス、その他

(注4)投資家にとって重要と判断される事項は、東証のTDIネットへの登録を含む下記のような事項です。
 例えば・・受注動向、指名停止、訴訟、労災、災害、環境汚染、取引先の倒産、海外市場での変動、大型プロジェクトの事業費概算、資産の取得・売却、新技術・新商品開発、雇用政策の変更、バランスシートおよび債務保証における大きな変動等である

建設・住宅・不動産専門部会委員

部会長	高木 敦	モルガン・スタンレー証券
部会長代理	小林 俊二	住友信託銀行
	石本 哲也	三井住友アセットマネジメント
	大谷 洋司	クレディ・スイス証券
	沖野 登史彦	UBS証券
	齋藤 健	みずほ証券
	中川 雅人	大和総研

評価実施アナリスト（34名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない2名を含む〉）

穴井 宏和	ゴールドマン・サックス証券会社 東京支店	小松 雅彦	シュローダー投信投資顧問
荒木 健次	農林中金全共連アセットマネジメント	齋藤 健	みずほ証券
荒関 誠人	みずほ証券	アンドレアス・シュスター	加エフ証券会社 東京支店
新目 一也	住友信託銀行	杉山 和宏	ティ・アント・デイ・アセットマネジメント
石本 哲也	三井住友アセットマネジメント	鈴木 直樹	シュローダー投信投資顧問
今井 るみ子	ソエティ・エネラルアセットマネジメント	高木 敦	モルガン・スタンレー証券
大谷 洋司	クレディ・スイス証券	竹内 和弥	新光証券
岡谷 貴	新光投信	中川 雅人	大和総研
沖野 登史彦	UBS証券会社	長野 義隆	三菱UFJ信託銀行
小澤 公樹	三菱UFJ証券	二瓶 博和	クレディ・スイス投信
笠谷 亘	明治トランスナー・アセットマネジメント	秀 一浩	トイチェアセット・マネジメント
川嶋 宏樹	大和総研	増田 悦佐	JPモルガン証券
河内 宏文	みずほインバスターズ証券	松本 淳平	大和証券投資信託委託
岸 恭彦	みずほインバスターズ証券	水谷 敏也	三菱UFJ証券
木村 和広	ニッセイアセットマネジメント	村端 誠	三菱UFJ信託銀行
小林 俊二	住友信託銀行	若林 祐二	富国生命投資顧問

食 品

日清製粉グループ本社、山崎製パン、明治乳業、ヤクルト本社、日本ハム、アサヒビール、麒麟麦酒、宝ホールディングス、コカ・コーラウエストホールディングス、伊藤園、キリンビバレッジ、キッコーマン、味の素、キューピー、ハウス食品、カゴメ、ニチレイ、東洋水産、日清食品、日本たばこ産業 (計 20 社)

1. 評価方法等

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢・IR 部門の機能・IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	32
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	説明会等	12	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	7	18
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	10
計		29	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 22 頁参照

(2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 25 社の 25 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである (評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 21 頁参照)。

本年度の総合評価平均点は昨年度の 62.0 点より 4.3 点上昇し 66.3 点となり、評価対象企業 20 社中 19 社が昨年度を上回った。評価項目の 5 分野について平均得点率 (評価対象企業の平均点/配点 (以下省略)) を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 65%、説明会等が 69%、フェア・ディスクロージャーが 76%、コーポレート・ガバナンス関連が 56%、自主的情報開示が 52%となり、すべての分野で昨年度を上回った。また、コーポレート・ガバナンス関連および自主的情報開示を除く 3 分野はまずまずの評価となった。

さらに、具体的評価項目について見ると、6 項目が平均得点率で 80%を上回っているが、特に、説明会等における、資料に次期の事業計画 (営業利益、売上総利益率、設備投資額、減価償却費等) を十分に記載しているか (平均得点率 89%) については、15 社が得点率 ([評価点/配点] (以下省略)) 90%以上の高い評価となった。

なお、各評価対象企業の総合評価点の標準偏差は昨年度の 9.9 点とほぼ同じの 10.0 点であった。

また、評価実施アナリストの意見を見ると、総じて説明資料が充実してきていることなどを評価する声があった。一部の評価企業を除き今後総じて改善が望まれる点は、ホーム・ページにおける有用な情報提供のうち、決算説明会等の状況（平均得点率 35%）、および工場見学会や主要事業に関する説明会などの前向きな開催（同 49%）などである。また、下位評価企業を中心に改善が望まれる点として、説明会等における経営陣の経営方針等についての十分な説明（同 64%）などが挙げられる。

(2) 上位個別企業の評価概要

アサヒビール（ディスクロージャー優良企業 [4 回連続]、総合評価点：84.5 点、第 1 位←1 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉80%）が第 2 位、**説明会等**（92%）が第 1 位、**フェア・ディスクロージャー**（92%）が第 2 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（78%）が第 2 位、**自主的情報開示**（71%）が第 3 位となった。

同社は、経営陣と IR 部門が連携して投資家のニーズに基づいた情報発信に努めている。この姿勢が総合的な高い評価につながった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、IR の基本スタンスとして、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮をしていることが極めて高く評価されたほか、IR 部門の機能が充実していることも高く評価された。

説明会等においては、決算短信および同時配布資料が充実していることなどが極めて高い評価を受けた。このほか、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていることも高く評価された。この結果、この分野の 12 の具体的評価項目のうち 9 項目について 90%以上の極めて高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページに掲載されている決算説明会等の状況が有用であることなどが極めて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策に対する考え方についての説明が高く評価された。

自主的情報開示においては、有益な月次情報をタイムリーにかつ積極的に開示していることで唯一満点の評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

麒麟麦酒（総合評価点：84.2 点、第 2 位←2 位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（82%）が第 1 位、**説明会等**（89%）が第 2 位、**フェア・ディスクロージャー**（94%）が第 1 位、**コーポレート・ガバナンス関連**（71%）が第 5 位、**自主的情報開示**（73%）が第 2 位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、IR 部門に経営情報が集約されており担当者とは有益なディスカッションができることや、同部門を通して他部門へのインタビューが容易であることなど、同部門の機能が充実していることが高く

評価された。また、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮をしていることも高い評価を受けた。

説明会等においては、決算説明会の説明や質疑応答が充実していることのほか、決算短信および同時配布資料における十分な開示などが極めて高く評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページにおける有用な情報提供（決算説明会等の状況など4項目）につき、いずれも極めて高い得点率となった。

自主的情報開示においては、業界動向等を積極的に開示していることが極めて高い評価を受けた。

カゴメ（総合評価点：77.9点、第3位←6位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（73%）が第4位、説明会等（81%）が第5位、フェア・ディスクロージャー（87%）が第4位、コーポレート・ガバナンス関連（76%）が第3位、自主的情報開示（69%）が第4位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、説明会等における社長の経営方針の説明が、説得力が高く極めて明快であることが評価された。また、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮をしていることも極めて高い評価を受けた。

説明会等においては、説明資料に主な連結対象会社の総資産額および純資産額が十分に記載されているかの項目は、全体的に得点率が低い（平均得点率28%）中であって、高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、経営陣およびIR部門が情報開示に不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていることなどフェア・ディスクロージャーへの取り組み姿勢でトップの評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策に対する考え方についての説明が高く評価された。

自主的情報開示においては、トマト菜園等の見学会や、市場ニーズを的確に捉えた主要事業部門説明会が評価された。

伊藤園（総合評価点：74.8点、第4位←3位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（78%）が第3位、説明会等（75%）が第6位、フェア・ディスクロージャー（76%）が2社同得点第12位、コーポレート・ガバナンス関連（82%）が第1位、自主的情報開示（57%）が2社同得点第7位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、説明会等における社長の中長期ビジョンの説明が、分かりやすくかつ説得力があることが高い評価を受けた。また、赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していることも評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策に対する考え方についての説明、および、重視する経営指標とその目標、それを採用する理由、目標達成の具体的方策と進捗状況の説明でトップの高い評価を受けた。

コカ・コーラウエストホールディングス（総合評価点：73.6点、第5位←5位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（68%）が第7位、説明会等（85%）が第4位、フェア・ディスクロージャー（82%）が2社同得点第7位、コーポレート・ガバナンス関連（55%）が2社同得点第10位、自主的情報開示（63%）が第6位となった。

同社は、説明会等においては、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示していることが極めて高く評価された。このほか、決算短信および同時配布資料における十分な開示なども高い評価を受けた。

以上のほか、自主的情報開示において、業界動向等を積極的に開示していることや、有益な月次情報をタイムリーにかつ積極的に開示していることが極めて高い評価を受けた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

キリンビバレッジ（総合評価点：73.1点、第6位←3位、説明会等（85%）第3位、自主的情報開示（65%）第5位）

同社は、特に、説明会等において、説明資料に、営業外損益および特別損益の内訳の実績と見通しを十分に記載していることなどが極めて高い評価を受けた。

また、自主的情報開示においては、有益な月次情報をタイムリーにかつ積極的に開示していることが極めて高く評価された。

同社は、これまで高水準のディスクロージャーを維持してきたが、上場廃止後もこのような姿勢を維持することを期待するとのアナリストの声があった。

ニチレイ（総合評価点：70.9点、第7位←7位）

同社は、水産事業について説明会を開催し、特に業績見通しに不透明感があった部門について投資家へ積極的な情報開示を行ったIRスタンスを高く評価するアナリストの声があった。

キューピー（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点：69.4点[昨年度比+13.3点]、第8位←13位）

同社は、決算説明会における説明および質疑応答が十分満足できるものであることに加え、決算説明会の早期開催につき努力するなど、説明会、インタビューにおける開示で昨年度を大幅に上回る高い評価を受けた。また、ホーム・ページにおける有益な情報提供も極めて高い評価を受けた。さらに、マーケットニーズに合致した、工場見学会や主要事業に関する説明会を継続的に開催していることが高い評価を受けるなど、多くの面でディスクロージャーの著しい改善を図った。同社のこのような努力は高く評価できるものと認められる。

以 上

平成18年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (食品)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)		1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRのタレント		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示		3. フェア・ディスタンスに関する情報		4. コーポレート・ガバナンスに関する情報		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示		昨年度 順位
		評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	アサヒビール	84.5	2	25.6	2	27.5	1	16.5	2	7.8	2	7.1	3	1
2	麒麟麦酒	84.2	1	26.3	1	26.6	2	16.9	1	7.1	5	7.3	2	2
3	カゴメ	77.9	4	23.4	4	24.4	5	15.6	4	7.6	3	6.9	4	6
4	伊藤園	74.8	3	24.8	3	22.4	6	13.7	12	8.2	1	5.7	7	3
5	コカ・コーラウエストホールディングス	73.6	7	21.6	7	25.4	4	14.8	7	5.5	10	6.3	6	5
6	キリンビバレッジ	73.1	10	20.7	10	25.6	3	14.8	7	5.5	10	6.5	5	3
7	ニチレイ	70.9	6	22.9	6	21.0	10	15.3	5	6.1	7	5.6	9	7
8	キュービー	69.4	11	20.3	11	21.8	7	16.0	3	5.6	9	5.7	7	13
9	日本たばこ産業	68.7	8	21.2	8	21.3	8	14.6	9	6.4	6	5.2	10	8
10	日清製粉グループ本社	66.1	5	23.2	5	19.2	14	12.2	15	7.2	4	4.3	13	12
11	宝ホールディングス	65.1	13	20.2	13	21.1	9	14.9	6	4.8	14	4.1	15	9
12	キッコーマン	64.2	9	20.8	9	19.9	12	14.6	9	5.3	12	3.6	17	11
13	味の素	62.9	15	18.6	15	19.7	13	13.7	12	5.8	8	5.1	11	10
14	日本ハム	61.9	13	20.2	13	19.0	15	9.8	20	5.2	13	7.7	1	14
15	ヤクルト本社	59.7	11	20.3	11	20.3	11	10.3	19	3.9	17	4.9	12	15
16	山崎製パン	57.2	16	18.5	16	17.9	16	13.8	11	3.1	20	3.9	16	16
17	明治乳業	54.4	17	18.3	17	16.4	17	12.0	16	4.2	16	3.5	18	20
18	ハウス食品	53.3	18	17.8	18	16.1	18	12.8	14	3.8	18	2.8	20	19
19	日清食品	52.4	20	17.0	20	14.9	20	11.4	17	4.8	14	4.3	13	18
20	東洋水産	50.8	19	17.3	19	15.8	19	10.9	18	3.7	19	3.1	19	17
	評価対象企業評価平均点	66.3	21.0			20.8		13.7		5.6		5.2		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は10.0点、昨年度は9.9点であった。

18年度評価項目および配点一覧(食品)

1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス	配点 (32)点
(1) 経営陣のIR姿勢	
・説明会等における経営陣の経営方針の説明は有益(分かり易さ、株式市場のニーズに合致)ですか。	10
(2) IR部門の機能	
① IR担当者と有益(分かり易さ、株式市場のニーズに合致)なディスカッションができますか。	10
② 経営トップおよび他部門へのインタビューが容易ですか。	4
(3) IRの基本スタンス	
① 経営分析に必要な重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	4
② 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	配点 (30)点
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会が決算発表日を含めて3営業日以内に実施されていますか。 されている:3点 されていない:0点	3
② 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分満足できるものですか。	3
(2) 説明資料等(短信およびその附属資料を含む)における開示	
① 決算短信および同時配布資料における開示は十分に行われていますか。	8
② 次期の事業計画(営業利益、売上総利益率、設備投資額、減価償却費等)が十分に記載されていますか。	2
③ BSの主要項目の増減理由は十分に記載されていますか。	2
④ 販売費および一般管理費の主要項目(人件費、地代家賃、広告宣伝費など)の実績と見通しは十分に記載されていますか。	2
⑤ 営業外損益および特別損益の内訳の実績と見通しは十分に記載されていますか。	2
⑥ カテゴリー別、チャンネル別、容器別、家庭用・業務用別等の各社の実情に応じた売上区分が明示されていますか。	1
⑦ 利益増減要因が十分に記載されていますか。	1
⑧ 主な連結対象会社または詳細なセグメント別の売上、営業利益、経常利益等が十分に記載されていますか。	1
⑨ 主な連結対象会社または詳細なセグメント別の総資産額および純資産額が十分に記載されていますか。	1
(3) 四半期情報開示	
・四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	4
3. フェア・ディスクロージャー	配点 (18)点
(1) フェア・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	4
② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績変動、合併・提携、事故・災害、リスク情報等)の開示は遅滞なく、かつ十分に説明されていますか。(当該事項の発生がなかった場合も満点評価とする。)	4
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ホームページを利用して以下の各項目について有用な情報の提供を行っていますか。	
A 過去の長期財務データ	2
B 決算説明会の資料	2
C 決算説明会等の状況	2
D 事業戦略	2
(3) 英文による情報提供	
・決算短信およびアニュアルレポートなどの英文情報は遅滞なく作成され、その内容は充実していますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10)点
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていますか。	5
(2) 目標とする経営指標等	
・重視する経営指標とその目標、それを採用する理由、目標達成の具体的方策と進捗状況およびその監視機構等が十分説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (10)点
① 有益な月次情報がタイムリーかつ積極的に開示されていますか。(Eメール、FAX、ホームページ等で)	2
② 業界動向等を積極的に開示していますか。	2
③ 工場見学会や主要事業に関する説明会などの開催に前向きですか。	6

食品専門部会委員

部会長	三浦 信義	日興シイグループ証券
部会長代理	山崎 徳司	大和総研
	沖平 吉康	野村證券
	佐治 広	みずほ証券
	下田 曜弘	住友信託銀行
	藤井 洋子	ユー・ビー・エス・グローバル・アセット・マネジメント
	矢野 節子	みずほ信託銀行

評価実施アナリスト（25名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない1名を含む〉）

肥土 恵子	三井住友アセットマネジメント	角田 成宏	損保ジャパン・アセットマネジメント
有賀 泰夫	三菱UFJ証券	角田 律子	リルンチ日本証券
岩田 俊幸	新光証券	勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント
沖平 吉康	野村證券	出村 泰三	モルガン・スタンレー証券
倉内 清和	安田投信投資顧問	長崎 真介	第一勧業アセットマネジメント
鯉住 彰人	MU投資顧問	永島 博	ティ・アント・ティ・アセットマネジメント
香西 隆弘	大和証券投資信託委託	藤井 洋子	ユー・ビー・エス・グローバル・アセット・マネジメント
小島 直人	三菱UFJ投信	藤田 潤	大和住銀投信投資顧問
権藤 貴志	農林中金全共連アセットマネジメント	三浦 信義	日興シイグループ証券
佐治 広	みずほ証券	矢野 節子	みずほ信託銀行
下田 曜弘	住友信託銀行	山崎 徳司	大和総研
高木 章子	富士投信投資顧問	横山 瑞徳	ソシエティ・エネラルアセットマネジメント

医薬品

武田薬品工業、アステラス製薬、大日本住友製薬、塩野義製薬、田辺製薬、中外製薬、エーザイ、小野薬品工業、久光製薬、大正製薬、参天製薬、テルモ、第一三共
(計 13 社)

1. 評価方法等

当業種は、昨年度まで2年間優良企業選定の評価を一時休止していたが、本年度再開し、評価対象企業として新たに久光製薬を追加し、計13社のディスクロージャー状況を評価した。なお、前回の評価対象企業のうち、合併により山之内製薬、藤沢薬品工業はアステラス製薬に、三共、第一製薬は第一三共となり、また、大日本製薬は大日本住友製薬となった。

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢・IR 部門の機能・IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	24
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	説明会等	9	42
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	4	12
計		23	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 29 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 30 社の 34 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 28 頁参照）。

本年度の総合評価平均点は 69.7 点となり、下位評価企業を除き総じて高水準の評価結果となった。評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 64%、説明会等が 70%、フェア・ディスクロージャーが 83%、コーポレート・ガバナンス関連が 66%、自主的情報開示が 71%であった。

また、各評価対象企業の総合評価点を見ると、上位の 5 社は 70 点を上回って（第 1 位は 84.0 点）おり、中位企業の 4 社は 69 点台の中での僅差、その他下位企業の 4 社は 60 点台の前半から 50 点台の後半となっており、概ね三つのグループに評価結果が分かれている。なお、下位評価企業グループにあっては、上位グループとの格差があり、これらの企業各社

の改善のための努力が期待される。

さらに、具体的評価項目について見てみると、最も平均得点率の高かったフェア・ディスクロージャーの分野における、ホーム・ページを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等）を行っているかの項目（平均得点率 90%）については、評価対象企業 13 社中、11 社の得点率（評価点/配点〈以下省略〉）が 90%以上であった。また、次に高い評価となった同分野の経営陣および IR 部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っているか（平均得点率 83%）についても、10 社が 80%以上の得点率となっている。

評価実施アナリストの意見を見ると、四半期情報を含む説明資料等の内容が充実してきていることや、投資家が注目している新薬の情報のタイムリーな開示などを評価する声があり、また、大阪に本社がある企業につき東京での取材が可能になってきていることも評価されている。

今後、なお一層の改善が望まれる項目としては、下位評価企業を中心に、全体としての経営陣の IR への取組み姿勢（平均得点率 62%）、四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催し、かつ、付属資料等を使って分かりやすく説明しているか（同 61%）および、会社主催の注目される事業部ないし研究所を紹介する有益な機会を設定しているか（同 62%）などである。

(2) 上位個別企業の評価概要

エーザイ（ディスクロージャー優良企業、総合評価点：84.0 点、第 1 位←3 位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（得点率〈以下省略〉82%）、説明会等（82%）、フェア・ディスクロージャー（90%）およびコーポレート・ガバナンス関連（91%）が第 1 位、自主的情報開示（82%）が 2 社同得点第 1 位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップが自ら積極的に株主・投資家等と接触する努力をしていることなど、全体としての経営陣の IR 姿勢が極めて高く評価された。また、IR 部門につきアクセスの容易性など、その機能が充実していることも高い評価を受けた。加えて、業績動向にかかわらず IR 姿勢が一貫していることなど、IR の基本スタンスでも評価され、この分野のすべての項目でトップの評価を受けた。

説明会等においては、所在地別セグメント情報を、実態を表し分析に有用な形でわかりやすく説明していることなど、説明会およびインタビュー等における開示でトップの評価を受けた。また、説明会資料等の付属資料が短信と同時に閲覧できることや、R&D のパイプラインの状況について十分に記載するなど、決算の説明資料による開示においてもトップの評価を受けた。加えて、四半期ごとに説明会を開催し、社長が出席して説明を行うなど、有益な四半期情報を適切かつタイムリーに開示していることでも極めて高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、アニュアル・レポートなどの英語による情報提供が日本語による情報提供の内容と同水準であることで満点と評価されるなど、この分野においてもトップの極めて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、株主還元策について十分に説明していることや、中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策について十分に説明していることがいずれも高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、アニュアルレポートや環境報告書などの内容が充実していることのほか、研究開発に関する質問に十分対応していることなどが高く評価された。

この結果、同社は、5分野のすべてにおいて、また、全評価項目 23 のうち 17 項目においてトップの評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

武田薬品工業（総合評価点：78.9点、第2位←7位）

同社は、経営陣の IR 姿勢等（74%）が 2 社同得点第 2 位、説明会等（77%）が第 3 位、フェア・ディスクロージャー（88%）が 2 社同得点第 3 位、コーポレート・ガバナンス関連（83%）が第 2 位、自主的情報開示（82%）が 2 社同得点第 1 位となった。

分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、IR 部門につき、情報の十分な集積やアクセスの容易性など、その機能が充実していることが評価された。また、業績動向にかかわらず IR 姿勢が一貫しており、前年に比べて改善していることも評価された。

説明会等においては、研究開発内容についての技術的質問に対して十分に対応していることや、製品および技術の導出入について十分に説明していることなどが高い評価を受けた。また、説明資料に、R&D のパイプラインの状況について十分に記載していることなども評価された。加えて、四半期ごとに業績動向に関するを開催し、かつ、付属資料等を使って分かりやすく説明していることも高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、投資家にとって重要と判断される事項を遅滞なく公平に開示していることが高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策について十分に説明していることなどが高く評価された。

自主的情報開示においては、投資家に注目される医学情報ないし研究所を紹介する機会を設け、それが有益であったことが高い評価を受けた。また、Eメールを利用して有用な情報提供を行っていることも極めて高く評価された。

アステラス製薬（総合評価点：78.2点、第3位、合併による新規対象企業）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（74%）が 2 社同得点第 2 位、説明会等（78%）が第 2 位、フェア・ディスクロージャー（88%）が 2 社同得点第 3 位、コーポレート・ガバナンス関連（78%）および自主的情報開示（79%）が第 3 位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、全体として経営陣が IR へ前向きに取り組んでいるほか、IR 部門もその機能を十分に果たしていることが評価された。

説明会等においては、研究開発内容についての技術的質問に対して十分に対応していることや、製品および技術の導出入について十分に説明していることなどが高い評価を受けた。また、四半期ごとの業績動向に関してを開催し、かつ、付属資料等を使って分かりやすく説明していることが高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、投資家にとって重要と判断される事項を遅滞なく公平に開示していることが高く評価された。

自主的情報開示においては、Eメールを利用して有用な情報提供を行っていることや、研究開発と知的財産に関する質問に十分に対応していることが高く評価された。

テルモ（総合評価点：75.9点、第4位←3位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（73%）および説明会等（74%）が第4位、フェア・ディスクロージャー（89%）が第2位、コーポレート・ガバナンス関連（72%）および自主的情報開示（77%）が第5位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、経営陣のIRに対するスタンスが前向きであることなど、全体としての経営陣のIR姿勢が評価された。

説明会等においては、P/L、BSおよびCFの主要項目の変動要因について定量的に十分説明していることや、所在地別および事業別セグメント情報を、実態を表し分析に有用な形でわかりやすく十分に説明していることなどが高く評価された。また、四半期ごとの説明会を早期に開催し、有益な情報をタイムリーに開示していることも極めて高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていることが極めて高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、投資家に注目される工場や研究所の見学会を開催し、それらが有益であったことが高い評価を受けた。

第一三共（総合評価点：73.3点、第5位、合併による新規対象企業）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（69%）が第5位、説明会等（71%）が第6位、フェア・ディスクロージャー（83%）が第7位、コーポレート・ガバナンス関連（77%）が第4位、自主的情報開示（76%）が第6位となった。

具体的項目について見ると、経営陣のIR姿勢等において、経営陣がIRに前向きであり、自ら経営方針等を積極的に説明していることなどが評価された。また、説明会等において、研究開発内容についての技術的質問に対して十分に対応していることや、製品および技術の導出入について十分に説明していることなどが高い評価を受けた。

以 上

平成 18 年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (医薬品)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	(単位:点)												前回順位
			1. 経営陣の IR 姿勢・IR 専門の機能・IR の基本スキILLS [評価項目 4] (配点 24 点)		2 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示 [評価項目 9] (配点 42 点)		3. フェア・ディスクロージャー [評価項目 4] (配点 12 点)		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 [評価項目 2] (配点 10 点)		5. 各業種に即した自主的な情報開示 [評価項目 4] (配点 12 点)		評価点	順位	
1	エーザイ	84.0	19.7	1	34.6	1	10.8	1	9.1	1	9.8	1	3		
2	武田薬品工業	78.9	17.7	2	32.5	3	10.6	3	8.3	2	9.8	1	7		
3	アステラス製薬	78.2	17.7	2	32.6	2	10.6	3	7.8	3	9.5	3	未実施		
4	テルモ	75.9	17.6	4	31.2	4	10.7	2	7.2	5	9.2	5	3		
5	第一三共	73.3	16.6	5	29.9	6	10.0	7	7.7	4	9.1	6	未実施		
6	塩野義製薬	69.9	16.2	6	29.3	8	9.3	10	6.4	9	8.7	7	10		
6	中外製薬	69.9	14.5	9	29.6	7	10.2	6	6.3	10	9.3	4	5		
8	田辺製薬	69.8	14.6	8	30.6	5	9.8	8	6.8	6	8.0	9	8		
9	参天製薬	69.5	15.6	7	28.5	9	10.4	5	6.8	6	8.2	8	13		
10	大日本住友製薬	63.7	13.8	11	26.6	11	9.5	9	6.1	11	7.7	10	未実施		
11	久光製薬	60.7	14.1	10	24.2	12	8.8	13	6.5	8	7.1	11	未実施		
12	大正製薬	57.1	13.0	12	24.0	13	9.3	10	3.8	12	7.0	12	12		
13	小野薬品工業	55.5	9.4	13	26.8	10	9.0	12	3.4	13	6.9	13	15		
	評価対象企業評価平均点	69.7	15.4		29.3		9.9		6.6		8.5				

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は 8.6 点、前回(平成 15 年度)は 6.7 点であった。

18年度評価項目および配点一覧(医薬品)

1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス	配点 (24点)
(1) 経営陣のIR姿勢について	
・全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどのように評価しますか。 平均的評価=4点	8
(2) IR部門の機能	
・IR部門が十分に機能していますか。(アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報開示の手法等) 平均的評価=4点	8
(3) IRの基本スタンス	
① 業績動向にかかわらずIR姿勢は一貫しており、前年に比べて改善していますか。	4
② アナリストの訪問取材に対し、サイレントピリオドを明確にし、かつ短縮するような努力がされていますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	配点 (42点)
(1) 説明会およびインタビュー等における開示	
① P/L、BSおよびCFの主要項目の変動要因が定量的に十分説明されていますか。	5
② 研究開発内容の技術的質問に十分に対応してくれますか。	5
③ 製品および技術の導出入について十分に説明されていますか。	5
④ 所在地別および事業別セグメント情報が、実態を表し分析に有用な形でわかりやすく十分に説明されていますか。	5
(2) 決算の説明資料による開示	
① 説明会資料等の付属資料が短冊と同時に関覧できますか。	5
② R&Dのパイプラインの状況(海外を含む)について十分に記載されていますか。 平均的評価=3点	6
③ P/L、BSおよびCFの主要項目の勘定科目の変動要因が定量的に記載されていますか。	6
(3) 四半期情報開示	
① 四半期ごとに業績動向に関する説明会または電話会議を開催し、かつ、付属資料等を使って分かりやすく説明していますか。 十分である=3点 開催のみ=2点 開催なし=0点	3
② 有益な四半期情報が適切かつタイムリーに開示されていますか。	2
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (12点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	4
② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績変動、新薬開発・審査状況、新技術、合併・提携等)の開示が、遅滞なく十分に、かつ公平に行われていますか。	4
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ホームページを利用して有用な情報提供(決算説明会の資料および内容、その他対外公表資料等)を行っていますか。	2
(3) 英文による情報提供	
・英語による情報提供と日本語による情報提供の内容は同水準になっていますか。(ニュース・リリース、アニュアル・レポートなど)	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(2) 目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (12点)
(1) 会社主催の注目される事業部ないし研究所を紹介する機会を設けており、それは有益でしたか。	3
(2) アニュアルレポート、ファクトブック、環境報告書、知的財産報告書や統計補足資料などの内容は充実していますか。	3
(3) Eメールを利用して有用な情報提供を行っていますか。	3
(4) 研究開発と知的財産に関する質問に十分対応してくれますか。	3

医薬品専門部会委員

部会長	田中 洋	みずほ証券
部会長代理	中沢 安弘	三菱UFJ証券
	稲垣 善之	野村アセットマネジメント
	酒井 文義	クレディ・スイス証券
	三好 昌武	リクルーチ日本証券
	山口 秀丸	日興シティグループ証券

評価実施アナリスト（34名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない1名を含む〉）

赤羽 高	東海東京調査センター	永島 博	ティ・アント・ティ・アセットマネジメント
石野 広治	明治安田生命保険	中西 美恵子	MU投資顧問
稲垣 善之	野村アセットマネジメント	兵庫 真一郎	三菱UFJ信託銀行
大江 祥雄	大和証券投資信託委託	広住 勝朗	大和総研
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント投信	藤田 潤	大和住銀投信投資顧問
北村 友和	ビー・エヌ・ピー・バリア証券会社 東京支店	正木 裕二	損保ジャパン・アセットマネジメント
久保山 浩之	みずほ信託銀行	榊添 憲司	ドイツ証券
酒井 文義	クレディ・スイス証券	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
阪倉 宏志	三菱UFJ証券	馬目 俊一郎	コスモ証券 東京支店
澤田 信明	J.P.モルガン信託銀行	三田 万世	モルガン・スタンレー証券
梶田 和久	三菱UFJ証券	宮内 久美	大和総研
多田 博紀	みずほインベストメント証券	三好 昌武	リクルーチ日本証券
田中 洋	みずほ証券	村岡 真一郎	モルガン・スタンレー証券
田村 円香	シュローダー投信投資顧問	山口 秀丸	日興シティグループ証券
勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント	横山 瑞徳	ソシエティジェネラルアセットマネジメント
長崎 真介	第一勧業アセットマネジメント	依田 俊英	リーマン・ブラザーズ証券会社 東京支店
中沢 安弘	三菱UFJ証券		

機 械

アマダ、SMC、小松製作所、住友重機械工業、日立建機、クボタ、小森コーポレーション、荏原製作所、ダイキン工業、栗田工業、日本精工、NTN、ジェイテクト、THK、ファナック、三菱重工業 (計 16 社)

1. 評価方法等

当業種は、昨年度は優良企業選定の評価を一時休止していたが、本年度再開し、評価対象企業として新たに住友重機械工業、日立建機の 2 社を追加し、計 16 社のディスクロージャー状況を評価した。なお、前回の評価対象企業のうち、豊田工機は合併によりジェイテクトとなった。

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢・IR 部門の機能・IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	25
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	説明会等	7	37
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	6	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	4	13
計		23	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 36 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 31 社の 34 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 35 頁参照）。

本年度の総合評価平均点は、65.4 点となった。評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 76%、説明会等が 62%、フェア・ディスクロージャーが 63%、コーポレート・ガバナンス関連が 68%、自主的情報開示が 54% となり、自主的情報開示を除いた他の 4 分野はまずまずの評価となった。

さらに、具体的評価項目について見ると、全評価項目 23 のうち 13 項目の平均得点率は 70% 以上となっており、最も高かったフェア・ディスクロージャーにおける、投資家にとって重要と判断される事項の遅滞のない開示（平均得点率 90%）の項目については、評

評価対象企業 16 社中 12 社の得点率(評価点/配点(以下省略))が 90%以上であった。一方、5 項目の平均得点率が 50%以下となり、うち 3 項目は、自主的情報開示の分野であった。

今後、改善が特に強く望まれる項目としては、四半期ごとの業績動向に関する説明会(電話会議を含む)の開催(平均得点率 19%・本年度 3 社のみ開催)、および、ホーム・ページへの決算説明会等における質疑応答の内容の掲載(同 6%・同 1 社のみ掲載)である。そのほか一部の企業を除き、日本語のアンニュアルレポートの作成(同 44%・同 7 社のみ作成)、および、E-mail を利用しての有用な情報提供(同 41%)などの改善が望まれる。

また、アナリストの意見を見ると、経営トップが積極的に IR へ取り組み、自ら決算説明会等へ出席したり、明確に経営戦略を語ったりしていることや、説明資料等の内容の充実を評価する声があった。

ちなみに、本年度の評価対象企業の総合評価点の標準偏差は 11.3 点となった。また、総合評価点が 60 点を下回った下位評価企業 5 社の総合評価点の平均点と上位評価企業 5 社の同平均点を比較してみると、上位グループの 77.1 点に対し、下位グループは 51.6 点と、25.5 点の大きな格差になっており、これら下位グループ企業の一層の改善のための努力が期待される。

(2) 上位個別企業の評価概要

小松製作所(ディスクロージャー優良企業[2 回連続]、総合評価点: 83.3 点、第 1 位←1 位)

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等(得点率(以下省略) 90%)が第 1 位、説明会等(72%)が第 4 位、フェア・ディスクロージャー(97%)、コーポレート・ガバナンス関連(79%)および自主的情報開示(90%)が第 1 位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップが決算説明会において経営戦略や業界動向等を明確に説明していることが極めて高い評価を受けた。また、IR 部門の対応が積極的であることや、十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができることなど、同部門の機能が充実していることが高く評価された。

説明会等においては、事業別損益の実績と見通しやリスク情報(為替、資材価格等)について十分に説明をしていることなど、説明資料等における開示でトップの評価を受けたほか、決算説明会等における説明や質疑に対する回答が十分満足できるものであることなど説明会、インタビューにおける開示でもトップの評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページに掲載した決算説明会等の質疑応答が充実していることで唯一満点の評価となるなど、ホーム・ページにおける情報提供でトップの評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、株主還元策(配当政策等)について説明していることなどが評価された。

自主的情報開示においては、会社主催の工場見学、技術説明会を実施し、かつその内容が充実していることが高い評価を受けた。また、日本語のアンニュアルレポートを作成していることも評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

ダイキン工業（総合評価点：79.1点、第2位←4位）

同社は、経営陣の IR 姿勢等（82%）が2社同得点第6位、説明会等（78%）が第2位、フェア・ディスクロージャー（76%）が2社同得点第2位、コーポレート・ガバナンス関連（77%）および自主的情報開示（83%）が第2位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、説明会等においては、四半期ごとに業績動向に関する説明会あるいは電話会議を開催し、経営実態に即した十分な情報開示を行っていることが高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、投資家にとって重要と判断される事項（買収、リスク情報等）の開示を遅滞なく行い、また、これについての質問への対応や情報開示の内容が十分であることなど、フェア・ディスクロージャーへの取組み姿勢が極めて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中・長期の経営目標および目標達成のための具体的戦略について十分に説明していることが高く評価された。

自主的情報開示においては、会社主催の工場見学等を実施し、かつその内容が充実していることのほか、日本語のアンニュアルレポートを作成していることが評価された。

NTN（総合評価点：76.6点、第3位←7位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（81%）が第8位、説明会等（78%）が第3位、フェア・ディスクロージャー（74%）が2社同得点第6位、コーポレート・ガバナンス関連（73%）が3社同得点第5位、自主的情報開示（71%）が第4位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、説明会等においては、決算説明会における説明が十分であることが高く評価されたほか、四半期ごとに業績動向に関する説明会あるいは電話会議を開催し、経営実態に即した十分な情報開示を行っていることが高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中・長期の経営目標および目標達成のための具体的戦略について十分に説明していることが高く評価された。

自主的情報開示においては、日本語のアンニュアルレポートを作成していることなどが評価された。

以上のほか、経営陣の IR 姿勢等において、経営トップが決算説明会において自ら積極的に経営方針等を説明していることが高く評価された。また、フェア・ディスクロージャーにおいては、決算説明会等で配布された有益な資料がホームページでも入手が可能であることが高い評価を受けた。

住友重機械工業（総合評価点：73.3点、第4位・新規対象企業）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（88%）が第2位、説明会等（68%）が第5位、

フェア・ディスクロージャー（69%）が第8位、コーポレート・ガバナンス関連（75%）が2社同得点第3位、自主的情報開示（62%）が第7位となった。

上位の評価となった分野別に具体的にみると、経営陣のIR姿勢等においては、経営トップが決算説明会において経営方針等を明確に説明していることが極めて高い評価を受けた。また、IR部門に十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができることなど、同部門の機能が充実していることが高く評価された。加えて、低収益の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していることも高く評価された。

説明会等においては、説明資料で、事業別損益の実績と見通しなどについて十分に説明していることが高い評価を受けた。また、決算説明会等における会社側の説明や質疑に対する回答が十分満足できるものであることも高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中・長期の経営目標および目標達成のための具体的戦略について十分に説明していることでトップの評価を受けた。

THK（総合評価点：73.0点、第5位←8位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（87%）が第3位、説明会等（66%）が第6位、フェア・ディスクロージャー（74%）が2社同得点第6位、コーポレート・ガバナンス関連（73%）が3社同得点第5位、自主的情報開示（65%）が第6位となった。

上位の評価となった分野別に具体的にみると、経営陣のIR姿勢等においては、経営トップが決算説明会において経営方針等を十分に説明していることが高く評価された。また、IR部門の対応が積極的であることや、十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができることなど、IR部門の機能においてトップの評価を受けた。

以上のほか、説明会等において、中期の経営戦略について十分に説明していることが高く評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

日立建機（総合評価点：71.3点、第6位・新規対象企業、経営陣のIR姿勢等（82%）第5位、説明会等（82%）第1位）

同社は、経営陣のIR姿勢等において、IR部門が誠実に対応し、かつ積極的であることが極めて高い評価を受けた。また、説明会等において、決算説明会等における会社側の説明が充実しており、また、質疑に対する回答も十分満足できるものであることが高く評価された。加えて、四半期ごとに業績動向に関する説明会を開催し、経営実態に即した十分な情報開示を行っていることが高い評価を受けた。

以 上

平成18年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (機械)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス [評価項目4] (配点25点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示 [評価項目7] (配点37点)		3. フェア・ディスクロージャー [評価項目9] (配点15点)		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 [評価項目2] (配点10点)		5. 各業種に即した自主的な情報開示 [評価項目4] (配点13点)		一昨年度 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	小松製作所	83.3	22.5	1	26.7	4	14.5	1	7.9	1	11.7	1	1
2	ダイキン工業	79.1	20.4	6	28.8	2	11.4	2	7.7	2	10.8	2	4
3	NTN	76.6	20.3	8	28.7	3	11.1	6	7.3	5	9.2	4	7
4	住友重機械工業	73.3	22.1	2	25.3	5	10.3	8	7.5	3	8.1	7	未実施
5	THK	73.0	21.7	3	24.5	6	11.1	6	7.3	5	8.4	6	8
6	日立建機	71.3	20.5	5	30.5	1	8.2	11	7.2	8	4.9	11	未実施
7	日本精工	71.2	20.0	9	23.2	9	11.3	4	7.3	5	9.4	3	2
8	クボタ	67.8	20.8	4	23.6	8	9.3	10	7.2	8	6.9	9	6
9	栗田工業	66.5	20.4	6	23.0	10	11.2	5	7.1	10	4.8	12	10
10	三菱重工業	62.9	17.2	13	19.6	13	11.4	2	6.0	13	8.7	5	13
11	小森コーポレーション	62.5	17.9	11	21.9	11	9.4	9	7.0	11	6.3	10	9
12	アマダ	59.7	19.4	10	23.8	7	5.0	16	7.5	3	4.0	14	11
13	ジェイテクト	52.8	17.8	12	20.3	12	5.2	15	6.1	12	3.4	15	未実施
14	佳原製作所	51.4	16.0	14	18.1	14	7.9	12	5.1	15	4.3	13	12
15	フアナック	48.6	13.3	16	15.1	16	6.4	14	5.9	14	7.9	8	15
16	SMC	45.6	13.7	15	16.0	15	7.8	13	4.7	16	3.4	15	14
	評価対象企業評価平均点	65.4	19.0		23.1		9.5		6.8		7.0		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は11.3点、一昨年度は12.6点であった。

18年度評価項目および配点一覧(機械)

1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス		配点 (25)点
(1) 経営陣のIR姿勢		
・ 経営トップ等が決算説明会あるいはそれ以外の会社主催のミーティングにおいて経営方針等を十分に説明していますか。		10
(2) IR部門の機能		
① IR部門の対応は積極的ですか。		5
② IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。		5
(3) IRの基本スタンス		
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。		5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示		配点 (37)点
(1) 説明資料等(短信およびその附属資料・説明会資料)における開示		
① 事業別損益(主要な子会社・関係会社を含む)の実績と見通しについて十分に説明されていますか。		6
② 中期の経営戦略(経営計画等)について十分に説明されていますか。		6
③ リスク情報(為替、資材価格、減損会計等)について十分に説明されていますか。		5
(2) 説明会、インタビューにおける開示		
① 決算説明会等における会社側の説明は十分ですか。		5
② 決算説明会等における質疑に対する会社側の回答は十分満足できるものですか。		5
(3) 四半期情報開示		
① 四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか。		5
② 四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議を含む)を開催していますか。 開催あり=5点 開催なし=0点		5
3. フェアー・ディスクロージャー		配点 (15)点
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢		
① 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等)の開示についての連絡は遅滞なく行われていますか。 (当該事項の発生がなかった場合も満点評価とする)		3
② 上記の事項に関し、質問への対応や情報開示の内容は十分ですか。 (当該事項の発生がなかった場合も満点評価とする)		2
(2) ホーム・ページにおける情報提供		
① 決算説明会等で配布された資料はホームページでも入手が可能ですか。		3
② 決算説明会等での質疑応答の内容が分かるようになっていますか。		3
(3) 英文による情報提供		
① 決算短信の英語版は作成されていますか。 作成=2点 なし=0点		2
② 決算説明会資料の英語版は作成されていますか。 作成=2点 なし=0点		2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示		配点 (10)点
(1) 株主還元策の開示		
・ 株主還元策(配当政策や自社株取得等)について十分に説明していますか。		5
(2) 目標とする経営指標等		
・ 中・長期の経営目標(重視する経営指標等)および目標達成のための具体的戦略が十分に説明されていますか。		5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示		配点 (13)点
(1) 会社主催の工場見学、事業部説明会、技術説明会、中期戦略説明会等を実施し、かつその内容が充実していますか。		
		5
(2) 日本語のアンニュアルレポートを作成していますか。(ホームページ可) 作成=2点 なし=0点		
		2
(3) アンニュアルレポート(日本語、英語いずれでも可)の内容は充実していますか。		
		3
(4) E-mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。		
		3

機械専門部会委員

部会長	斎藤 克史	野村証券
部会長代理	星野 英彦	UBS証券
	上野 武昭	カヨ証券
	田井 宏介	大和総研
	水野 英之	メリリフ日本証券
	望月 誠幸	JPモルガン証券
	諸田 利春	ドイツ証券

評価実施アナリスト (34名 (氏名等の掲載の承諾を得られていない1名を含む))

浅野 建	東京海上アセットマネジメント投信	鈴木 伸也	三菱UFJ投信
石井 隆一	立花証券	鈴木 俊一	みずほ信託銀行
上野 武昭	カヨ証券会社 東京支店	瀬尾 靖	ユービーエス・グローバル・アセット・マネジメント
岡崎 茂樹	野村証券	田井 宏介	大和総研
岡本 弘	新光投信	竹山 悟史	クレディ・スイス投信
長ヶ部 輝継	農林中金全共連アセットマネジメント	為我井 純一	住友信託銀行
金井 紀人	明治トリスナー・アセットマネジメント	林 隆一	野村アセットマネジメント
木谷 亨	SMBCフレンド 調査センター	原 晋治	明治安田生命保険
木下 靖朗	ニッセイアセットマネジメント	星野 清	ドイツ・アセット・マネジメント
黒田 真路	ゴールドマン・サックス証券会社 東京支店	星野 英彦	UBS証券会社
小枝 善則	ソシエティ・エネラルアセットマネジメント	水野 英之	メリリフ日本証券
児玉 芳明	ニッセイアセットマネジメント	望月 誠幸	JPモルガン証券
小宮 泰一	モルガン・スタンレー証券	諸田 利春	ドイツ証券
小山 誠	富国生命投資顧問	若栄 正宣	新光証券
斎藤 克史	野村証券	脇屋 元	立花証券
坂井 ゆかり	三菱UFJ信託銀行	渡辺 洋一郎	水戸証券
清水 俊宏	興銀第一ライフ・アセットマネジメント		

電気・精密機器

【産業・民生エレクトロニクス部門】

日立製作所、東芝、三菱電機、エルピーダメモリ、日本電気、富士通、NECエレクトロニクス、松下電器産業、シャープ、ソニー、三洋電機、パイオニア、船井電機

【電子部品部門】

イビデン、日本電産、TDK、アルプス電気、ヒロセ電機、ローム、京セラ、村田製作所、日東電工

【精密機器部門】

セイコーエプソン、横河電機、アドバンテスト、ニコン、HOYA、キヤノン、リコー、東京エレクトロン

(計 30 社)

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として新たにイビデン、ヒロセ電機、横河電機、ニコンの4社を加え、30社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	5	24
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	説明会等	7	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	5	22
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	14
計		22	100

(注) 具体的な評価項目および配点は47頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは44社の75名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」（部門別を含む）は43～46頁参照）。

本年度の電気・精密機器全体（（以下〈全体〉と省略）の総合評価平均点は67.5点となり昨年度の71.9点を4.4点下回った。評価項目の5分野について平均得点率（評価対象企業の平均点/配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣のIR姿勢等が74%、説明会等が70%、フェア・ディスクロージャーが73%、コーポレート・ガバナンス関連が66%、自主的情報開

示が 44%となり、自主的情報開示を除く 4 分野はまずまずの評価となった。

また、評価対象企業を民生・産業エレクトロニクス（13 社）、電子部品（9 社）、精密機器（8 社）の各部門に分けて評価結果を比較して見ると、評価平均点の高い順に、精密機器が 71.6 点、産業・民生エレクトロニクスが 67.3 点、電子部品が 64.3 点と、精密機器のみが 70 点台の評価となった。さらに、評価項目の 5 分野の平均得点率について各部門別に見ると、精密機器は、経営陣の IR 姿勢等、説明会等およびコーポレート・ガバナンス関連の 3 分野で他の部門の評価を上回っている。なお、電子部品の自主的情報開示は、唯一平均得点率が 30%台にとどまった。

ちなみに、全体の各評価対象企業の総合評価点の標準偏差は 7.8 点となり、昨年度の 6.7 点よりやや拡大した。部門別には、精密機器 3.9 点（昨年度 4.3 点）、産業・民生エレクトロニクス 5.1 点（同 5.8 点）、電子部品 9.7 点（同 8.7 点）となり、精密機器と産業・民生エレクトロニクスは若干縮小した反面、電子部品は拡大した。今後、一部企業を除き、総じて改善が望まれる点としては、平均得点率が 44%にとどまった自主的情報開示の分野の 3 項目が挙げられる。

(2) 全体の上位個別企業の評価概要

松下電器産業（ディスクロージャー優良企業[2 回連続]、総合評価点：82.0 点、第 1 位←1 位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（得点率〔評価点／配点〕（以下省略）89%）および説明会等（78%）が第 3 位、フェア・ディスクロージャー（81%）が第 5 位、コーポレート・ガバナンス関連（88%）および自主的情報開示（74%）が第 1 位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、社長が定期的に説明会で経営方針・中期的戦略等について十分に説明していることが極めて高く評価された。加えて、IR 部門の体制や情報集積が十分であり、また担当者と有益なディスカッションができることなど、同部門の機能が充実していることも高い評価を受けた。

説明会等においては、説明資料で主要連結会社の経営動向が十分に説明されていることや、四半期のデータを過去 8 四半期にわたり連続的にフォローできるように開示が行われていることなどが高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページで決算発表日を十分な余裕を持って開示していることなどが評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策の説明および、中期経営計画（目標とする経営指標等）の公表、その後の進捗状況、達成のための具体的方策の説明のいずれの項目とも高い評価を受けた。

自主的情報開示の分野は、全体的に評価が低い（平均得点率 44%）中で、E メールを利用した有用な情報提供を行っていることや、事業ごとの説明会での中期戦略等の説明が充実していることが評価され、この分野で唯一 70%台の得点率となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範

となると認められるので、同社を本年度の電気・精密機器業界における優良企業として推薦する。

東京エレクトロン（総合評価点：79.2点、第2位←5位、精密機器部門：第1位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（90%）が2社同得点第1位、説明会等（78%）が第4位、フェア・ディスクロージャー（78%）が第9位、コーポレート・ガバナンス関連（73%）が第6位、自主的情報開示（69%）が第2位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、経営陣が市場に対して分かりやすいメッセージを発信するなど、IRへの取組み姿勢が非常に積極的であることのほか、経営陣の経営方針・中期計画等についての十分な説明が極めて高く評価された。また、IR部門に十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができることなどが高く評価された。加えて、自社にとって都合の悪い情報や低収益事業についても積極的に開示を行い、業績動向にかかわらずIR姿勢が一貫していることが極めて高い評価を受けた。

説明会等においては、決算説明会における説明および質疑応答が十分に満足できるものであることや、プレゼンテーション資料が分かりやすく要約されていることが極めて高く評価された。

以上のほか、主力製品の工場見学会などが有益であったことも評価された。

以上の結果同社は、精密機器部門において、第1位の評価を受けた。これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために当部門の他の企業の模範となると認められる。

キヤノン（総合評価点：76.3点、第3位←2位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（76%）が2社同得点第15位、説明会等（85%）が第2位、フェア・ディスクロージャー（75%）が4社同得点第16位、コーポレート・ガバナンス関連（78%）が2社同得点第3位、自主的情報開示（60%）が第5位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、説明会等においては、決算説明会におけるプレゼンテーション資料が分かりやすく要約されていることや、主要商品の販売動向について、販売金額・構成比・成長率を十分に示していることなど、説明資料における開示でトップの高い評価を受けた。また、次の四半期についての業績の方向性を十分に説明していることなど、四半期情報の開示においてもトップの評価となった。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画（目標とする経営指標等）の公表、その後の進捗状況、達成のための具体的方策の説明が高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、プリンタやデジタルカメラ事業など、有益な事業別説明会を毎年定期的に行っていることが極めて高く評価された。

日本電産（総合評価点：75.0点、第4位←3位、電子部品部門：第1位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（90%）が2社同得点第1位、説明会等（85%）が第1位、フェア・ディスクロージャー（70%）が第22位、コーポレート・ガバナンス関連（78%）が2社同得点第3位、自主的情報開示（34%）が第22位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、社長が必ず自ら説明会に出席し、その説明が分かりやすいことや、経営方針・中期計画等について詳細な説明していることが極めて高いトップの評価を受けた。また、IR部門の体制を強化していることも評価された。

説明会等においては、決算説明会における説明および質疑応答が十分に満足できるものであることが極めて高く評価された。また、説明資料における、主要連結会社の経営動向についての十分な説明なども高い評価を受けた。このほか、次の四半期についての業績の方向性を十分に説明していることが評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画（目標とする経営指標等）の公表、その後の進捗状況、達成のための具体的方策の説明が評価された。

以上の結果同社は、電子部品部門において、第1位の評価を受けた。これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために当部門の他の企業の模範となると認められる。

アドバンテスト（総合評価点：73.9点、第5位←9位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（87%）が第5位、説明会等（73%）が第11位、フェア・ディスクロージャー（75%）が第14位、コーポレート・ガバナンス関連（64%）が3社同得点第16位、自主的情報開示（59%）が第6位となった。

具体的項目について見ると、経営陣のIR姿勢等においては、IR部門に十分な情報が集積されており、担当者とは有益なディスカッションができることなどが高く評価された。加えて、自社にとって都合の悪い情報や低収益事業についても積極的に開示を行い、業績動向にかかわらずIR姿勢が一貫していることが高い評価を受けた。

以上のほか、決算説明会における説明および質疑応答が十分に満足できるものであることなどが高く評価された。

(3) 部門別（平均得点上位順）の上位個別企業の評価概要

【精密機器部門】

東京エレクトロン（総合評価点：79.2点、当部門第1位←2位、全体：第2位）

キヤノン（総合評価点：76.3点、当部門第2位←1位、全体：第3位）

両社の具体的評価概要は、上記（2）に記載のとおりである。

【産業・民生エレクトロニクス部門】

松下電器産業（総合評価点：82.0点、当部門第1位←1位、全体：第1位）

同社の具体的評価概要は、上記（2）に記載のとおりである。

エルピーダメモリ（総合評価点：73.0点、当部門第2位←8位、全体：第7位←19位）

この部門における分野別の順位をみると、同社は、経営陣のIR姿勢等（82%）が第2位、説明会等（70%）が第3位、フェア・ディスクロージャー（75%）が第9位、コーポレート・ガバナンス関連（64%）が2社同得点第5位、自主的情報開示（67%）が第2位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、説明会での社長の経営方針・中期計画等についての説明などが評価された。

説明会等においては、次の四半期についての業績の方向性を十分説明していることなどが評価された。

自主的情報開示においては、工場見学会や技術説明会などが有益であったことが高く評価され、この項目に関し全体でもトップの評価を受けた。加えて、Eメールを利用した有用な情報提供を行っていることも高く評価された。

【電子部品部門】

日本電産（総合評価点：75.0点、当部門第1位←1位、全体：第4位）

同社の具体的評価概要は、上記（2）に記載のとおりである。

TDK（総合評価点：73.5点、当部門第2位←2位、全体：第6位←4位）

この部門における分野別の順位をみると、同社は、経営陣のIR姿勢等（88%）および説明会等（77%）が第2位、フェア・ディスクロージャー（75%）が2社同得点第3位、コーポレート・ガバナンス関連（70%）が第4位、自主的情報開示（43%）が第1位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、社長の経営方針・中期計画等についての説明が高く評価された。また、IR部門に十分な情報が集積されており、担当者とは有益なディスカッションができることなどが高く評価された。加えて、自社にとって都合の悪い情報や低収益事業についても積極的に開示を行い、業績動向にかかわらずIR姿勢が一貫していることが極めて高く評価され、この項目につき、全体でも3社同得点でトップの評価を受けた。

説明会等においては、四半期のデータを過去8四半期にわたり連続的にフォローできるように開示が行われていることが極めて高く評価された。

以 上

平成18年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (電気・精密機器：全体)

(単位：点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス 評価項目5 (配点24点)					2. 説明会・インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示 評価項目7 (配点30点)					3. フェア・ディスクロージャー 評価項目5 (配点22点)					4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示 評価項目2 (配点10点)					5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目3 (配点14点)					昨年度 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位						
1	松下電器産業	82.0	21.4	3	23.5	3	17.9	5	8.8	1	10.4	1	10.4	1	1													
2	東京エレクトロン	79.2	21.6	1	23.4	4	17.2	9	7.3	6	9.7	2	9.7	2	5													
3	キヤノン	76.3	18.3	15	25.4	2	16.4	16	7.8	3	8.4	5	8.4	5	2													
4	日本電産	75.0	21.6	1	25.5	1	15.3	22	7.8	3	4.8	22	4.8	22	3													
5	アドバンテスト	73.9	20.8	5	21.9	11	16.6	14	6.4	16	8.2	6	8.2	6	9													
6	TDK	73.5	21.0	4	23.1	5	16.4	16	7.0	9	6.0	15	6.0	15	4													
7	エルピーダメモリ	73.0	19.7	8	21.0	16	16.5	15	6.4	16	9.4	3	9.4	3	19													
7	日東電工	73.0	18.4	14	22.3	10	18.9	2	7.9	2	5.5	19	5.5	19	7													
9	ソニー	72.6	18.0	17	21.5	15	18.1	3	6.4	16	8.6	4	8.6	4	12													
10	セイコーエプソン	71.4	18.5	13	22.4	9	19.1	1	6.2	19	5.2	21	5.2	21	11													
11	京セラ	70.6	19.4	10	21.6	14	17.5	8	6.2	19	5.9	16	5.9	16	6													
12	横河電機	70.4	20.1	7	20.4	17	17.1	10	6.9	10	5.9	16	5.9	16	未実施													
13	ニコン	70.2	20.5	6	21.8	12	13.3	28	7.1	7	7.5	9	7.5	9	未実施													
14	NECエレクトロニクス	69.5	18.0	17	20.3	19	17.7	7	5.5	26	8.0	7	8.0	7	24													
15	東芝	69.3	17.8	19	18.8	23	17.8	6	7.1	7	7.8	8	7.8	8	21													
16	HOYA	69.1	19.5	9	23.0	6	14.0	25	6.5	15	6.1	14	6.1	14	8													
17	富士通	69.0	17.8	19	19.7	22	18.0	4	6.1	21	7.4	11	7.4	11	18													
18	シャープ	68.2	18.3	15	20.3	19	16.9	13	6.8	11	5.9	16	5.9	16	10													
19	パイオニア	65.9	18.6	12	20.3	19	17.1	10	5.6	25	4.3	25	4.3	25	14													
19	村田製作所	65.9	17.5	22	22.9	7	14.0	25	6.8	11	4.7	23	4.7	23	13													
21	イビデン	64.7	19.2	11	22.9	7	11.4	30	7.6	5	3.6	26	3.6	26	未実施													
22	三菱電機	63.9	16.7	23	17.7	26	16.4	16	6.8	11	6.3	13	6.3	13	22													
22	日本電気	63.9	17.6	21	17.0	29	17.1	10	5.5	26	6.7	12	6.7	12	16													
24	船井電機	62.4	15.8	25	20.4	17	15.7	20	6.0	22	4.5	24	4.5	24	15													
25	リコー	62.2	14.8	27	21.8	12	15.2	23	6.8	11	3.6	26	3.6	26	17													
26	日立製作所	60.7	14.9	26	17.1	28	15.7	20	5.5	26	7.5	9	7.5	9	20													
27	アルプス電気	57.0	13.2	28	18.5	24	14.1	24	5.9	23	5.3	20	5.3	20	23													
28	三洋電機	54.3	16.5	24	16.6	30	14.0	25	5.1	30	2.1	29	2.1	29	25													
29	ローム	51.3	8.7	30	18.0	25	16.4	16	5.3	29	2.9	28	2.9	28	26													
30	ヒロセ電機	47.5	10.1	29	17.7	26	12.0	29	5.7	24	2.0	30	2.0	30	未実施													
	評価対象企業評価平均点	67.5	17.8		20.9		16.1		6.6		6.1		6.1															

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は7.8点、昨年度は6.7点であった。

平成18年度 デイスクロージャー評価比較総括表
 (電気・精密機器：産業・民生エレクトロニクス部門)

(単位：点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢・IR専門の機能・IRタンス [評価項目1] (配点24点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示 [評価項目2] (配点30点)		3. フェア・ディスタンスに関する開示 [評価項目3] (配点22点)		4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示 [評価項目4] (配点10点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 [評価項目5] (配点14点)		昨年度 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	松下電器産業	82.0	21.4	1	23.5	1	17.9	3	8.8	1	10.4	1	1
2	エルピーダメモリ	73.0	19.7	2	21.0	3	16.5	9	6.4	5	9.4	2	8
3	ソニー	72.6	18.0	5	21.5	2	18.1	1	6.4	5	8.6	3	3
4	NECエレクトロニクス	69.5	18.0	5	20.3	5	17.7	5	5.5	10	8.0	4	12
5	東芝	69.3	17.8	7	18.8	9	17.8	4	7.1	2	7.8	5	10
6	富士通	69.0	17.8	7	19.7	8	18.0	2	6.1	7	7.4	7	7
7	シャープ	68.2	18.3	4	20.3	5	16.9	8	6.8	3	5.9	10	2
8	パイオニア	65.9	18.6	3	20.3	5	17.1	6	5.6	9	4.3	12	4
9	三菱電機	63.9	16.7	10	17.7	10	16.4	10	6.8	3	6.3	9	11
9	日本電気	63.9	17.6	9	17.0	12	17.1	6	5.5	10	6.7	8	6
11	船井電機	62.4	15.8	12	20.4	4	15.7	11	6.0	8	4.5	11	5
12	日立製作所	60.7	14.9	13	17.1	11	15.7	11	5.5	10	7.5	6	9
13	三洋電機	54.3	16.5	11	16.6	13	14.0	13	5.1	13	2.1	13	13
	評価対象企業評価平均点	67.3	17.8		19.6		16.8		6.3		6.8		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.1点、昨年度は5.8点であった。

平成18年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (電気・精密機器：電子部品部門)

(単位：点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)		1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス <small>評価項目1 (配点24点)</small>		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示 <small>評価項目7 (配点30点)</small>		3. フェアークロージャー <small>評価項目5 (配点22点)</small>		4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示 <small>評価項目2 (配点10点)</small>		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 <small>評価項目3 (配点14点)</small>		昨年度 順位
		評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	日本電産	75.0	1	21.6	1	25.5	1	15.3	5	7.8	2	4.8	5	1
2	TDK	73.5	2	21.0	2	23.1	2	16.4	3	7.0	4	6.0	1	2
3	日東電工	73.0	5	18.4	5	22.3	5	18.9	1	7.9	1	5.5	3	4
4	京セラ	70.6	3	19.4	3	21.6	6	17.5	2	6.2	6	5.9	2	3
5	村田製作所	65.9	6	17.5	6	22.9	3	14.0	7	6.8	5	4.7	6	5
6	イビデン	64.7	4	19.2	4	22.9	3	11.4	9	7.6	3	3.6	7	未実施
7	アルプス電気	57.0	7	13.2	7	18.5	7	14.1	6	5.9	7	5.3	4	6
8	ローム	51.3	9	8.7	9	18.0	8	16.4	3	5.3	9	2.9	8	7
9	ヒロセ電機	47.5	8	10.1	8	17.7	9	12.0	8	5.7	8	2.0	9	未実施
	評価対象企業評価平均点	64.3		16.6		21.4		15.1		6.7		4.5		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は9.7点、昨年度は8.7点であった。

平成18年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (電気・精密機器：精密機器部門)

(単位：点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の基本スタンス [評価項目①] (配点24点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示 [評価項目②] (配点30点)		3. フェア・ディスクロージャー [評価項目③] (配点22点)		4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示 [評価項目④] (配点10点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 [評価項目⑤] (配点14点)		昨年度 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	東京エレクトロン	79.2	21.6	1	23.4	2	17.2	2	7.3	2	9.7	1	2
2	キヤノン	76.3	18.3	7	25.4	1	16.4	5	7.8	1	8.4	2	1
3	アドバンテクト	73.9	20.8	2	21.9	5	16.6	4	6.4	7	8.2	3	4
4	セイコーエプソン	71.4	18.5	6	22.4	4	19.1	1	6.2	8	5.2	7	5
5	横河電機	70.4	20.1	4	20.4	8	17.1	3	6.9	4	5.9	6	未実施
6	ニコン	70.2	20.5	3	21.8	6	13.3	8	7.1	3	7.5	4	未実施
7	HOYA	69.1	19.5	5	23.0	3	14.0	7	6.5	6	6.1	5	3
8	リコー	62.2	14.8	8	21.8	6	15.2	6	6.8	5	3.6	8	6
	評価対象企業評価平均点	71.6	19.3		22.5		16.1		6.9		6.8		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は3.9点、昨年度は4.3点であった。

18年度評価項目および配点一覧(電気・精密機器)

1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス	配点 (24)点
(1) 経営陣のIR姿勢	
① 社長または会長が会社主催の説明会に年2回以上出席していますか。 2回以上:5点 1回:3点 なし:0点	5
② 社長または会長が会社主催の説明会において経営方針・中期計画等を十分に説明していますか。	5
(2) IR部門の機能	
① IRの専門部署があり人員は十分に配置されていますか。	5
② IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	5
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報、低収益の事業についても積極的な開示を行い、業績動向に係わらずIR姿勢は一貫していますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	配点 (30)点
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
・ 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	4
(2) 説明資料等(短信およびその附属資料を含む)における開示	
① 決算説明会におけるプレゼンテーション資料はわかり易く要約されていますか。	4
② 主要商品の販売動向が、数量・販売金額・構成比・成長率のいずれかをもって十分に説明されていますか。	4
③ 主要連結会社あるいは関連会社の経営動向が十分に説明されていますか。	4
④ 為替変動に対する売上高、営業利益の感応度が十分に記載されていますか。	4
(3) 四半期情報開示	
① 過去8四半期にわたり連続的に数字をフォローできるように開示が行われていますか。	5
② 次の四半期についての業績の方向性を説明していますか。	5
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (22)点
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	4
② 業績変動の開示が遅滞なく、かつ公平に行われていますか。	4
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
① 決算発表日を十分な余裕をもって開示していますか。	5
② 過去10年間の長期財務データをダウンロードできますか。	5
③ 過去3年間の決算説明会の配布資料およびプレゼンテーション資料がともに掲載されていますか。	4
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10)点
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (14)点
(1) 有益な工場見学会(前年7月-本年6月の間)が実施されていますか。	5
(2) 有益な技術説明会・商品説明会(前年7月-本年6月の間)が実施されていますか。	5
(3) Eメールを利用して有用な情報提供を行っていますか。	4

電気・精密機器専門部会委員

部会長	石野 雅彦	三菱UFJ証券
部会長代理	澤嶋 裕希	三井アセット信託銀行
	相場 繁	野村アセットマネジメント
	栗山 史	リソリチ日本証券
	後藤 文秀	UBS証券
	佐渡 拓実	大和総研
	山崎 総一	富国生命投資顧問
	和田木 哲哉	野村證券

評価実施アナリスト（75名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない6名を含む〉）

相場 繁	野村アセットマネジメント	佐々木 健太郎	J. P. モルガン信託銀行
浅井 真二	三井住友アセットマネジメント	佐藤 春雄	東海東京調査センター
石田 雄一	みずほインバスターズ証券	佐藤 秀光	MU 投資顧問
石野 雅彦	三菱UFJ証券	佐渡 拓実	大和総研
和泉 美治	JP モルガン証券	澤嶋 裕希	三井アセット信託銀行
磯 光裕	野村アセットマネジメント	嶋田 幸彦	三菱UFJ証券
稲葉 章代	住友信託銀行	嶋津 正明	農林中金全共連アセットマネジメント
岩崎 恵司	新光投信	下井 尚則	日興シイグループ証券
臼井 規	ラポート・ジャパン・アセット・マネジメント	末岡 久志	ソシエティジェネラルアセットマネジメント
内野 晃彦	三菱UFJ証券	杉本 幸二	明治安田生命保険
浦 昌平	シュローダー投信投資顧問	高山 大樹	ゴールドマン・サックス証券会社 東京支店
大澤 充周	みずほインバスターズ証券	辻村 哲士	朝日ライフアセットマネジメント
大竹 喜英	新光証券	土屋 直樹	大和証券投資信託委託
大塚 裕司	三井住友アセットマネジメント	角田 成宏	損保ジャパン・アセットマネジメント
岡田 真一	三菱UFJ信託銀行	中根 康夫	ドイツ証券
岡部 和男	富国生命投資顧問	長安 雅子	みずほインバスターズ証券
小野 雅弘	モルガン・スタンレー証券	竝川 伸一	三菱UFJ信託銀行
加戸 憲一郎	大和証券投資信託委託	新名 高志	三井住友アセットマネジメント
鎌田 重俊	立花証券	西野 慶太	東京海上アセットマネジメント投信
河口 洋一	三菱UFJ信託銀行	根来 裕昭	住友信託銀行
木下 靖朗	ニッセイアセットマネジメント	野田 聡	野村アセットマネジメント
久保田 真史	リソリチ日本証券	張谷 幸一	みずほ証券
栗崎 恵仁	大和住銀投信投資顧問	日暮 善一	ドイツ証券
栗山 史	リソリチ日本証券	平井 明子	シュローダー投信投資顧問
小林 守伸	ニッセイアセットマネジメント	蛭川 晃	三井アセット信託銀行

廣瀬 治	東海東京調査センター	村上 貴信	みずほ信託銀行
福永 敬輔	住友信託銀行	茂木 高幸	日興アセットマネジメント
藤本 浩一	岡三証券	森山 久史	JPモルガン証券
藤森 裕司	ゴールドマン・サックス証券会社 東京支店	安田 秀樹	エス証券 東京支店
古舘 克明	朝日ライフアセットマネジメント	山崎 総一	富国生命投資顧問
堀井 浩之	住友信託銀行	横山 征至	第一生命保険
益子 博行	日興シイグループ証券	吉田 広幸	明治トランスナーアセットマネジメント
三浦 和晴	大和総研	吉原 洋	メリル Lynch 日本証券
宮川 和也	日興アセットマネジメント	和田木 哲哉	野村証券
宮本 武郎	カヨニ証券会社 東京支店		

自動車・同部品・タイヤ

ブリヂストン、住友ゴム工業、豊田自動織機、デンソー、日産自動車、いすゞ自動車、トヨタ自動車、日野自動車、三菱自動車工業、エヌオーケー、アイシン精機、マツダ、ダイハツ工業、本田技研工業、スズキ、富士重工業、ヤマハ発動機、豊田合成

(計 18 社)

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として新たにブリヂストン、住友ゴム工業のタイヤメーカー2社を追加し、計 18 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢・IR 部門の機能・IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	23
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	説明会等	13	41
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	4	14
計		27	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 56 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 32 社の 36 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 55 頁参照）。

本年度の総合評価平均点は 64.7 点となった。評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 67%、説明会等が 66%、フェア・ディスクロージャーが 71%、コーポレート・ガバナンス関連および自主的情報開示が 57%となり、コーポレート・ガバナンス関連および自主的情報開示を除く 3 分野は、まずまずの評価となった。

また、具体的評価項目について見ると、最も平均得点率の高かった、経営陣の IR 姿勢等の分野における、業績動向にかかわらず IR 姿勢は一貫しているか（79%）については、評価対象企業 18 社中 12 社が得点率（評価点／配点〈以下省略〉）80%以上の評価を受けた。また、昨年度に比べて平均得点率の上昇幅が最も大きい（+8 ポイント）、アナリストの国

内外での訪問取材に対し、サイレントピリオド（取材の締め切りから決算発表まで）を1ヶ月未満に短縮するように努力しているか（77%）についても、18社中12社が得点率80%以上の高い評価を受けた。

さらに、評価対象企業のうち、自動車メーカー、部品メーカーおよび本年度新たに評価対象としたタイヤメーカーの評価結果を比較して見ると、総合評価平均点は、自動車メーカーの67.6点、部品メーカーの61.4点に対し、タイヤメーカーは57.8点となった。

同様に5分野別の平均得点率を比較すると、経営陣のIR姿勢等は、自動車メーカー：68%、部品メーカー：68%、タイヤメーカー：59%、（以下同順）、説明会等は68%、64%、61%、フェアリー・ディスクロージャーは、74%、68%、63%、コーポレート・ガバナンス関連は、59%、52%、59%、自主的情報開示は、66%、44%、43%、となり、コーポレート・ガバナンス関連を除き、タイヤメーカーは他の二つの業態を下回り、今後の改善が期待される。

なお、評価対象企業の総合評価点の標準偏差は8.3点となり、昨年度の7.9点をやや上回った。ちなみに、開示格差（1位企業の評価点/最下位企業の評価点）について見ると、1位企業が76.6点、最下位企業が47.5点で1.6倍であった。

また、評価実施アナリストの意見を見ると、経営陣がIRを重視し、投資家との対話を増やしていることや説明資料等の充実を評価する声があった。

今後、一部評価企業を除いて総じて改善が望まれる点として、中・長期経営計画（目標とする経営指標等）の公表と、その後の進捗状況・達成のための具体的方策についての十分な説明（同56%）、および、会社主催の工場見学会・事業部説明会・技術説明会・商品説明会の内容の充実（平均得点率50%）などが挙げられる。

(2) 上位個別企業の評価概要

ヤマハ発動機（ディスクロージャー優良企業〔3回連続〕、総合評価点：76.6点、第1位←1位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（得点率〔評価点/配点〕〈以下省略〉80%）および説明会等（77%）が第1位、フェアリー・ディスクロージャー（81%）が2社同得点第2位、コーポレート・ガバナンス関連（76%）が第2位、自主的情報開示（65%）が2社同得点第6位となった。

上位の評価となった分野別に具体的にみると、経営陣のIR姿勢等においては、経営陣のIRへの意識が高く、その取組姿勢も積極的であること、また、IR部門については、アクセスの容易性、担当者とのディスカッションの有益性および情報開示の手法等、同部門の機能が充実していることなどが高く評価された。

説明会等においては、説明資料に、連結の事業別・地域別セグメント情報を実態を表し分析に有用な形で分かりやすく十分に記載していることのほか、売上金額や販売数量を十分に記載していることなどが高く評価された。また、有益な四半期情報を適切かつタイムリーに開示していることも極めて高い評価を受けた。

フェアリー・ディスクロージャーにおいては、投資家にとって重要と判断される事項についての質問への対応や、情報開示の内容が十分であることなどが評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況、達成のための具体的方策を十分に説明していることなどが評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

日産自動車（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業[本年度第2位、昨年度まで第3位2回連続]、総合評価点：73.7点、第2位←3位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（73%）が第4位、説明会等（68%）が第10位、フェア・ディスクロージャー（81%）が2社同得点第2位、コーポレート・ガバナンス関連（77%）が第1位、自主的情報開示（84%）が第2位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、フェア・ディスクロージャーにおいては、ホームページが充実しており、過去の長期財務データや決算説明会の資料など有用な情報提供を行っていること、また、英文による情報提供を十分に行っていることが極めて高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、配当政策など株主還元策について積極的に十分な説明を行っていることが極めて高く評価された。

自主的情報開示においては、E-mail を利用して有用な情報提供を行っていることのほか、ファクトブックや統計補足情報等の内容が充実していることが極めて高い評価を受けた。また、先進技術説明会や中国海外工場見学会の開催などが評価された。

上記のほか、説明会等においては、新製品の投入計画について説明していることなども評価された。

以上の結果、同社は、3年連続して上位（第2位・第3位）の評価を受けた。同社がこのような高水準のディスクロージャーを連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

本田技研工業（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業[本年度第3位、昨年度まで第2位2回連続]、総合評価点：73.3点、第3位←2位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（74%）が2社同得点第2位、説明会等（75%）が第2位、フェア・ディスクロージャー（83%）が第1位、コーポレート・ガバナンス関連（66%）が第4位、自主的情報開示（65%）が2社同得点第6位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、業績動向にかかわらず IR 姿勢が一貫していることが高く評価された。

説明会等においては、説明資料に、連結の売上金額や販売数量を十分に記載していることが高く評価されたほか、利益増減要因を実態を表し分析に有用な形で十分に記載していることも評価された。また、有益な四半期情報を適切かつタイムリーに開示していることなども高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、ホームページを利用して過去の長期財務データ、決算説明会の資料など有用な情報提供を行っていることや、英文による情報提供を十分に行っていることが極めて高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、配当政策など株主還元策について積極的に十分な説明を行っていることが評価された。

以上の結果、同社は、3年連続して上位（第2位・第3位）の評価を受けた。同社がこのような高水準のディスクロージャーを連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

いすゞ自動車（総合評価点：71.3点、2社同順位第4位←5位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（72%）が3社同得点第6位、説明会等（71%）が第8位、フェア・ディスクロージャー（75%）が第6位、コーポレート・ガバナンス関連（67%）が第3位、自主的情報開示（70%）が第4位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、コーポレート・ガバナンス関連においては、中・長期経営計画（目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策を十分に説明していることが評価された。

自主的情報開示においては、会社主催のタイ工場見学会や技術説明会の内容が充実していることが評価された。

上記のほか、説明会等において、説明資料に連結の実績ベースの利益増減要因を実態を表し分析に有用な形で大変分かりやすく記載していること、また、売上金額や販売数量を十分に記載していることが高い評価を受けるなど、説明資料等における開示でトップの評価を受けた。

富士重工業（総合評価点：71.3点、2社同順位第4位←4位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（72%）が3社同得点第6位、説明会等（74%）が2社同得点第3位、フェア・ディスクロージャー（78%）が第5位、コーポレート・ガバナンス関連（57%）が第8位、自主的情報開示（67%）が第5位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、説明会等においては、説明資料に、主要連結会社の個別業績動向が記載されていることなどが評価されたほか、新製品や新技術の開発計画等について十分な説明を行っていることが評価された。

自主的情報開示においては、E-mailを利用して有用な情報提供を行っていることなどが評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

トヨタ自動車（総合評価点：70.0点、第6位←8位、フェア・ディスクロージャー（79%）第4位、自主的情報開示（84%）第1位）

同社は、自主的情報開示において、タイ工場見学会や技術説明会が有意義であったことの

ほか、各種見学会を定期的に開催し、その内容が充実していることが評価された。また、ファクトブックや統計補足情報等の内容が充実していることで満点の評価を受けた。

アイシン精機（総合評価点：68.2点、第7位←6位、説明会等（72%）2社同得点第5位）

同社は、セグメント情報や主要連結子会社の個別業績動向を実態を表し分析に有用な形で分かりやすく明確かつ十分に説明していることが高く評価されるなど、説明会、インタビューにおける開示でトップの評価を受けた。

住友ゴム工業（総合評価点：68.1点、第8位・新規対象企業、説明会等（74%）2社同得点第3位）

同社は、説明資料に、連結の事業種類別セグメント情報や利益増減要因を実態を表し分析に有用な形で分かりやすく十分に記載していることが高く評価された。また、説明会、インタビューにおいても、利益増減要因を明確かつ十分に説明していることなどが高い評価を受けた。

デンソー（総合評価点：67.4点、2社同順位第9位←7位、説明会等（72%）2社同得点第5位）

同社は、説明資料に、連結の地域別セグメント情報を実態を表し分析に有用な形で分かりやすく十分に記載していることが極めて高く評価された。また、連結ベースで設備投資および研究開発費の内容について十分に説明していることなども高い評価を受けた。

マツダ（総合評価点：67.4点、2社同順位第9位←9位、自主的情報開示（71%）第3位）

同社は、自主的情報開示において、会社主催の宇品工場見学会や技術説明会・商品説明会の内容が充実していることが評価された。

以 上

平成18年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (自動車・同部品・タイヤ)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRのタンス [評価項目4] (配点23点)		2 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示 [評価項目13] (配点41点)		3. フェア・ディースクロージャー [評価項目3] (配点12点)		4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示 [評価項目3] (配点10点)		5. 各業種に即した自主的な情報開示 [評価項目4] (配点14点)		昨年度 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	ヤマハ発動機	76.6	18.5	1	31.7	1	9.7	2	7.6	2	9.1	6	1
2	日産自動車	73.7	16.9	4	27.7	10	9.7	2	7.7	1	11.7	2	3
3	本田技研工業	73.3	17.0	2	30.7	2	9.9	1	6.6	4	9.1	6	2
4	いすゞ自動車	71.3	16.5	6	29.3	8	9.0	6	6.7	3	9.8	4	5
4	富士重工業	71.3	16.5	6	30.4	3	9.3	5	5.7	8	9.4	5	4
6	トヨタ自動車	70.0	15.9	10	27.4	11	9.5	4	5.4	10	11.8	1	8
7	アイシン精機	68.2	16.5	6	29.7	5	8.6	9	4.9	13	8.5	9	6
8	住友ゴム工業	68.1	16.8	5	30.4	3	7.8	14	6.4	5	6.7	13	未実施
9	マツダ	67.4	15.5	11	27.4	11	8.9	7	5.6	9	10.0	3	9
9	デンソー	67.4	16.2	9	29.7	5	8.8	8	5.9	6	6.8	12	7
11	ダイハツ工業	66.2	14.8	12	29.4	7	8.5	10	4.8	15	8.7	8	9
12	豊田自動織機	65.0	17.0	2	27.9	9	8.5	10	5.8	7	5.8	14	11
13	スズキ	59.3	14.7	13	25.9	13	8.1	12	4.9	13	5.7	15	14
14	三菱自動車工業	57.5	12.4	17	23.9	15	7.9	13	5.0	12	8.3	11	15
15	日野自動車	57.2	13.1	16	23.8	16	7.2	17	4.6	18	8.5	9	13
16	豊田合成	55.9	14.5	14	24.3	14	7.5	15	4.7	17	4.9	17	12
17	エヌオーケー	50.4	14.4	15	19.3	18	7.4	16	4.8	15	4.5	18	16
18	ブリヂストン	47.5	10.3	18	19.4	17	7.2	17	5.4	10	5.2	16	未実施
	評価対象企業評価平均点	64.7	15.4		27.1		8.5		5.7		8.0		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は8.3点、昨年度は7.9点であった。

18年度評価項目および配点一覧(自動車・同部品・タイヤ)

1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス		配点 (23)点
(1) 経営陣のIR姿勢		
・全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。 平均的評価=4点		8
(2) IR部門の機能		
・IR部門が十分に機能していますか。(アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報開示の手法等) 平均的評価=4点		8
(3) IRの基本スタンス		
① 業績動向にかかわらずIR姿勢は一貫していますか。		4
② アナリストの国内外での訪問取材に対し、サイレントピリオド(取材の締め切りから決算発表まで)を1ヶ月未満に短縮するように努力していますか。		3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示		配点 (41)点
(1) 説明会、インタビューにおける開示		
① 利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく明確かつ十分に説明されていますか。		5
② セグメント情報や主要連結会社および関連会社の個別業績動向は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく、明確かつ十分に説明されていますか。		5
③ 連結ベースで設備投資および研究開発費の内容について十分に説明されていますか。(地域別・事業別の内訳等)		2
④ 新製品や新技術の開発計画等について十分に説明されていますか。		3
(2) 説明資料等(短信およびその附属資料を含む)における開示		
① 連結決算の説明資料による開示		
A 連結の事業種類別セグメント情報は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく十分に記載されていますか。		2
B 連結の地域別セグメント情報は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく十分に記載されていますか。		2
C 連結の実績ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく十分に記載されていますか。		4
D 連結の計画ベースの利益増減要因は、実態を表し分析に有用な形で分かりやすく十分に記載されていますか。		4
E 連結の売上金額や販売数量は十分に記載されていますか。 (注)自動車メーカー…地域別販売台数、部品メーカー・タイヤメーカー…主力製品の販売台数、顧客別の売上金額、地域別の売上金額		4
② 単独決算の説明資料による開示		
A 単独の売上内訳は十分に記載されていますか。		2
B 単独の地域別輸出台数(部品メーカー・タイヤメーカーは地域別輸出金額)は十分に記載されていますか。		2
(3) 四半期情報開示		
① 四半期ごとに業績動向に関する説明会(電話会議などで参加できるようなアクセスへの配慮を含む)を開催していますか。 開催あり=3点 開催なし=0点		3
② 有益な四半期情報が適切かつタイムリーに開示されていますか。		3
3. フェアー・ディスクロージャー		配点 (12)点
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢		
・投資家にとって重要と判断される事項が発生した場合に、アナリストの質問への対応や情報開示の内容は十分ですか。(例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、リスク情報等)		6
(2) ホームページにおける情報提供		
・ホームページを利用して有用な情報提供(過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況)を行っていますか。		5
(3) 英文による情報提供		
・英文による情報提供を十分に行っていますか。 十分である=1点 その他=0点		1
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示		配点 (10)点
(1) 資本政策、株主還元策の開示		
① 資本政策(資金調達、グループ持合政策、優先株、金庫株)に関し十分な説明がされていますか。		2
② 配当政策・自社株買いなど株主還元策について積極的に、十分に説明していますか。		2
(2) 目標とする経営指標等		
中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。		6
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示		配点 (14)点
(1) 会社主催の工場見学会・事業部説明会・技術説明会・商品説明会(前年7月～本年6月の間)の内容は充実していますか。		8
(2) E-mailを利用して有用な情報提供を行っていますか。		3
(3) ファクトブックや統計補足情報等の内容は充実していますか。		2
(4) 日本語のアンニュアルレポートを作成していますか。 作成=1点 なし=0点		1

自動車・同部品・タイヤ専門部会委員

部会長	松島 憲之	日興シイングループ証券
部会長代理	広川 孝一	J.P.モルガン信託銀行
	北山 信次	新光証券
	栗生 博	メリル Lynch日本証券
	中西 孝樹	JPモルガン証券
	持丸 強志	ドイツ証券
	吉田 廣行	三井アセット信託銀行

評価実施アナリスト (36名 (氏名等の掲載の承諾を得られていない1名を含む))

石川 照夫	みずほ信託銀行	勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント
石飛 益徳	エース証券東京支店	中西 孝樹	JPモルガン証券
岩井 徹	クレディ・スイス証券	並木 日出男	三菱UFJ投信
岩元 泰晶	岡三証券	能村 研二	富国生命投資顧問
上野 賢司	損保ジャパン・アセットマネジメント	箱守 英治	大和総研
忍足 孝男	みずほ証券	林 真吾	大和総研
加藤 摩周	ソシエティ・ジェネラルアセットマネジメント	原 晋治	明治安田生命保険
金井 紀人	明治トラスター・アセットマネジメント	広川 孝一	J.P.モルガン信託銀行
川村 高司	ニッセイアセットマネジメント	星野 清	ドイツ・アセット・マネジメント
北山 信次	新光証券	松島 憲之	日興シイングループ証券
栗生 博	メリル Lynch日本証券	松村 茂	SMBCフレント調査センター
齋藤 綾一	みずほインベスターズ証券	持丸 強志	ドイツ証券
佐久間 愛	日興シイングループ証券	森山 茂	東京海上アセットマネジメント投信
塩原 邦彦	ゴールドマン・サックス証券会社 東京支店	山本 久義	大和証券投資信託委託
島岡 宏	住友信託銀行	吉田 廣行	三井アセット信託銀行
杉本 浩一	野村証券	脇屋 元	立花証券
瀬尾 靖	ユー・シー・イー・エス・グローバルアセット・マネジメント	渡辺 嘉郎	みずほ証券
田中 健司	興銀第一ライフ・アセットマネジメント		

電力・ガス

（東京電力、中部電力、関西電力、中国電力、北陸電力、東北電力、四国電力、九州電力、北海道電力、電源開発、東京瓦斯、大阪瓦斯、東邦瓦斯 (計 13 社)）

1. 評価方法等

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢・IR 部門の機能・IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	29
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	説明会等	7	33
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	20
④コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	1	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		19	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 63 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 22 社の 22 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 62 頁参照）。

本年度の総合評価平均点は 67.8 点で昨年度の 68.5 点とほぼ同水準であった。評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等および説明会等が 68%、フェア・ディスクロージャーが 74%、コーポレート・ガバナンス関連が 49%、自主的情報開示が 75%となった。コーポレート・ガバナンス関連は、昨年度と同様に他の 4 分野をかなり下回る評価となっており、一部の企業を除いて、この分野の評価項目である、今後の資本政策、株主還元策が十分に説明されているかにつき一層の改善が望まれる。

なお、総合評価点で、概ね、上位評価企業は上昇した一方、下位評価企業は低下したことから、総合評価点の標準偏差は、昨年度の 5.3 点に比し 6.6 点とやや拡大した。

また、評価実施アナリストの意見を見ると、IR 部門の機能が充実してきていることなどを評価する声が多かった。

(2) 上位個別企業の評価概要

東京瓦斯（ディスクロージャー優良企業〔3回連続〕、総合評価点：82.5点、第1位←1位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（得点率〔評価点／配点〕（以下省略）83%）および説明会等（85%）が第1位、フェア・ディスクロージャー（80%）が第3位、コーポレート・ガバナンス関連（76%）および自主的情報開示（88%）が第1位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、経営トップ陣がIRを重視し、常にIRの最前線に立って真摯に対応していることや、経営方針の説明が有益であることが高い評価を受けた。加えて、IR部門に正確かつ十分な情報が集積され、有益なディスカッションができることも高く評価されるなど、この分野の五つの評価項目すべてでトップの評価を受けた。

説明会等においては、説明資料等における開示が充実していることに加え、短信および説明資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明を行っていることなども高く評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、有用な情報提供を行っているホーム・ページの利便性の高さが評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画の中で、株主還元策を明確に説明したことが評価され、この分野での評価が昨年度の第3位から第1位に上申し最高の得点率（76%）となった。

自主的情報開示においては、経営計画の説明が十分であること、およびファクトブックやアニュアルレポート等の内容が充実していることが高い評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

大阪瓦斯（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業〔第2位3回連続〕、総合評価点：78.3点、第2位）

同社は、経営陣のIR姿勢等（74%）、説明会等（84%）、コーポレート・ガバナンス関連（61%）および自主的情報開示（86%）がいずれも第2位、フェア・ディスクロージャー（81%）が2社同得点第1位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、IR部門に正確かつ十分な情報が集積され、IR担当者と有益なディスカッションができることなどが評価された。

説明会等においては、説明資料に、部門別あるいは主要子会社別等についての、収益見通し等の情報を十分に記載したことに加え、見通しの分析に必要な情報（販売量、主要費用項目、設備計画等）を分かりやすく、かつ十分に記載したことなどが高く評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、一般投資家が閲覧できるホーム・ページ上で決算発表と同時に説明資料を開示していることや、英文による情報提供が充実していることが高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、経営計画の説明が十分であること、ファクトブックやアニュアルレポート等の内容が充実していることが高く評価された。

以上の結果、同社、3回連続して上位の第2位の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャーを連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

東京電力（総合評価点：69.8点、第3位←6位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（68%）が第6位、説明会等（72%）およびフェア・ディスクロージャー（77%）が第4位、コーポレート・ガバナンス関連（45%）が2社同得点第7位、自主的情報開示（81%）が第3位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、説明会等においては、決算短信および補足資料に、主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値が適切に記載されていることが評価された。また、部門別あるいは主要子会社別等の実績データが投資家の関心に即して十分に記載されていることなど、全体として説明資料が充実してきていることが評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、ホームページで四半期決算の説明資料などの有用な情報提供を行っていることや、英文による情報提供が充実していることなどが評価された。

自主的情報開示においては、ファクトブックやアニュアルレポート等の内容が充実していることが高く評価された。

東邦瓦斯（総合評価点：69.5点、第4位←3位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（74%）が第3位、説明会等（68%）が第7位、フェア・ディスクロージャー（72%）が第8位、コーポレート・ガバナンス関連（54%）が2社同得点第3位、自主的情報開示（74%）が2社同得点第7位となった。

同社は、経営陣のIR姿勢等において、経営トップがIRを重要と認識し、説明会等での経営方針についての説明が有益であることなどが評価された。

以上のほか、自主的情報開示における、経営計画の説明が十分に行われているかの項目についても評価された。

電源開発（総合評価点：68.4点、第5位←9位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（73%）が第4位、説明会等（64%）が2社同得点第9位、フェア・ディスクロージャー（74%）が2社同得点第5位、コーポレート・ガバナンス関連（49%）が第5位、自主的情報開示（80%）が第4位となった。

同社は、経営陣のIR姿勢等においては、説明会等で経営トップが自らの言葉で率直に語っていることや、IR担当者等と有益なディスカッションができることなどが評価された。

また、自主的情報開示においては、経営計画についての説明が十分に行われていることが高く評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

中国電力（総合評価点：68.0点、第6位←4位、フェア・ディスクロージャー（81%）2社
同得点第1位）

同社は、フェア・ディスクロージャーにおいて、情報開示に際し、不公平や混乱が生じ
ないよう十分な注意を払っているかの項目など、フェア・ディスクロージャーへの取り組
み姿勢のほか、ホームページでの有用な情報提供が高く評価された。

九州電力（総合評価点：67.8点、第7位←8位、説明会等（73%）第3位）

同社は、説明会等において、決算短信および補足資料に、主要諸元の感応度、主要費用な
ど関心度の高い数値が適切に記載されていることが高く評価された。そのほか、見通しの分
析に必要な情報（販売量、主要費用項目、設備計画等）を分かりやすく、かつ十分に記載し
ていることなども評価された。

関西電力（総合評価点：67.1点、第8位←10位、経営陣のIR姿勢等（70%）第5位、説明
会等（69%）第5位）

同社は、IR部門の情報集積度が高く、有益なディスカッションができることが評価され
た。また、決算短信および補足資料に、主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値
が適切に記載されていることなどが高い評価を受けた。

以 上

平成18年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (電力・ガス)

(単位：点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢・IR専門の機能・IRの基本スタンス [評価項目5] (配点29点)		2 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示 [評価項目7] (配点33点)		3. フェア・ディスクロージャー [評価項目4] (配点20点)		4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示 [評価項目1] (配点10点)		5. 各業種の状態に即した自主的な情報開示 [評価項目2] (配点8点)		昨年度 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	東京瓦斯	82.5	24.0	1	27.9	1	16.0	3	7.6	1	7.0	1	1
2	大阪瓦斯	78.3	21.6	2	27.6	2	16.1	1	6.1	2	6.9	2	2
3	東京電力	69.8	19.6	6	23.8	4	15.4	4	4.5	7	6.5	3	6
4	東邦瓦斯	69.5	21.5	3	22.3	7	14.4	8	5.4	3	5.9	7	3
5	電源開発	68.4	21.3	4	21.0	9	14.8	5	4.9	5	6.4	4	9
6	中国電力	68.0	19.4	8	22.5	6	16.1	1	4.2	11	5.8	9	4
7	九州電力	67.8	19.5	7	24.0	3	14.1	9	4.4	9	5.8	9	8
8	関西電力	67.1	20.2	5	22.7	5	13.7	12	4.5	7	6.0	6	10
9	東北電力	64.2	19.2	9	21.0	9	13.3	13	4.6	6	6.1	5	5
10	北陸電力	63.1	18.8	10	21.3	8	14.0	10	3.7	13	5.3	12	11
11	北海道電力	61.9	18.7	11	19.1	12	13.9	11	4.3	10	5.9	7	7
12	四国電力	60.7	16.2	13	19.3	11	14.5	7	5.4	3	5.3	12	12
13	中部電力	60.0	16.8	12	19.0	13	14.8	5	4.0	12	5.4	11	13
	評価対象企業評価平均点	67.8	19.8		22.4		14.7		4.9		6.0		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.6点、昨年度は5.3点であった。

平成18年度評価項目および配点一覧(電力・ガス)

1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス	配点 (29)点
(1)経営陣のIR姿勢	
① 説明会等における経営トップの経営方針の説明は有益ですか。	7
② 経営トップがIRを重要と認識していると思いますか。	7
(2)IR部門の機能	
① IR部門に十分かつ正確な情報が集積されているか、あるいはIR部門以外へのインタビュー等は容易ですか。	5
② IR担当者等と有益なディスカッションができますか。	5
(3)IRの基本スタンス	
・ 経営分析を行ううえで必要かつ重要な情報の開示の継続性に配慮がなされていますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	配点 (33)点
(1)説明資料等(短信およびその附属資料を含む)における開示	
① 決算短信および補足資料(TDネット掲載ベース)	
・ 主要諸元の感応度、主要費用など関心度の高い数値が決算短信あるいは補足資料に適切に記載されていますか。	5
② 説明会資料等における実績の開示	
A 収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。	5
B 部門別あるいは主要子会社別等の実績データが投資家の関心に即して十分に記載されていますか。	5
③ 説明会資料等における見通し開示	
A 見通しの分析に必要な情報(販売量、主要費用項目、設備計画等)が分かやすく、かつ十分に記載されていますか。	5
B 部門別あるいは主要子会社別等の収益見通し等、損益の分析に必要な情報は十分に記載されていますか。	5
(2)説明会、インタビューにおける開示	
・ 短信および説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	7
(3)四半期情報開示	
・ 四半期の情報開示は適切に行われていますか。 そう言える:1点 そう言えない:0点	1
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (20)点
(1)フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	5
② 投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、事故・災害、リスク情報等)の開示は迅速に行われていますか。	5
(2)ホームページにおける情報提供	
・ ホームページで有用な情報提供を行っていますか。	5
(3)英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は充実していますか。	5
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10)点
資本政策、株主還元策の開示	
・ 今後の資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	10
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (8)点
(1) 経営計画の説明は十分に行われていますか。	4
(2) ファクトブック、アニュアルレポート等の内容は充実していますか。	4

電力・ガス専門部会委員

部会長	伊藤 敏憲	UBS証券
部会長代理	阿部 聖史	大和総研
	酒井田 浩之	クレディ・スイス証券
	角田 樹哉	みずほ証券
	圓尾 雅則	ドイツ証券
	村端 誠	三菱UFJ信託銀行
	望陀 謙智	日興シテイクグループ証券

評価実施アナリスト（22名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない1名を含む〉）

阿部 聖史	大和総研	為我井 純一	住友信託銀行
荒木 健次	農林中金全共連アセットマネジメント	角田 樹哉	みずほ証券
伊藤 敏憲	UBS証券会社	二瓶 博和	クレディ・スイス投信
岩谷 渉平	ユー・ピー・エス・グローバル・アセット・マネジメント	服部 哲也	大和証券投資信託委託
上野 賢司	損保ジャパン・アセットマネジメント	秀 一浩	ドイツ・アセット・マネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント投信	圓尾 雅則	ドイツ証券
加藤 守	東海東京調査センター	三木 泰二	みずほ信託銀行
河内 宏文	みずほインベスターズ証券	南 純一	明治トレスナー・アセットマネジメント
小松 雅彦	シュローガー投信投資顧問	村端 誠	三菱UFJ信託銀行
酒井田 浩之	クレディ・スイス証券	望陀 謙智	日興シテイクグループ証券
佐野 圭介	朝日ライフアセットマネジメント		

運輸

東京急行電鉄、京王電鉄、東日本旅客鉄道、西日本旅客鉄道、東海旅客鉄道、日本通運、ヤマトホールディングス、福山通運、セイノーホールディングス、日本郵船、商船三井、川崎汽船、全日本空輸、日本航空 (計 14 社)

1. 評価方法等

(1) 評価基準 (スコアシート) の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢・IR 部門の機能・IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	29
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	説明会等	6	35
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	14
計		18	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 70 頁参照

(2) 評価実施 (スコアシート記入) アナリストは 22 社の 22 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである (評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 69 頁参照)。

本年度の総合評価平均点は、昨年度の 71.9 点より僅かに低下し 71.2 点となった。

評価項目の 5 分野について平均得点率 (評価対象企業の平均点/配点 (以下省略)) を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 68%、説明会等が 74%、フェア・ディスクロージャーが 79%、コーポレート・ガバナンス関連が 65%、自主的情報開示が 70%と 5 分野とも総じて高い評価結果となった。

個別評価企業の総合評価点を見ても、14 社中 8 社は 70 点以上であり、特に上位の 4 社は 80 点以上で格差も僅差となっている。

さらに、具体的評価項目について見ると、全評価項目 18 のうち 12 項目の平均得点率が 70%を上回っており、特に、最も高かった経営陣の IR 姿勢等における、業績動向にかかわらず IR 姿勢は一貫しているか (平均得点率 87%) については、評価対象企業 14 社中 12 社の得点率 (評価点/配点 (以下省略)) が 80%以上で、うち、8 社が 90%以上の極めて高い評価を受けた。また、次に高得点率のフェア・ディスクロージャーにおける、経営陣およ

び IR 部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っているか（平均得点率 82%）についても、11 社が 80%以上の評価を受けた。

さらに、業態別の総合評価平均点を昨年度と比較して見ると、海運 78.8 点（昨年度 80.9 点）、空運 73.8 点（同 74.6 点）、陸運 68.0 点（同 68.3 点）となり、順位に変更はないが海運と空運の格差がやや縮小（5.0 点←6.3 点）している。

なお、各評価対象企業の総合評価点の標準偏差は、昨年度の 10.1 点から 10.5 点と僅かに拡大した。

また、評価実施アナリストの意見を見ると、取材等への適切な対応など IR 部門の機能の充実や、説明会資料等の内容の充実を評価する声もあった。

今後、改善が望まれる項目としては、中・下位評価企業を中心に、経営トップ等による決算説明会以外の有益なミーティングの場の設定（平均得点率 51%）、施設見学会、事業説明会、IR 部門以外とのミーティング等の積極的な実施（同 58%）、および、資本政策、株主還元策についての十分な説明（同 60%）などが挙げられる。

(2) 上位個別企業の評価概要

東日本旅客鉄道（ディスクロージャー優良企業、総合評価点：83.7 点、第 1 位←2 位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（得点率〈以下省略〉80%）が第 4 位、説明会等（85%）が第 2 位、フェア・ディスクロージャー（88%）が 2 社同得点第 2 位、コーポレート・ガバナンス関連（86%）および自主的情報開示（84%）が第 1 位となった。

上位の評価となった分野別に具体的にみると、経営陣の IR 姿勢等においては、IR 部門の担当者と有益なディスカッションができることなど、同部門の機能が充実していることが高い評価を受けた。また、業績動向にかかわらず IR の姿勢が一貫していることでトップの評価を受けた。

説明会等においては、決算説明会における説明および質疑応答が十分に満足できることのほか、短信および同時配布資料における開示が定性的かつ定量的に十分に行なわれていることなど、決算説明会資料が充実していることが高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、ホームページに過去の長期財務データなど当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載されており、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしていることなどが高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策についての十分な説明、および、中期経営計画を公表し、その後の進捗状況について説明していることが評価された。

自主的情報開示においては、日本語版のアンニュアルレポート、ファクトブックの内容が充実していることが高い評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

日本郵船（総合評価点：80.9点、第2位←3位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（84%）が第1位、説明会等（76%）が第6位、フェア・ディスクロージャー（88%）が2社同得点第2位、コーポレート・ガバナンス関連（83%）が第2位、自主的情報開示（79%）が第3位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップ等が決算説明会以外に定期的に有益なミーティングの場を設定しているなど、経営陣の IR への取組み姿勢が積極的であることが高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策について十分に説明していることなどが高く評価された。

自主的情報開示においては、施設見学会や事業説明会を積極的に実施していることなどでトップの評価を受けた。

以上のほか、説明会等において、有益な四半期情報を適切かつタイムリーに開示していることなども高く評価された。

商船三井（総合評価点：80.8点、第3位←1位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（82%）が第2位、説明会等（79%）が第4位、フェア・ディスクロージャー（90%）が第1位、コーポレート・ガバナンス関連（82%）が第3位、自主的情報開示（74%）が第6位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、決算説明会に経営トップ自らが出席し、経営方針などについて十分に説明していることのほか、経営トップ等が決算説明会以外にもミーティングの場を設定しているなど、経営陣の IR への取組み姿勢でトップの評価を受けた。

説明会等においては、有益な四半期情報を適切かつタイムリーに開示していることなどが高く評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページに過去の長期財務データや海運市況データなど当該企業を分析するために必要な基本的情報を十分に掲載し、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしていることが極めて高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画を公表し、その後の進捗状況について説明していることが評価された。

自主的情報開示においては、日本語版のアニュアルレポート、ファクトブックの内容の充実が極めて高い評価を受けた。

西日本旅客鉄道（総合評価点：80.0点、第4位←6位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（79%）が第5位、説明会等（83%）が第3位、フェア・ディスクロージャー（88%）が2社同得点第4位、コーポレート・ガバナンス関連（66%）が第8位、自主的情報開示（77%）が第4位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、IR 部門の担当者と有益なディスカッションができることなど、同部門の機能が充実していることが評価された。また、業績動向にかかわらず IR の姿勢が一貫していることも高い評価を受けた。

説明会等においては、期中において連結ベースの有益な情報を十分に開示していることや、決算短信および同時配布資料における開示が定性的かつ定量的に十分行われていることなどが高く評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、経営陣および IR 部門が情報開示に際し不公平が生じないように注意を払っていることなどが評価を受けた。

自主的情報開示においては、適時に月次情報を開示しているほか、日本語版のアンニュアルレポート、ファクトブックの内容が充実していることが高く評価された。

全日本空輸（総合評価点：79.7点、第5位←4位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（81%）が第3位、説明会等（78%）が第5位、フェア・ディスクロージャー（86%）およびコーポレート・ガバナンス関連（73%）が第6位、自主的情報開示（82%）が第2位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、決算説明会に経営トップ等が自ら出席し、経営方針と決算情報を区分して二部構成形式で十分に説明していることが極めて高い評価を受けた。また、IR 部門の担当者と有益なディスカッションができることなど、同部門の機能が充実していることも高く評価された。

説明会等においては、決算説明会における説明および質疑応答が十分に満足できることが高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、タイムリーな施設見学会などが評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

東京急行電鉄（総合評価点：78.5点、第6位←5位、説明会等（87%）第1位、コーポレート・ガバナンス関連（79%）第5位）

同社は、説明会資料に、実績や見通しの分析に必要なデータを十分に記載していることや、決算短信および同時配布資料における開示が定性的かつ定量的に十分行われていることなど、説明資料等に関する評価項目のすべてにおいてトップと評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、中期経営計画を公表し、その後の進捗状況について説明していることでトップの評価を受けた。

上記のほか、経営陣の IR 姿勢等において、IR 部門の担当者と有益なディスカッションができることなど同部門の機能が充実していることが高く評価された。

以 上

平成18年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (運輸)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢・IRの基本スタンス [評価項目4] (配点29点)		2 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示 [評価項目6] (配点35点)		3. フェア・ディスクロージャー [評価項目3] (配点12点)		4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示 [評価項目2] (配点10点)		5. 各業種に即した自主的な情報開示 [評価項目3] (配点14点)		昨年度 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	東日本旅客鉄道	83.7	23.1	4	29.6	2	10.6	2	8.6	1	11.8	1	2
2	日本郵船	80.9	24.3	1	26.7	6	10.6	2	8.3	2	11.0	3	3
3	商船三井	80.8	23.9	2	27.5	4	10.8	1	8.2	3	10.4	6	1
4	西日本旅客鉄道	80.0	23.0	5	29.1	3	10.5	4	6.6	8	10.8	4	6
5	全日本空輸	79.7	23.4	3	27.2	5	10.3	6	7.3	6	11.5	2	4
6	東京急行電鉄	78.5	20.5	7	30.5	1	9.8	8	7.9	5	9.8	8	5
7	川崎汽船	74.6	20.9	6	25.2	9	10.5	4	8.1	4	9.9	7	7
8	ヤマトホールディングス	70.8	19.0	8	25.6	8	9.4	9	7.2	7	9.6	10	8
9	日本航空	67.8	18.8	9	23.7	11	10.0	7	5.5	10	9.8	8	10
10	京王電鉄	67.2	16.0	11	26.6	7	9.4	9	5.7	9	9.5	11	9
11	日本通運	64.1	17.1	10	22.5	13	8.4	12	5.4	11	10.7	5	12
12	東海旅客鉄道	63.1	15.0	13	25.2	9	9.3	11	4.2	12	9.4	12	11
13	福山通運	52.7	14.9	14	22.7	12	6.5	14	3.3	14	5.3	14	14
14	セイノーホールディングス	51.6	15.3	12	18.4	14	7.0	13	4.1	13	6.8	13	13
	評価対象企業評価平均点	71.2	19.7		25.8		9.5		6.5		9.7		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は10.5点、昨年度は10.1点であった。

18年度評価項目および配点一覧(運輸)

1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス	配点 (29)点
(1)経営陣のIR姿勢	
① 決算説明会に経営トップ等が自ら出席して経営方針などを十分に説明していますか。	6
② 経営トップ等が決算説明会以外に有益なミーティングの場を設定していますか。	8
(2)IR部門の機能	
・ IR部門が十分に機能していますか。(アクセスの容易性、ディスカッションの有益性、情報開示の手法等) 平均的評価=5点	10
(3)IRの基本スタンス	
・ 業績動向にかかわらずIR姿勢は一貫していますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	配点 (35)点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
① 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	6
② 期中において連結ベースの有益な情報が十分に開示されていますか。	4
(2)説明資料等(短信およびその附属資料を含む)における開示	
① 実績の分析に必要なデータ(バランスシートおよびキャッシュフローを含む)は十分に記載されていますか。	7
② 見通しの分析に必要なデータ(前提条件、バランスシートおよびキャッシュフローを含む)は十分に記載されていますか。	7
③ 決算短信および同時配布資料における開示が定性的かつ定量的に十分行われていますか。	6
(3)四半期情報開示	
・ 有益な四半期情報が適切かつタイムリーに開示されていますか。	5
3. フェア・ディスクロージャー	配点 (12)点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	4
(2)ホームページにおける情報提供	
・ ホームページに過去の長期財務データなど当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしていますか。	4
(3)英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は充実していますか。	4
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10)点
(1)資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(2)目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (14)点
① 有益な月次情報が、タイムリーかつ積極的に開示されていますか。(Eメール、FAX、ホームページ等で)	4
② 施設見学会・事業説明会・IR部門以外とのミーティング等を積極的に実施していますか。	5
③ 日本語版のアンニュアルレポート、ファクトブックの内容は充実していますか。	5

運輸専門部会委員

部会長	手塚 裕一	住友信託銀行
部会長代理	板崎 王亮	クレディ・スイス証券
	尾坂 拓也	野村証券
	國枝 哲	みずほ証券
	原田 潤	UBS 証券
	一柳 創	大和総研
	松本 直子	日興シイグループ証券

評価実施アナリスト (22名)

安藤 誠悟	MU 投資顧問	高島 淳	野村アセットマネジメント
板崎 王亮	クレディ・スイス証券	土屋 康仁	リクルート日本証券
今井 るみ子	ソシエティ・ジェネラルアセットマネジメント	勅使河原 充	朝日ライフアセットマネジメント
岩谷 渉平	ユー・ビー・シー・グローバルアセットマネジメント	手塚 裕一	住友信託銀行
尾坂 拓也	野村証券	二瓶 博和	クレディ・スイス投信
長久部 輝継	農林中金全共連アセットマネジメント	原田 潤	UBS 証券会社
岸 恭彦	みずほインベスターズ証券	一柳 創	大和総研
國枝 哲	みずほ証券	松本 淳平	大和証券投資信託委託
小松 雅彦	シュローダー投信投資顧問	松本 直子	日興シイグループ証券
坂井 早苗	三井住友アセットマネジメント	三木 泰二	みずほ信託銀行
副島 智一	モルガン・スタンレー証券	若林 祐二	富国生命投資顧問

通 信

〔イー・アクセス、日本電信電話、KDDI、エヌ・ティ・ティ・ドコモ、
ジェイサット、ソフトバンク (計6社)〕

1. 評価方法等業態

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢・IR 部門の機能・IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	説明会等	6	32
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	6	20
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	8
計		20	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 76 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 34 社の 34 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 75 頁参照）。

本年度の総合評価平均点は 66.8 点となり、評価対象企業のうち 2 社の評価が昨年度に比べて比較的大きく低下したこともあって昨年度の 68.9 点を 2.1 点下回った。評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 67%、説明会等が 68%、フェア・ディスクロージャーが 72%、コーポレート・ガバナンス関連が 59%、自主的情報開示が 62%であった。

さらに、具体的評価項目について見ると、最も平均得点率の高かった、フェア・ディスクロージャーにおける、決算説明会等で配布された資料は原則としてフリーアクセス媒体でも入手が可能かの項目（平均得点率 95%）については、すべての評価対象企業の得点率（〔評価点／配点〕（以下省略））が 85%以上の高い評価となった。そのほか、説明会等における、過去の四半期情報は、証券アナリストが分析を行うにあたり、連続的にフォローできるように開示されているかの項目について、1 社を除き 80%以上の得点率になっている。

一方、コーポレート・ガバナンス関連については、昨年度に引続き平均得点率が 50%台の評価結果であり、この分野における、特に、中・長期経営計画（目標とする経営指標等）の公表とその後の進捗状況・達成のための具体的方策についての十分な説明の項目（同 53%）

については、評価対象企業各社につき改善が強く望まれるところである。

そのほか、1社を除き、特に改善が望まれる項目としては、フェア・ディスクロージャーにおける、説明会のオンデマンド配信のリプレイの閲覧が即日可能であるか（平均得点率42%）が挙げられる。

なお、評価対象企業間では昨年度に引続き評価点にばらつきが見られる。ちなみに、開示格差（1位企業の評価点/最下位企業の評価点）について見ると、1位企業が79.5点、最下位企業が53.4点で、昨年度と同水準の1.5倍であった。

(2) 上位個別企業の評価概要

KDDI（ディスクロージャー優良企業 [4回連続]、総合評価点：79.5点、第1位←1位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（得点率（以下省略）78%）および説明会等（83%）が第1位、フェア・ディスクロージャー（77%）が第3位、コーポレート・ガバナンス関連（71%）が2社同得点第1位、自主的情報開示（86%）が第1位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、トップを中心とした経営陣のIR活動の積極性や、IR部門の機能の充実度が業界一であるとの高い評価を受けた。

説明会等においては、決算説明会での説明と質疑応答が十分満足できることが高い評価を受けた。また、四半期を含む決算発表日に、決算内容の理解に必要な補足情報を付属資料で開示していることのほか、説明資料に、事業別に費用の実績および見通しを開示していることなどが高く評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、投資家にとって重要と判断される事項の開示がタイムリーかつ十分に行われていることなどが高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、配当政策に関する中期的な方針の開示が評価された。

自主的情報開示においては、投資家の関心が高い技術テーマに関するセミナーを開催しその内容が有益であったことなど、この分野の具体的評価項目のすべてにおいてトップの評価を受けた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

エヌ・ティ・ティ・ドコモ（総合評価点：77.5点、第2位←2位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（74%）および説明会等（82%）が第2位、フェア・ディスクロージャー（81%）が第1位、コーポレート・ガバナンス関連（63%）が第4位、自主的情報開示（83%）が第2位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、トップマネジメントとのミーティングにおいて、有益なディスカッションができることが評価された。

説明会等においては、説明資料に、トラフィックおよび加入者情報の四半期ごとの実績や

見通しを開示していることなどが高く評価された。このほか、過去の四半期情報が、証券アナリストが分析を行うにあたり、連続的にフォローできるように開示されていることなどが高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていることなど、フェア・ディスクロージャーへの取り組み姿勢が高く評価された。また、アニュアルレポート、ファクトブックおよび決算短信の英語版をタイムリーに、かつ充実した内容で作成していることなどが極めて高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、会社の注目されるサービスないし施設を紹介する機会を設け、その内容が有益であったことや、E-mail を利用して記者発表資料等の有用な情報提供を行っていることが高く評価された。

日本電信電話（総合評価点：72.6点、第3位←3位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（67%）および説明会等（74%）が第3位、フェア・ディスクロージャー（79%）が第2位、コーポレート・ガバナンス関連（71%）が2社同得点第1位、自主的情報開示（75%）が第3位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、説明会等においては、説明資料に、設備状況（投資金額についての内訳の実績と見通し等）を開示していることなどが評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、経営陣および IR 部門が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていることなど、フェア・ディスクロージャーへの取り組み姿勢が評価された。また、アニュアルレポート、ファクトブックおよび決算短信の英語版をタイムリーに、かつ充実した内容で作成していることなどが高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、社長の定例記者会見の内容が迅速かつ十分に開示されていることや、E-mail を利用して記者発表資料等の有用な情報提供を行っていることが高く評価された。

以 上

平成 18 年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (通信)

(単位：点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣の IR 姿勢・IR 部門の機能・IR タクティクス 評価項目 3 (配点 30 点)		2 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示 評価項目 6 (配点 32 点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目 6 (配点 20 点)		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目 2 (配点 10 点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目 3 (配点 8 点)		昨年度 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	KDDI	79.5	23.5	1	26.6	1	15.4	3	7.1	1	6.9	1	1
2	エヌ・ティ・ティ・ドコモ	77.5	22.1	2	26.3	2	16.2	1	6.3	4	6.6	2	2
3	日本電信電話	72.6	20.2	3	23.6	3	15.7	2	7.1	1	6.0	3	3
4	イー・アクセス	62.2	19.0	4	21.3	4	12.5	5	6.4	3	3.0	5	4
5	ジェイネット	56.0	18.3	5	18.0	5	11.9	6	5.0	5	2.8	6	5
6	ソフトバンク	53.4	17.0	6	14.0	6	14.1	4	3.7	6	4.6	4	6
	評価対象企業評価平均点	66.8	20.0		21.6		14.3		5.9		5.0		

18年度評価項目および配点一覧(通信)

1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス	配点 (30)点
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 会社主催のトップマネジメントとのミーティングにおいて、有益なディスカッションができますか。	10
(2) IR部門の機能	
・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	10
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	配点 (32)点
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
・ 決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
(2) 説明資料等(短信およびその附属資料を含む)における開示	
① 決算発表日(四半期を含む)に決算内容の理解に必要な補足情報(サービス別売上・加入者、主な関係会社の業績、設備投資・減価償却費、サービス別EBITDA、電通・附帯別営業損益などの実績および予測値など)が付属資料などで開示されていますか。	6
② トラフィックおよび加入者情報(ARPU、回数、分数、解約率、CAQ、端末販売・在庫台数等)の四半期ごとの実績および見通しが十分に開示されていますか。	6
③ 事業別もしくは会社別に費用(物件費の内訳、代理店手数料、通信設備使用料、端末原価等)の実績および見通しは十分に開示されていますか。	6
④ 設備状況(投資金額・内訳の実績および見通し、稼働状況等)および研究開発について十分に開示されていますか。	4
(3) 四半期情報開示	
・ 証券アナリストが分析を行うに当たり、過去の四半期情報が連続的にフォローできるように開示が行われていますか。	5
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (20)点
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	6
② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば業績修正発表、新サービス・新技術、設備投資計画の変更、料金改定、法改正の影響等)のディスクロージャーは、タイムリーかつ十分でしたか。	4
③ 合併・提携・事業の統廃合などがP/LおよびBSに与える影響について、迅速かつ十分に開示されていますか。	4
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
① 決算説明会等で配布された資料は原則としてフリーアクセス媒体でも入手が可能ですか。	2
② 説明会のオンデマンド配信のリプレイは即日ないし翌日に閲覧が可能ですか。 (即日:2点 翌日:1点 その他:0点)	2
(3) 英語による情報提供の即時性	
・ 説明会資料、アニュアルレポート、ファクトブックなどは英語で同時に作成され、また、説明会会場における和英同時通訳体制が完備されていますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10)点
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(2) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画(目標とする経営指標等)を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分に説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (8)点
① 会社の注目されるサービスないし施設を紹介する機会を設けており、それは有益でしたか。	3
② 社長の定例記者会見の内容は、迅速かつ十分な内容で開示されていますか。	3
③ E-mailを利用して有用な情報(記者発表資料等)提供を行っていますか。	2

通信専門部会委員

部会長	乾 牧夫	UBS証券
部会長代理	忍足 大介	J. P. モルガン信託銀行
	佐分 博信	三菱UFJ証券
	高橋 篤朗	みずほ証券
	田中 宏典	モルガン・スタンレー証券
	西村 賢治	大和総研
	増野 大作	野村證券

評価実施アナリスト（34名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない3名を含む〉）

石井 隆一	立花証券	種元 文周	モルガン・スタンレー・アセット・マネジメント投信
伊藤 彰洋	三井住友アセットマネジメント	寺島 正	大和証券投資信託委託
乾 牧夫	UBS証券会社	徳永 祐美	ニッセイアセットマネジメント
臼井 規	ラザート・ジャパン・アセット・マネジメント	徳野 央彦	三菱UFJ信託銀行
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント投信	納 博司	いちよし経済研究所
大野 健太	明治安田生命保険	西村 賢治	大和総研
忍足 大介	J. P. モルガン信託銀行	早川 仁	クレディ・スイス証券
川又 信之	東海東京調査センター	東浦 久雄	野村アセットマネジメント
合田 泰政	リリント日本証券	平井 明子	シュローダー投信投資顧問
小山 洋美	国際投信投資顧問	蛭川 修一	明治トレンスナー・アセットマネジメント
佐分 博信	三菱UFJ証券	細井 亨	日興シテイクグループ証券
鈴木 達也	三井アセット信託銀行	正木 裕二	損保ジャパン・アセットマネジメント
高橋 篤朗	みずほ証券	増野 大作	野村證券
滝口 圭介	興銀第一ライフ・アセットマネジメント	松尾 十作	水戸証券
田嶋 由利子	住友信託銀行	水口 活也	SMBCフレンド調査センター
田中 宏典	モルガン・スタンレー証券		

商 社

〔 伊藤忠商事、丸紅、豊田通商、三井物産、住友商事、三菱商事
（計 6 社） 〕

1. 評価方法等

本年度は、評価対象企業として新たに豊田通商を追加し、計 6 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢・IR 部門の機能・IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	40
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	説明会等	12	33
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	9
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	8
計		25	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 83 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 25 社の 25 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 82 頁参照）。

本年度の総合評価平均点は、昨年度の 70.0 点より 0.2 点上昇し 70.2 点となった。評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 67%、説明会等が 69%、フェア・ディスクロージャーが 87%、コーポレート・ガバナンス関連が 68%、自主的情報開示が 71%と 5 分野とも高い評価結果となった。

さらに、具体的評価項目について見ると、平均得点率が最も高かったフェア・ディスクロージャーにおける、対外的プレゼンテーション資料が遅滞なくホーム・ページに掲載されているか（90%）、および、英文による情報提供は充実しているか（90%）の二つの項目については、評価対象企業のうち 1 社を除くすべてが得点率（〔評価点／配点〕（以下省略））90%以上の評価を受けた。

なお、評価対象企業間の開示格差（1 位企業の評価点／最下位企業の評価点）は、1 位が

76.7点、最下位が61.6点で昨年度と同じく1.2倍となった。

今後、総じて改善が望まれる点としては、税効果が損益に与える影響についての十分な説明（平均得点率52%）が挙げられる。

(2) 上位個別企業の評価概要

三菱商事（ディスクロージャー優良企業[11回連続]、総合評価点：76.7点、第1位←1位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率（以下省略）74%）、**説明会等**（76%）および**フェア・ディスクロージャー**（90%）がそれぞれ第1位、**コーポレート・ガバナンス関連**（73%）が第2位、**自主的情報開示**（80%）が第1位となった。

上位の評価となった分野別に具体的にみると、**経営陣のIR姿勢等**においては、全体としての経営陣のIRへの積極的な取組み姿勢が業界内で最も高く評価された。また、IR部門に十分な情報がタイムリーに集積され、担当者と有益なディスカッションができることのほか、同部門が、積極的に各事業部のトップや事業部門全般について語れる人へのインタビュー等をアレンジしていることなど、同部門の機能が充実していることが評価された。

説明会等においては、説明会、インタビューでの次期の事業計画および中長期の経営方針の具体的な説明や、質疑応答が十分に満足できるものであることが高く評価された。また、説明資料等に、為替や金利変動リスクに対する損益の感応度を十分に記載していることなど、同資料の内容が充実していることが高い評価を受けた。加えて、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示していることも評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、その取組み姿勢などこの分野全体について高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、本・中間決算以外に有益な説明会および見学会を開催していることが評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

住友商事（高水準のディスクロージャーを連続維持している企業[今回第2位、前回まで第3位2回連続]）総合評価点：74.0点、第2位←3位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（70%）および**説明会等**（73%）が第2位、**フェア・ディスクロージャー**（89%）が2社同得点第2位、**コーポレート・ガバナンス関連**（79%）が第1位、**自主的情報開示**（75%）が第3位となった。

上位の評価となった分野別に具体的にみると、**経営陣のIR姿勢等**においては、全体としての経営陣のIRへの取組み姿勢が積極的であることが高い評価を受けたほか、IR部門に十分な情報がタイムリーに集積され、担当者と有益なディスカッションができることなども評価された。

説明会等においては、説明会、インタビューで、次期の事業計画および中長期の経営方針を具体的に説明していることが高く評価され、また、説明資料等に、業績の好・不調を問わ

ず主要な子会社等の損益変動、見通しを十分に記載していることが極めて高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページで有用な情報提供を行っていることなどが高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、重視する経営指標（リスク・リターン指標等）とその目標、それを採用する理由、目標達成の具体的方策と進捗状況についての説明や、資本政策、株主還元策に対する考え方についての説明が十分であることが評価された。

以上の結果、同社は、3回連続して上位（第2位・第3位）の評価を受けた。同社がこのように高水準のディスクロージャーを連続して維持するために払っている努力は、高く評価できるものと認められる。

伊藤忠商事（総合評価点：70.7点、第3位←5位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（66%）が第4位、説明会等（72%）が第3位、フェア・ディスクロージャー（89%）が2社同得点第2位、コーポレート・ガバナンス関連（64%）が第4位、自主的情報開示（76%）が第2位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、説明会等においては、業績の好・不調を問わず主要な子会社等の損益変動と見通しを十分に記載していることなどが高い評価を受けた。また、四半期決算の内容の理解に必要な補足情報を十分に開示していることも高く評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、その取組み姿勢などこの分野全体について高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、本・中間決算説明会以外に、事業別説明会や見学会等を開催していることが評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

丸紅（総合評価点：69.5点、第4位←4位、経営陣のIR姿勢等（68%）第3位）

同社は、経営陣のIR姿勢等において、決算説明会、またはミーティングにおいて、社長と今後の経営方針等について有意義なディスカッションができることが評価された。

三井物産（総合評価点：68.9点、第5位←2位、コーポレート・ガバナンス関連（67%）第3位）

同社は、コーポレート・ガバナンス関連において、株主還元策に対する考え方を十分に説明していることが高い評価を受けた。

上記のほか、説明会等において、説明資料等に、持分法投資損益のセグメント別実績および変動要因を十分に記載していることなどが高く評価された。

豊田通商（総合評価点：61.6点、第6位、新規対象企業）

同社は、本年度新たに評価対象企業となったが、決算説明会、またはミーティングにおいて、社長と今後の経営方針等についてディスカッションができることが評価された。

以 上

平成18年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (商社)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス 評価項目5 (配点40点)		2 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半開示 評価項目12 (配点33点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目4 (配点10点)		4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示 評価項目2 (配点9点)		5. 各業種の状態に即した自主的な情報開示 評価項目2 (配点8点)		昨年度 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	三菱商事	76.7	29.6	1	25.1	1	9.0	1	6.6	2	6.4	1	1
2	住友商事	74.0	27.9	2	24.1	2	8.9	2	7.1	1	6.0	3	3
3	伊藤忠商事	70.7	26.2	4	23.7	3	8.9	2	5.8	4	6.1	2	5
4	丸紅	69.5	27.0	3	22.3	5	8.8	4	5.7	5	5.7	4	4
5	三井物産	68.9	25.8	5	23.4	4	8.8	4	6.0	3	4.9	6	2
6	豊田通商	61.6	24.4	6	18.7	6	7.9	6	5.5	6	5.1	5	未実施
	評価対象企業評価平均点	70.2	26.8		22.9		8.7		6.1		5.7		

18年度評価項目および配点一覧(商社)

1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス		配点 (40)点
(1)経営陣のIR姿勢		
①決算説明会、またはミーティングにおいて、会長または社長と今後の経営方針等について有意義なディスカッションが出来ますか。		10
②全体として経営陣のIR姿勢をあなたはどう評価しますか。		5
(2)IR部門の機能		
①IR部門に十分な情報がタイムリーに集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。		10
②IR部門が積極的に各事業部のトップや事業部門全般について語れる人へのインタビュー等をアレンジしてくれますか。		5
(3)IRの基本スタンス		
・会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。		10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示		配点 (33)点
(1)説明会、インタビューにおける開示		
①次期の事業計画および中長期の経営方針が具体的に説明されていますか。		4
②質疑応答は十分に満足できるものですか。		4
(2)説明資料等(短借およびその附属資料を含む)における開示		
①受取利息、支払利息、受取配当金(国内・外)の内訳の実績と増減要因は十分に記載されていますか。 そう言える=1点 そう言えない=0点		1
②貸倒引当金繰入額、固定資産にかかわる損益、有価証券損益およびその他特別な損益の内訳の実績と発生理由は十分に記載されていますか。 そう言える=1点 そう言えない=0点		1
③税効果が損益に与える影響について十分に説明されていますか。		3
④通期の事業計画の詳細(セグメント別純利益予想など)が記載されていますか。		3
⑤主要国・地域別および事業部門別の投資、融資、債務保証残高およびそれらの変動要因が十分に記載されていますか。		2
⑥持分法投資損益のセグメント別実績および変動要因は十分に記載されていますか。		3
⑦業績の好・不調を問わず主要な子会社、関連会社、グループ関係企業の損益変動・その要因、見通しが十分に記載されていますか。		2
⑧為替や金利変動リスクに対するバランスシート(資産、負債共に)および損益の感応度が十分に記載されていますか。		3
⑨連結対象会社数の増減等によって生じた収益への影響は詳細に記載されていますか。		2
(3)四半期情報開示		
・四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。		5
3. フェア・ディスクロージャー		配点 (10)点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取り組み姿勢		
・投資家にとって重要と判断される事項(例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、合併・提携、大規模な投融資、グループの再編、リスク情報等)の開示は遅滞なく行われていますか。		3
(2)ホーム・ページにおける情報提供		
①ホーム・ページで有用な情報提供を行っていますか。		3
②対外的プレゼンテーション資料が遅滞なくホーム・ページに掲載されていますか。		3
(3)英文による情報提供		
・英文による情報提供は充実していますか。 そう言える=1点 そう言えない=0点		1
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示		配点 (9)点
(1)目標とする経営指標等		
・重視する経営指標(例えば、ROE、リスク・リターン指標等)とその目標、それを採用する理由、目標達成の具体的方策と進捗状況およびその監視機構等が十分説明されていますか。		5
(2)資本政策、株主還元策の開示		
・資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていますか。		4
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示		配点 (8)点
①事業を理解するうえで重要と思われる決算(本・中間決算)以外の説明会または見学会を実施し、その内容は有益ですか。 (前年7月から今年6月の間における開催)		7
②日本語版アニュアルレポートを作成していますか。 作成あり:1点 作成なし:0点		1

商社専門部会委員

部会長	石曾根 毅	大和総研
部会長代理	副島 智一	モルガン・スタンレー証券
	重松 揮響	三井アセット信託銀行
	田嶋 由利子	住友信託銀行
	長谷川 稔	三井住友アセットマネジメント
	村上 貴史	クレディ・スイス証券
	吉田 憲一郎	ゴールドマン・サックス証券

評価実施アナリスト（25名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない4名を含む〉）

マツ・T・相沢	メリル Lynch 日本証券	重松 揮響	三井アセット信託銀行
石曾根 毅	大和総研	副島 智一	モルガン・スタンレー証券
石飛 益徳	エース証券 東京支店	田嶋 由利子	住友信託銀行
岩崎 恵司	新光投信	中尾 剛也	損保ジャパン・アセットマネジメント
大島 彰雄	野村アセットマネジメント	永島 博	ライアント・ディ・アセットマネジメント
大堀 龍介	J.P. モルガン信託銀行	永谷 修一	立花証券
長谷部 輝継	農林中金全共連アセットマネジメント	長谷川 稔	三井住友アセットマネジメント
加藤 守	東海東京調査センター	蛭川 修一	明治トレスナー・アセットマネジメント
倉内 清和	安田投信投資顧問	村上 貴史	クレディ・スイス証券
斎藤 太	ソシエティ・ジェネラルアセットマネジメント	吉田 憲一郎	ゴールドマン・サックス証券会社 東京支店
佐野 圭介	朝日ライフアセットマネジメント		

小売業

ローソン、三越、サークル K サンクス、セブン&アイ・ホールディングス、良品計画、オンワード樫山、ファミリーマート、しまむら、高島屋、大丸、伊勢丹、丸井、イオン、ユニー、ヤマダ電機、ファーストリテイリング (計 16 社)

1. 評価方法等

当業種は、昨年度まで4年間優良企業選定の評価を一時休止していたが、本年度再開し、評価対象企業として新たに良品計画、オンワード樫山、しまむら、大丸、ヤマダ電機、ファーストリテイリングの6社を追加し、計16社のディスクロージャー状況を評価した。なお、前回の評価対象企業のうち、合併によりセブン・イレブン・ジャパン、イトーヨーカ堂はセブン&アイ・ホールディングスとなり、また、シーアンドエスはサークル K サンクスとなった。

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢・IR 部門の機能・IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	20
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	説明会等	10	50
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	11
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	4	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	9
計		25	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 91 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 30 社の 34 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 90 頁参照）。

本年度の総合評価平均点は 74.7 点となった。評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 78%、説明会等が 76%、フェア・ディスクロージャーが 83%、コーポレート・ガバナンス関連が 72%、自主的情報開示が 52%となり、自主的情報開示を除く他の 4 分野は高い評価となった。

個別評価企業の総合評価点を見ると、評価対象企業 16 社中、13 社が 70 点を上回り、また、5 分野の中で最も平均得点率の高かったフェア・ディスクロージャーにおいては、12 社の得点率（評価点／配点〈以下省略〉）が 80%を上回った。

さらに、具体的評価項目における平均得点率をしてみると、全評価項目 25 のうち、18 項目が 70%を上回り、うち 11 項目は 80%以上となっている。最も平均得点率の高かったフェア・ディスクロージャーにおける、経営陣が公平な情報開示につき十分な注意を払い、重要な事項が発生した場合迅速に開示しているかの項目（86%）については、16 社中 14 社が 80%以上の得点率で、うち 9 社は 90%以上であった。

評価実施アナリストの意見を見ると、経営陣等の IR への前向きな取組み姿勢や説明資料が充実してきていることなどを評価する声があった。

今後、総じて改善が望まれる項目としては、四半期の数値を理解するために必要な事業に係る季節変動などについての十分な説明（平均得点率 58%）である。このほか、一部の評価対象企業を除いて一層の改善を期待する項目として、店舗や商品展示の見学会の積極的な実施（同 51%）などが挙げられる。

さらに、コンビニエンス・ストア、百貨店、スーパーおよび専門店の業態別に評価結果を比較して見ると、総合評価平均点は、高得点順に、コンビニエンス・ストア（3 社）：79.7 点、百貨店（5 社）：77.5 点、専門店（5 社）：71.8 点、スーパー（3 社）：69.9 点となり、コンビニエンス・ストア、百貨店の業態と専門店、スーパーの業態との間で評価結果にやや格差が見られ、特にスーパーの業態においては今後の一層の改善が望まれる。

(2) 上位個別企業の評価概要

ローソン（ディスクロージャー優良企業、総合評価点：82.6 点、第 1 位～7 位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（得点率（以下省略）87%）が第 1 位、説明会等（79%）が第 8 位、フェア・ディスクロージャー（92%）が第 1 位、コーポレート・ガバナンス関連（87%）が 2 社同得点第 1 位、自主的情報開示（78%）が第 2 位となった。

上位の評価となった分野別に具体的にみると、経営陣の IR 姿勢等においては、経営トップが決算説明会等で経営方針などについて十分に説明していることが極めて高く評価された。また、IR 部門へのアクセスが容易であることや、ディスクロージャー・IR 全体を通じて企業理念・中長期ビジョンを明確に打ち出していることも高く評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、決算説明会資料や月次のデータなど有益な情報がホーム・ページで入手が可能であることや、英文による情報提供が充実していることなどが極めて高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策や株主還元策について十分に説明していることが高く評価されたほか、経営目標について十分に説明していることも極めて高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、日本語のアンニュアル・レポートを作成していることが評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

ファミリーマート（総合評価点：80.6点、第2位←9位）

同社は、経営陣のIR姿勢等（83%）が第5位、説明会等（78%）が第10位、フェア・ディスクロージャー（89%）が2社同得点第4位、コーポレート・ガバナンス関連（75%）が2社同得点第6位、自主的情報開示（86%）が第1位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、IR部門へのアクセスが容易でかつ十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションが可能なことなど、同部門の機能が充実していることが高く評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、英文による情報提供が充実していることなどが極めて高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、店舗や商品展示の見学会を積極的に実施していることが高く評価されたほか、日本語のアンニュアル・レポートを作成していることが評価された。

大丸（総合評価点：79.4点、2社同順位第3位・新規対象企業）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（85%）が2社同得点第3位、説明会等（82%）が第1位、フェア・ディスクロージャー（88%）が3社同得点第6位、コーポレート・ガバナンス関連（78%）が第4位、自主的情報開示（43%）が第11位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、経営トップが決算説明会等で経営方針などについて十分に説明していることなど、IRへの前向きな取組み姿勢が極めて高い評価を受けた。また、ディスクロージャー・IR全体を通じて企業理念・中長期ビジョンを明確に打ち出していることも高く評価された。

説明会等においては、説明資料等に、詳細な収益実績を記載していることのほか、連結での月次の売上状況なども開示していることなどが高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、経営目標について十分に説明していることが極めて高い評価を受けたほか、現在採用している経営機構について十分な説明をしていることなども高く評価された。

伊勢丹（総合評価点：79.4点、2社同順位第3位←2位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（85%）が2社同得点第3位、説明会等（81%）が第4位、フェア・ディスクロージャー（89%）が2社同得点第4位、コーポレート・ガバナンス関連（74%）が第8位、自主的情報開示（52%）が第7位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、IR部門へのアクセスが容易でかつ十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができることなど、同部門の機能が充実していることが極めて高い評価を受けた。

説明会等においては、説明資料等に、収益実績や次期計画を詳細に記載していることなどが高く評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携等）が発生した場合、収益への影響について十分に説明していることなど、フェア・ディスクロージャーへの取組み姿勢が極めて高い評価を受けた。

丸井（総合評価点：79.2点、第5位←7位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（86%）が第2位、説明会等（81%）が2社同得点第5位、フェア・ディスクロージャー（88%）が3社同得点第6位、コーポレート・ガバナンス関連（87%）が2社同得点第1位、自主的情報開示（36%）が2社同得点第14位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、社長が決算説明会等で経営方針について説明を開始するなど、IRへの取組み姿勢が大幅に改善したことが高く評価された。また、ディスクロージャー・IR全体を通じて企業理念・中長期ビジョンを明確に打ち出していることも高い評価を受けた。

説明会等においては、決算説明会における、説明および質疑応答が十分に満足できるものであること、また、説明資料等に、収益実績や次期計画を詳細に記載していることなどが高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策や株主還元策について十分に説明していることが高い評価を受けた。加えて、現在採用している経営機構について十分に説明していることも高く評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

良品計画（総合評価点：77.8点、第6位・新規対象企業、説明会等（81%）2社同得点第5位、フェア・ディスクロージャー（90%）第3位、コーポレート・ガバナンス関連（76%）第5位）

同社は、説明会等において、説明資料等に、収益実績や次期計画を詳細に記載していることなどが高く評価された。また、四半期の動向を理解するために必要な詳細なファクトブックを作成していることが評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、投資家にとって重要と判断される事項が発生した場合、収益の影響について十分に説明していることなど、フェア・ディスクロージャーへの取組み姿勢が極めて高い評価を受けた。また、決算説明会資料や月次のデータなど有益な情報がホーム・ページで入手が可能であることも極めて高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、経営目標について十分に説明していることが高く評価された。

ファーストリテイリング（総合評価点：77.2点、第7位・新規対象企業、フェア・ディスクロージャー（91%）第2位、コーポレート・ガバナンス関連（82%）および自主的情報開示（69%）第3位）

同社は、フェア・ディスクロージャーにおいて、経営陣が公平な情報開示につき十分な注意を払い、重要な事項が発生した場合迅速に開示していることなど、フェア・ディスクロージャーへの取組み姿勢が極めて高い評価を受けた。また、決算説明会資料や月次のデータなど有益な情報がホーム・ページで入手が可能であることも極めて高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、現在採用している経営機構について十分に説明していることなどが高く評価された。

自主的情報開示においては、日本語のアンニュアル・レポートを作成していることが評価された。

以 上

平成 18 年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (小売業)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス [評価項目4] (配点20点)		2 説明会、インタビュー資料等における開示および四半期開示 [評価項目10] (配点50点)		3. フェア・ディスクロージャー [評価項目4] (配点11点)		4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示 [評価項目4] (配点10点)		5. 各業種の状態に即した自主的な情報開示 [評価項目3] (配点9点)		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	ローソン	82.6	17.3	1	39.5	8	10.1	1	8.7	1	7.0	2	7
2	ファミリーマート	80.6	16.5	5	39.1	10	9.8	4	7.5	6	7.7	1	9
3	大丸	79.4	17.0	3	41.0	1	9.7	6	7.8	4	3.9	11	未実施
3	伊勢丹	79.4	17.0	3	40.5	4	9.8	4	7.4	8	4.7	7	2
5	丸井	79.2	17.2	2	40.4	5	9.7	6	8.7	1	3.2	14	7
6	良品計画	77.8	15.9	8	40.4	5	9.9	3	7.6	5	4.0	10	未実施
7	ファーストリテイリング	77.2	16.2	7	36.6	12	10.0	2	8.2	3	6.2	3	未実施
8	しまむら	76.0	16.3	6	40.6	3	9.0	11	7.5	6	2.6	16	未実施
9	サークルKサンクス	75.9	14.9	11	38.5	11	9.7	6	6.7	11	6.1	4	未実施
10	高島屋	75.8	15.5	9	40.8	2	9.2	9	6.2	14	4.1	8	5
11	三越	73.5	14.8	12	39.8	7	9.1	10	5.7	15	4.1	8	4
12	ユニー	71.7	14.2	15	39.2	9	8.9	12	5.6	16	3.8	12	1
13	イオン	70.2	15.1	10	35.1	13	8.7	13	6.3	13	5.0	6	6
14	セブン&アイ・ホールディングス	67.9	14.3	14	32.7	15	7.6	14	7.3	9	6.0	5	未実施
15	ヤマダ電機	65.0	14.6	13	33.1	14	7.6	14	6.5	12	3.2	14	未実施
16	オンワード樺山	63.1	13.5	16	32.3	16	6.9	16	6.9	10	3.5	13	未実施
	評価対象企業評価平均点	74.7	15.6		38.1		9.1		7.2		4.7		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は5.7点、前回(平成13年度)は7.4点であった。

平成18年度評価項目および配点一覧(小売業)

1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス	配点 (20点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・経営トップが決算説明会等において経営方針などを十分に説明していますか。	5
(2) IR部門の機能	
① IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	5
② IR部門へのアクセスの容易性はどうですか。	5
(3) IRの基本スタンス	
・当該企業のディスクロージャー・IR全体を通じて企業理念・中長期ビジョンが明確に打ち出されていますか。	5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	配点 (50点)
(1) 説明会インタビューにおける開示	
・決算説明会における会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。	5
(2) 説明資料等(短信およびその附属資料を含む)における開示 [以下①-⑦については、持株会社の場合、主要事業会社についての記載を評価する]	
① 主要セグメント別の売上高、営業利益、資産、設備投資額、減価償却費について十分に記載されていますか。	5
② 次期の事業計画(営業利益、売上利益率、設備投資額、減価償却費等)が十分に記載されていますか。	5
③ 出退店についての実績および計画(売上高、設備投資額、売り場面積、総面積、開閉店時期など)が十分に記載されていますか。(コンビニエンスストアについては地域別およびタイプ別に記載する)	5
④ 販売費および一般管理費の主要項目(人件費、地代家賃、広告宣伝費など)の実績と見通しは十分に記載されていますか。	5
⑤ 地域別、商品部門別、顧客別(外商など)売上高が詳細に記載されていますか。	5
⑥ 月次の売上状況(既存店・全店増収率、部門別増収率、客数、客単価など)および次期見通しが十分に記載されていますか。	5
⑦ 部門別または何らかの区分で粗利益率が十分に記載されていますか。	5
(3) 四半期情報開示	
① 四半期の数値を理解するために必要な事業に係る季節変動などの説明が十分にされていますか。	5
② 四半期の動向を理解するために必要な基本的なセグメント情報が開示されていますか。	5
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (11点)
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣が公平な情報開示につき十分な注意を払い、重要な事項が発生した場合迅速に開示していますか。	3
② 投資家にとって重要と判断される事項(例えば、業績変動、合併・提携等)が発生した場合、収益への影響について十分に説明されていますか。	3
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・決算説明会資料や月次のデータがホーム・ページでも入手が可能ですか。	3
(3) 英文による情報提供	
・英文による情報提供は充実していますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10点)
(1) 資本政策、株主還元策の開示	
① 資本政策(資金調達、グループ持合政策、優先株、金庫株)について十分な説明がされていますか。	3
② 配当政策・自社株買いなど株主還元策について積極的に、十分に説明していますか。	3
(2) 目標とする経営指標等	
・目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取り組みなどについて十分に説明されていますか。	2
(3) 経営機構について	
・現在採用している経営機構について十分な説明がされていますか。	2
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (9点)
(1) 店舗や商品展示の見学会を積極的に実施していますか。	3
(2) ファクトブックは作成され、内容が充実していますか。	3
(3) 日本語のアンニュアル・レポートを作成していますか。 日本語版あり:3点 英語版のみ:1点 なし:0点	3

小売業専門部会委員

部会長	正田 雅史	野村證券
部会長代理	小場 啓司	三菱UFJ証券
	佐々木 泰行	リーマン・ブラザーズ証券
	清水 倫典	モルガン・スタンレー証券
	高橋 俊雄	みずほ証券
	塚澤 健二	JPモルガン証券
	朝永 久見雄	ドイツ証券

評価実施アナリスト（34名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない2名を含む〉）

青木 英彦	メルリッチ日本証券	武久 緩美	J. P. モルガン信託銀行
石飛 益徳	エース証券 東京支店	塚澤 健二	JPモルガン証券
小田 幸美	モルガン・スタンレー証券	辻本 臣哉	明治トリスナー・アセットマネジメント
小畑 博	MU 投資顧問	津田 和徳	大和総研
金森 淳一	三菱UFJ証券	手塚 裕一	住友信託銀行
倉内 清和	安田投信投資顧問	朝永 久見雄	ドイツ証券
小場 啓司	三菱UFJ証券	長崎 真介	第一勸業アセットマネジメント
小林 静夏	メルリッチ日本証券	仲西 恭子	興銀第一ライブ・アセットマネジメント
権藤 貴志	農林中金全共連アセットマネジメント	西村 俊一	大和住銀投信投資顧問
斎藤 太	ソシエティ・エネラルアセットマネジメント	野口 真紀	大和証券投資信託委託
清水 倫典	モルガン・スタンレー証券	藤井 洋子	ユー・ビー・エス・グローバル・アセット・マネジメント
正田 雅史	野村証券	松岡 珠美	新光投信
染谷 知	三菱UFJ信託銀行	宮田 仁光	三井アセット信託銀行
高木 美香	東京海上アセットマネジメント投信	森 清	岡三証券
田中 俊	SMBCフレント調査センター	山本 幸典	みずほ信託銀行
高橋 俊雄	みずほ証券	和久井 一隆	ライアント・ティ・アセットマネジメント

銀行

新生銀行、三菱 UFJ フィナンシャル・グループ、りそなホールディングス、
三井トラスト・ホールディングス、三井住友フィナンシャルグループ、福岡銀行、
千葉銀行、横浜銀行、静岡銀行、住友信託銀行、みずほフィナンシャルグループ
(計 11 社)

1. 評価方法等

本年度は、前回の評価対象企業のうち、合併により三菱東京フィナンシャル・グループ、ユーエフジェイホールディングスは三菱 UFJ フィナンシャル・グループとなり、計 11 社のディスクロージャー状況を評価した。

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢・IR 部門の機能・IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	20
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	説明会等	6	40
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	20
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	2	10
計		17	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 99 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 28 社の 32 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 98 頁参照）。

本年度の総合評価平均点は昨年度の 62.9 点より 7.0 点上昇し 69.9 点となった。評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 68%、説明会等が 67%、フェア・ディスクロージャーが 78%、コーポレート・ガバナンス関連が 63%、自主的情報開示が 76%となり、5 分野とも昨年度を上回る高い評価結果となった。

また、本年度の具体的な評価項目および配点は昨年度と同一であるが、すべての項目において、昨年度の平均得点率を上回った。特に、最も平均得点率の高かったフェア・ディスクロージャーにおいては、経営陣および IR 部門が公平な情報開示につき十分な注意を払って

いるかについて、評価対象企業のすべてが80%以上の得点率（評価点/配点（以下省略））となっているほか、この分野においてはほかに二つの項目についても対象企業全社が70%以上の評価を受けた。

各評価対象企業の総合評価点を見ても、合併に伴い昨年度と比較することができない1社を除いたすべての対象企業が昨年度を上回った。また、当業界の特徴は総合評価点格差が小さいということであったが、昨年度は、一部の低位企業について格差が見られた。しかし、本年度は低位企業が大幅に改善したこともあり、全社で見ても格差が小さいものとなっている。ちなみに、各評価対象企業の総合評価点の標準偏差は、昨年度の4.7点から本年度は2.2点と縮小した。

評価実施アナリストの意見を見ると、総じて、経営陣やIR部門がIRに積極的に取り組んでいることなどを評価する声があった。

今後、なお一層の改善の努力が望まれる点は、昨年度より平均得点率は上昇したものの、会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についての積極的な開示姿勢（平均得点率61%・昨年度51%）、主な傘下子銀行、直接子会社、関連会社の損益、財務および資本関係などの十分な説明（同60%・同46%）および株主資本コスト等を考慮した経営指標（全体および部門別）の設定（同60%・同55%）などである。

(2) 上位個別企業の評価概要

住友信託銀行（ディスクロージャー優良企業[5回目]、総合評価点：73.1点、第1位～2位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（得点率（以下省略）72%）が2社同得点第2位、説明会等（69%）が第2位、フェア・ディスクロージャー（81%）が第1位、コーポレート・ガバナンス関連（75%）が2社同得点第1位、自主的情報開示（75%）が5社同得点第6位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、経営トップが決算説明会等において経営方針などを十分に説明していることや、IR部門に十分な情報が集積され、担当者と有益なディスカッションができることが高い評価を受けた。

説明会等においては、決算短信の同時配布資料の内容が十分であることや、不良債権等信用リスクの実態についての説明が十分であることなどが評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき十分な注意を払っていることや、投資家にとって重要と判断される事項の開示を遅滞なく十分に行っていることが高く評価された。また、ホームページで有用な情報提供を行っていることも高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策を十分に説明していることが高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

りそなホールディングス（総合評価点：71.9点、第2位←4位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（76%）が第1位、説明会等（67%）が2社同得点第6位、フェア・ディスクロージャー（79%）が第5位、コーポレート・ガバナンス関連（63%）が2社同得点第4位、自主的情報開示（78%）が第2位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、決算説明会等において経営方針などを十分に説明していることなど、経営陣のIR姿勢が積極的であることなどが評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、投資家にとって重要と判断される事項の開示が遅滞なく十分に行われていることなどが評価された。

自主的情報開示においては、経営計画の公表とその後のフォローアップを十分に行っていることが高い評価を受けた。

みずほフィナンシャルグループ（総合評価点：71.5点、第3位←1位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（72%）が2社同得点第2位、説明会等（68%）が第5位、フェア・ディスクロージャー（80%）が2社同得点第3位、コーポレート・ガバナンス関連（63%）が2社同得点第4位、自主的情報開示（77%）が第3位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣のIR姿勢等においては、経営トップが、決算説明会において経営方針などを十分に説明していることが高く評価された。また、IR部門に十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができることが高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、ホームページで有用な情報提供を行っていること、および英文による情報提供が充実していることが高く評価された。

自主的情報開示においては、アニュアルレポート、ディスクロージャー誌等の内容が充実していることが高く評価された。

以上のほか、説明会等においては、決算短信の同時配布資料の内容が十分であることなどが評価された。

福岡銀行（総合評価点：71.2点、第4位←6位、地方銀行第1位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（69%）が2社同得点第6位、説明会等（69%）が2社同得点第3位、フェア・ディスクロージャー（75%）が2社同得点第9位、コーポレート・ガバナンス関連（71%）が第3位、自主的情報開示（79%）が第1位となった。

なお、同社は総合評価点で評価対象企業中第4位であるが、地方銀行（4社）の中にあってはトップの評価を受けた。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、説明会等においては、説明資料が充実していることなどが評価された。また、有益な四半期情報が適切かつタイムリーに開示されていることでトップの評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策について十分に説明

していることが高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、中期経営計画について説明会を実施したことなどが高く評価された。

静岡銀行（総合評価点：70.5点、第5位←10位、地方銀行第2位）

同社は、分野別では、経営陣のIR姿勢等（70%）が第5位、説明会等（70%）が第1位、フェア・ディスクロージャー（76%）が第8位、コーポレート・ガバナンス関連（61%）が第6位、自主的情報開示（75%）が5社同得点第6位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、説明会等においては、不良債権等信用リスクの実態や市場リスクについて十分に説明していることでトップの評価を受けた。

上記のほか、経営陣のIR姿勢等においては、経営トップが決算説明会等において経営方針などを十分に説明していることが高い評価を受けた。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

三井トラスト・ホールディングス（総合評価点：70.2点、第6位←3位、経営陣のIR姿勢（72%）第4位、フェア・ディスクロージャー（80%）2社同得点第3位）

同社は、経営陣のIR姿勢等においては、IR部門に十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションできることが高い評価を受けた。

また、フェア・ディスクロージャーにおいては、経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき十分な注意を払っていることなど、フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢でトップの評価を受けた。

千葉銀行（総合評価点：69.7点、第7位←4位、地方銀行第3位、説明会等（69%）2社同得点第3位、自主的情報開示（76%）2社同得点第4位）

同社は、説明会等においては、決算短信の同時配布資料の内容が十分であることや、不良債権等信用リスクの実態について十分に説明していることなどが評価された。

また、自主的情報開示においては、経営計画の公表とその後のフォローアップを十分にを行っていることも評価された。

横浜銀行（総合評価点：68.9点、第9位←7位、地方銀行第4位、コーポレート・ガバナンス関連（75%）2社同得点第1位）

同社は、コーポレート・ガバナンス関連において、資本政策、株主還元策について十分に説明していることでトップの評価を受けた。

新生銀行（総合評価点：66.0点、第11位←12位、フェア・ディスクロージャー（81%）
第2位）

同社は、総合評価点で昨年度を大幅に上回る評価となった。特に、IR部門のスタッフが充実したことや、説明会、インタビューにおける開示が改善されたことが評価された。

以 上

平成18年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (銀行)

(単位：点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス 評価項目3 (配点20点)		2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示 評価項目6 (配点40点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目4 (配点20点)		4. コーポレート・ガバナンスに関する情報の開示 評価項目2 (配点10点)		5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2 (配点10点)		昨年度 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	住友信託銀行	73.1	14.4	2	27.5	2	16.2	1	7.5	1	7.5	6	2
2	りそなホールディングス	71.9	15.1	1	26.9	6	15.8	5	6.3	4	7.8	2	4
3	みずほフィナンシャルグループ	71.5	14.4	2	27.2	5	15.9	3	6.3	4	7.7	3	1
4	福岡銀行	71.2	13.8	6	27.4	3	15.0	9	7.1	3	7.9	1	6
5	静岡銀行	70.5	13.9	5	27.9	1	15.1	8	6.1	6	7.5	6	10
6	三井トラスト・ホールディングス	70.2	14.3	4	26.9	6	15.9	3	5.6	10	7.5	6	3
7	千葉銀行	69.7	13.8	6	27.4	3	14.9	11	6.0	7	7.6	4	4
8	三井住友フィナンシャルグループ	69.0	13.4	8	26.8	8	15.6	7	5.7	9	7.5	6	9
9	横浜銀行	68.9	12.8	9	26.1	9	15.0	9	7.5	1	7.5	6	7
10	三菱UFJフィナンシャルグループ	66.7	12.4	10	25.6	10	15.7	6	5.4	11	7.6	4	未実施
11	新生銀行	66.0	11.7	11	25.4	11	16.1	2	5.8	8	7.0	11	12
	評価対象企業評価平均点	69.9	13.6		26.8		15.6		6.3		7.6		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は2.2点、昨年度は4.7点であった。

18年度評価項目および配点一覧(銀行)

1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス	配点 (20点)
(1)経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップが決算説明会等において経営方針などを十分に説明していますか。	5
(2)IR部門の機能	
・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	5
(3)IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても積極的に開示する姿勢が見られますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	配点 (40点)
(1)説明会、インタビューにおける開示	
(連・単の両決算)	
① 部門別・項目別等、損益の分析に必要なデータは一貫して十分に説明されていますか。	10
② 不良債権等信用リスクの実態について十分に説明されていますか。	5
③ 市場リスクについて十分に説明されていますか。	5
④ 主な傘下子銀行、直接子会社、関連会社の損益、財務および資本関係などの状況は十分に説明されていますか。	10
(2)説明資料等(短信およびその附属資料を含む)における開示	
・ 決算短信の同時配布資料の内容は十分ですか。(持株会社については傘下子銀行および重要な関連会社の情報を含む。)	5
(3)四半期情報開示	
・ 有益な四半期情報が適切かつタイムリーに開示されていますか。	5
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (20点)
(1)フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき十分な注意を払っていますか。	5
② 投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	5
(2)ホームページにおける情報提供	
・ ホームページで有用な情報提供を行っていますか。	5
(3)英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は充実していますか。	5
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10点)
(1)資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(2)目標とする経営指標等	
・ 株主資本コスト等を考慮した経営指標(全体および部門別)が設定されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (10点)
① アニュアルレポート、ディスクロージャー誌等の内容は充実していますか。	5
② 経営計画の公表とその後のフォローアップは十分に行われていますか。	5

銀行専門部会委員

部会長	山田 能伸	リリオン日本証券
部会長代理	高井 晃	大和総研
	笹島 勝人	JPモルガン証券
	鮫島 豊喜	モルガン・スタンレー証券
	田村 晋一	UBS証券
	野崎 浩成	日興シイングループ証券
	溝渕 明	野村證券

評価実施アナリスト (32名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない2名を含む〉)

デベロップ・アキソン	ゴールドマン・サックス証券会社 東京支店	高井 晃	大和総研
荒木 健次	農林中金全共連アセットマネジメント	瀧 文雄	大和総研
伊勢 和正	みずほ信託銀行	田村 晋一	UBS証券会社
伊藤 理	ソシエティ・エネラルアセットマネジメント	永本 成克	MU投資顧問
岩崎 恵司	新光投信	西村 英一郎	野村アセットマネジメント
岡崎 淳一	大和証券投資信託委託	野崎 浩成	日興シイングループ証券
笠谷 亘	明治トレンスナー・アセットマネジメント	花岡 宏行	J.P.モルガン信託銀行
木下 力	三菱UFJ信託銀行	日向 雄士	ユー・ピー・イー・エス・グローバル・アセット・マネジメント
久保 達哉	リリオン日本証券	溝渕 明	野村證券
小林 研	東京海上アセットマネジメント投信	藪谷 和子	シュローダー投信投資顧問
小林 正佳	ドイツ証券	山田 良成	クレディ・スイス投信
笹島 勝人	JPモルガン証券	山田 能伸	リリオン日本証券
鮫島 豊喜	モルガン・スタンレー証券	吉原 朋重	大和住銀投信投資顧問
鈴木 直人	三菱UFJ信託銀行	和田 健	三井アセット信託銀行
相馬 正欣	住友信託銀行	渡辺 和夫	三菱UFJ信託銀行

コンピューターソフト

NEC フィールディング、新日鉄ソリューションズ、野村総合研究所、オービック、
 トレンドマイクロ、日本オラクル、伊藤忠テクノサイエンス、大塚商会、
 ネットワンシステムズ、日本ユニシス、エヌ・ティ・ティ・データ、
 日立ソフトウェアエンジニアリング、住商情報システム、CSK ホールディングス、
 日立情報システムズ、富士ソフト、TIS (計 17 社)

1. 評価方法等

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢・IR 部門の機能・IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	5	28
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	説明会等	11	32
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	7	20
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	10
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	10
計		28	100

(注) 具体的な評価項目および配点は 106 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 28 社の 32 名である。

2. 評価結果

(1) 総括

本年度の評価結果の概要は次のとおりである（評価対象企業の「ディスクロージャー評価比較総括表」は 105 頁参照）。

本年度の総合評価平均点は昨年度の 62.9 点より 2.0 点上昇し 64.9 点となり、評価対象企業の 17 社中 12 社が総合評価点で昨年度を上回っている。評価項目の 5 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣の IR 姿勢等および説明会等が 66%、フェア・ディスクロージャーが 74%、コーポレート・ガバナンス関連が 56%、自主的情報開示が 48%となった。コーポレート・ガバナンス関連および自主的情報開示は、他の 3 分野と比べ平均得点率がかなり下回っており、この二つの分野については、評価対象企業各社の一層の改善への努力が望まれる。

具体的評価項目について見ると、フェア・ディスクロージャーにおける、決算短信や説明会資料の英語版の作成（平均得点率 94%）については、17 社中 16 社が作成しており、また、ホームページにおける決算説明会資料の十分な掲載（同 87%）についても、12 社の得

点率（評価点／配点（以下省略））が90%以上の高い評価となっている。

なお、評価対象企業の総合評価点の標準偏差は6.2点となり昨年度の5.9点を若干上回った。

さらに、評価実施アナリストの意見を見ると、多くの企業について、経営陣やIR部門の積極的な取組姿勢や、説明会資料等の充実などを評価する声があった。

今後、総じて、改善が望まれる点として、当該四半期の実績を年度の見通し、中長期の経営計画等との関係でどのように理解すべきか、また、事業に係る季節変動などについての説明が十分か（平均得点率49%）、ホームページで決算説明会における質疑応答の状況がわかるようになっているか（同46%）、および、四半期でテレフォン・コンファレンスを活用しているか（同27%・17社中5社のみ活用）などが挙げられる。

(2) 上位個別企業の評価概要

野村総合研究所（ディスクロージャー優良企業 [4回連続]、総合評価点：77.4点、第1位←1位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（得点率（以下省略）76%）が第2位、**説明会等**（75%）、**フェア・ディスクロージャー**（89%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（70%）および**自主的情報開示**（75%）がいずれも第1位となった。

上位の評価となった分野別に具体的にみると、**経営陣のIR姿勢等**においては、経営トップがIR活動の重要性を認識し、自らミーティング（決算説明会を含む）に出席し経営戦略を十分に説明していること、また、業績動向にかかわらずIR姿勢が一貫していることなどが高く評価された。

説明会等においては、付属資料が短信と同時に閲覧できるなど、説明資料等の開示でトップの評価を受けた。また、四半期の動向を理解するために必要な基本的なセグメント情報を開示していることも極めて高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っている姿勢が高く評価された。加えて、ホームページで決算説明会における質疑応答の状況がわかるようになっているかについて唯一満点と評価されるなど、この分野の七つの評価項目中5項目でトップの評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連においては、資本政策、株主還元策を十分に説明していることが評価された。

自主的情報開示においては、重要な記者発表資料を、E-mail、ファクシミリ等を利用して送付していることが評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業界における優良企業として推薦する。

エヌ・ティ・ティ・データ（総合評価点：71.5点、第2位←4位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（69%）が第6位、**説明会等**（69%）が第7位、**フェア・ディスクロージャー**（83%）が第3位、**コーポレート・ガバナンス関連**（62%）が4社同得点第3位、**自主的情報開示**（73%）が第2位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、**フェア・ディスクロージャー**においては、ホーム・ページに過去の長期財務データなど、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしていることなどが極めて高く評価された。

コーポレート・ガバナンス関連においては、目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取り組みなどについて十分な説明をしていることが評価された。

自主的情報開示においては、四半期でテレフォン・コンフェレンスを活用し、後日も利用可能であることが評価された。

以上のほか、**経営陣の IR 姿勢等**において、IR 部門に十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができることが高く評価された。

日立情報システムズ（総合評価点：70.4点、第3位←5位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（73%）が第3位、**説明会等**（71%）が第4位、**フェア・ディスクロージャー**（75%）が第10位、**コーポレート・ガバナンス関連**（59%）が3社同得点第7位、**自主的情報開示**（65%）が第4位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、IR 部門に十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができることのほか、リスク情報や低収益事業についても積極的に開示する姿勢が評価された。

説明会等においては、利益増減要因について明確かつ十分に説明していることや、説明資料に、顧客業種別構成など受注・売上げの分析に必要なデータを十分に記載していることなどが高い評価を受けた。

自主的情報開示においては、受注や売上等の期中データの開示・状況説明が十分であることが評価された。

大塚商会（総合評価点：70.1点、第4位←8位）

同社は、分野別では、**経営陣の IR 姿勢等**（77%）が第1位、**説明会等**（70%）が2社同得点第5位、**フェア・ディスクロージャー**（80%）が第6位、**コーポレート・ガバナンス関連**（66%）が第2位、**自主的情報開示**（36%）が第15位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、**経営陣の IR 姿勢等**においては、経営トップが IR 活動の重要性を認識しており、ミーティングにも自ら出席して経営戦略を十分に説明していること、また、IR 部門に十分な情報が集積されており、担当者と有益なディスカッションができることが高く評価された。加えて、業績動向にかかわらず IR 姿勢が一貫していることが高い評価を受けた。

説明会等においては、四半期情報開示の項目につき相対的に高評価を受けた。

以上ほか、**フェア・ディスクロージャー**において、経営陣および IR 部門が情報開示

に際し不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っていることが高く評価された。

日本ユニシス（総合評価点：68.7点、第5位←10位）

同社は、分野別では、**経営陣のIR姿勢等**（70%）が第5位、**説明会等**（70%）が2社同得点第5位、**フェア・ディスクロージャー**（86%）が第2位、**コーポレート・ガバナンス関連**（59%）が3社同得点第7位、**自主的情報開示**（38%）が第14位となった。

上位の評価となった分野別に具体的にみると、**経営陣のIR姿勢等**においては、IR部門が主要子会社や事業部門に関する説明会を開催するなど、多面的な情報開示に努めていることが評価された。

説明会等においては、利益増減要因について明確かつ十分に説明していることが評価された。また、説明資料等で、セグメントの分類が的確かつ十分に行われていることや、設備投資、減価償却費、研究開発費、従業員数などの計画を十分に記載していることなども高く評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、ホームページに過去の長期財務データなど当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしていることなどが高く評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

新日鉄ソリューションズ（総合評価点：66.2点、第7位←9位、説明会等（72%）2社同得点第2位）

同社は、**説明会等**において、説明資料等の付属資料が使い易く作成され、短信と同時に閲覧できることなど説明資料の開示が評価された。加えて、四半期の動向を理解するために必要な基本的なセグメント情報を開示していることも極めて高い評価を受けた。

TIS（総合評価点：64.8点、2社同順位第8位←2位、説明会等（72%）2社同得点第2位）

同社は、**説明会等**において、利益増減要因を明確かつ十分に説明していることや、主要連結子会社あるいは関連会社の経営動向を十分に説明していることなどが高い評価を受けた。

以 上

平成18年度 ディスクロージャリー評価比較総括表 (コンピューターソフト)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス 評価項目5 (配点28点)		2 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示 評価項目11 (配点32点)		3. フェア・ディスクロージャー 評価項目7 (配点20点)		4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2 (配点10点)		5. 各業種に即した自主的な情報開示 評価項目3 (配点10点)		昨年度 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	野村総合研究所	77.4	21.3	2	23.9	1	17.7	1	7.0	1	7.5	1	1
2	エス・ティ・ティ・データ	71.5	19.3	6	22.2	7	16.5	3	6.2	3	7.3	2	4
3	日立情報システムズ	70.4	20.4	3	22.6	4	15.0	10	5.9	7	6.5	4	5
4	大塚商会	70.1	21.6	1	22.4	5	15.9	6	6.6	2	3.6	15	8
5	日本ユニシス	68.7	19.5	5	22.4	5	17.1	2	5.9	7	3.8	14	10
6	CSKホールディングス	66.6	19.8	4	20.8	11	15.6	9	6.2	3	4.2	9	3
7	新日鉄ソリューションズ	66.2	18.5	9	23.0	2	15.8	7	4.9	13	4.0	10	9
8	日本オラクル	64.8	17.5	12	21.0	10	13.7	13	5.9	7	6.7	3	11
8	TIS	64.8	18.1	11	23.0	2	14.2	12	5.6	10	3.9	11	2
10	伊藤忠テクノサイエンス	64.3	18.6	8	19.9	14	15.7	8	6.2	3	3.9	11	14
11	NECフィールディング	63.0	17.5	12	21.5	9	16.0	4	4.5	17	3.5	16	6
12	住商情報システム	62.8	17.0	16	20.6	12	16.0	4	4.9	13	4.3	7	7
13	日立ソフトウェアエンジニアリング	62.7	17.4	14	21.7	8	14.6	11	4.7	15	4.3	7	13
14	トレンドマイクロ	61.9	17.4	14	18.9	16	13.4	14	6.2	3	6.0	5	12
15	富士ソフト	61.5	18.2	10	20.4	13	13.3	15	5.2	12	4.4	6	15
16	オービック	57.3	19.0	7	19.7	15	9.4	17	5.3	11	3.9	11	16
17	ネットワンシステムズ	49.0	12.9	17	17.0	17	11.2	16	4.7	15	3.2	17	17
	評価対象企業評価平均点	64.9	18.5		21.2		14.8		5.6		4.8		

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.2点、昨年度は5.9点であった。

18年度評価項目および配点一覧(コンピューターソフト)

1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス	配点 (28)点
(1)経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップがIR活動の重要性を認識し、自らミーティング(決算説明会を含む)に出席し経営戦略を十分に説明していますか。	10
(2)IR部門の機能	
① IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	6
② IR部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。	4
(3)IRの基本スタンス	
① 自社の都合の悪い情報や低収益事業についても積極的に開示する姿勢が見られますか。	4
② 業績動向にかかわらずIR姿勢は一貫していますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	配点 (32)点
(1)説明会、インタビューにおける開示 [連結中心(連結対象会社がない場合は「単独」と読み替える)]	
① 利益増減要因は明確かつ十分に説明されていますか。	4
② 営業外損益(有価証券売却損益、有価証券評価損、為替差損益、社債発行費等の主要項目)および特別損益の内訳と発生理由は十分に説明されていますか。	2
③ 主要連結会社(連結対象会社がない場合は除く)あるいは関連会社の経営動向が十分に説明されていますか。	4
④ 年金の資産内容、リース会計、偶発債務、ストックオプションの影響額などオフバランス取引等のリスク情報開示が十分になされていますか。	2
(2)説明資料等(短信およびその附属資料を含む)における開示 [連結中心(連結対象会社がない場合は「単独」と読み替える)]	
① 説明会資料等の附属資料が短信と同時に閲覧できますか。	2
② セグメントの分類は的確かつ十分に行われていますか。	4
③ 設備投資、減価償却費、研究開発費、従業員数などの計画は十分に記載されていますか。	2
④ 売上原価の主要項目(労務費、外注費、機器販売原価など)の実績および計画は十分に記載されていますか。	3
⑤ 受注・売上げの分析に必要なデータ(顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名 など)は十分に記載されていますか。	3
(3)四半期情報開示	
① 当該四半期の実績を年度の見通し、中長期の経営計画等との関係でどのように理解すべきか、また、事業に係る季節変動などについての説明が十分にされていますか。 (十分満足できる:4点 平均的:2点 不十分:0点)	4
② 四半期の動向を理解するために必要な基本的なセグメント情報が開示されていますか。	2
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (20)点
(1)フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
① 経営陣およびIR部門が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	6
② 株価に影響を与えるような未公表の重要な情報の開示を行う場合は、その情報を遅滞なくTDネットに登録するなど迅速・公平な開示に努め、かつIR担当者が適切に対応していますか。	4
(2)ホームページにおける情報提供	
① ホームページに過去の長期財務データなど当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載され、投資判断を行うライブラリーとしての機能を果たしていますか。	3
② 決算説明会の状況のホームページでの公開について	
A 配布資料の掲載は十分ですか。	2
B 質疑応答の状況がわかるようになっていますか。	2
(3)英文による情報提供	
① 決算短信や説明会資料の英語版は作成されていますか。(作成あり:2点 作成なし:0点)	2
② 英文アニュアルレポートが作成されていますか。(作成あり:1点 作成なし:0点)	1
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10)点
(1)資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	5
(2)目標とする経営指標等	
・ 目標とする経営指標、それを採用する理由、目標達成のための取り組みなどについて十分説明されていますか。	5
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (10)点
① 受注や売上等の期中データの開示・状況説明は十分ですか。	5
② 重要な記者発表資料はE-mail、ファクシミリ等で送付されていますか。	2
③ 四半期でテレフォン・コンフェレンスを活用していますか。また、後日も利用可能ですか。 (後日利用可能:3点 当日のみ利用可能:2点 活用なし:0点)	3

コンピューターソフト専門部会委員

部会長	大屋 高志	ドイツ証券
部会長代理	上野 真	大和総研
	秋山 友紀	みずほ証券
	鈴木 達也	三井アセット信託銀行
	田中 秀明	みずほ信託銀行
	宮地 正治	モルガン・スタンレー証券
	森本 展正	三菱UFJ証券

評価実施アナリスト (32名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない1名を含む〉)

秋山 友紀	みずほ証券	高木 章子	富士投信投資顧問
上野 真	大和総研	滝口 圭介	興銀第一ライフ・アセットマネジメント
大野 健太	明治安田生命保険	田中 秀明	みずほ信託銀行
大屋 高志	ドイツ証券	寺島 正	大和証券投資信託委託
岡 敬	三菱UFJ証券	中村 哲也	大和総研
奥川 智彦	新光証券	滑川 晃	シュローダー投信投資顧問
小野田 俊昭	新光証券	東浦 久雄	野村アセットマネジメント
川又 信之	東海東京調査センター	蛭川 修一	明治ドレシーアセットマネジメント
菊地 悟	野村証券	福川 勲	クレディ・スイス証券
栗原 智也	住友信託銀行	古舘 克明	朝日ライフアセットマネジメント
上妻 浩	東京海上アセットマネジメント投信	松尾 十作	水戸証券
小山 洋美	国際投信投資顧問	三須 博志	アイ・アント・ティ・アセットマネジメント
佐々木 真理	ソシエティ・エネラルアセットマネジメント	宮地 正治	モルガン・スタンレー証券
佐野 圭介	朝日ライフアセットマネジメント	森本 展正	三菱UFJ証券
鈴木 達也	三井アセット信託銀行	安田 秀樹	エース証券 東京支店
諏訪 哲朗	三菱UFJ信託銀行		

新興市場銘柄

東北新社、フォーサイド・ドット・コム、アセット・マネジャーズ、総合医科学研究所、オプト、ソネット・エムスリー、ディー・エヌ・エー、ぐるなび、一休、オールアバウト、レックス・ホールディングス、日本マクドナルドホールディングス、テレウェイヴ、ナフコ、リンク・セオリー・ホールディングス、日本ベリサイン、アプリックス、ガンホー・オンライン・エンターテイメント、アドバンスト・メディア、インターネットイニシアティブ、GMO ホスティング&セキュリティ、エヌ・イー ケムキャット、デジタル・アドバイジング・コンソーシアム、ダヴィンチ・アドバイザーズ、日清医療食品、ジャストシステム、インターネット総合研究所、サイバーエージェント、楽天、サイバー・コミュニケーションズ、ACCESS、ジュピターテレコム、インデックス・ホールディングス、USEN、エン・ジャパン、タカラバイオ、メイコー、第一興商、ナカニシ、サマンサタバサジャパンリミテッド、大塚家具、日本アジア投資、エイチ・エス証券、SBI イー・トレード証券、スパークス・アセット・マネジメント投信、フィンテック グローバル、レーサムリサーチ、やすらぎ、リプラス、シンプレクス・インベストメント・アドバイザーズ (計 50 社)

1. 評価対象企業の選定

昨年度ディスクロージャー優良企業選定対象として新たに取上げた新興市場銘柄は本年度も評価を継続した。本新興市場銘柄の個別企業の評価対象は、ジャスダック、マザーズ、ヘラクレス、セントレックス、Q・Board およびアンビシャスの六つの市場に上場している企業の中で、時価総額上位(注1)であって、かつその企業を調査対象としているアナリストの数(注2)が一定以上の50社とした。なお、50社中、27社は昨年度からの継続評価対象企業、23社は新たな評価対象企業である。

(注1) 本年度の対象企業の選定にあたって基準とした時価総額は、本優良企業選定のための準備作業開始直前の、昨年12月下旬時点のものである。

(注2) 本年1月に当協会で開催した、新興市場銘柄をカバーしているアナリストについての調査結果を参考とした。

2. 評価方法等

(1) 評価基準(スコアシート)の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	3	40
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	説明会等	3	30
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	20
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	1	10
計		9	100

(注) 具体的な評価項目および配点は114頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 47 社の 99 名である。

3. 評価結果

(1) 総括

評価結果の概要は次のとおりである（ディスクロージャー評価比較総括表は 113 頁参照）。

総合評価平均点は 59.4 点となり、上位評価企業 5 社の評価点は 70 点台であった。評価項目の 4 分野について平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 61%、説明会等およびフェア・ディスクロージャーが 59%、コーポレート・ガバナンス関連が 54%と、経営陣の IR 姿勢等のみが 60%を若干上回っている。

また、各評価対象企業の総合評価点の標準偏差は 8.1 点（昨年度は 8.4 点）であった。第 1 位企業の評価点と最下位企業の評価点を比較して見ると、1 位の 79.8 点に対し最下位は 34.1 点であり、その格差（1 位企業の評価点／最下位企業の評価点〈以下、評価点格差と省略〉）は 2.3 倍とかなり開いている。同様に、評価項目の 4 分野について評価点格差を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 2.9 倍、説明会等が 2.1 倍、フェア・ディスクロージャーが 1.9 倍、コーポレート・ガバナンス関連が 2.7 倍であり、フェア・ディスクロージャー以外は 2 倍を上回っている。

九つの具体的評価項目について見ると、IR の体制が整えられ対応は積極的であるかの項目については、平均得点率は 69%と比較的高く、また、得点率（各企業の評価点／配点〈以下省略〉）が 60%を下回った企業数も 4 社にとどまった。しかし、残りの 8 項目については、50 社中 20 社から最大 39 社の得点率が 60%を下回っており、中位以下の評価企業を中心に、総じてこれらにつき、今後の改善が望まれる。特に、資本政策、株主還元策に対する考え方の十分な説明については、昨年度と同様に平均得点率が 54%（昨年度 55%）と最も低かった。この点に関して多くのアナリストから、上位評価企業を含めて、総じて資本政策や株主還元策に関する開示が不十分であり、より具体的かつ積極的な開示を望むとの意見があった。

一方、一部の企業を除き、経営トップが自ら説明会等に出席するなど、IR への取り組みが積極化していることや、四半期決算説明会の開催などを評価するアナリストの意見があった。

(2) 上位個別企業の評価概要

テレウェイヴ（ディスクロージャー優良企業[2 回連続]、総合評価点：79.8 点、第 1 位←1 位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（得点率〈以下省略〉87%）および説明会等（80%）が第 1 位、フェア・ディスクロージャー（72%）およびコーポレート・ガバナンス関連（68%）が第 2 位となった。

上位の評価となった分野別に具体的にみると、経営陣の IR 姿勢等においては、社長が自ら率先して IR に積極的に取り組んでいる姿勢などが評価され、経営陣が IR を重要と認識しているかの項目についてトップの極めて高い評価を受けた。また、IR 部門の体制が整っておりかつ担当者の説明など対応も十分であることに加え、リスク情報も積極的に開示してい

る姿勢も高く評価された。

説明会等においては、中期計画で経営数値目標を開示し、説明会でも明確に解説していることのほか、説明資料において、収益および財務分析に必要な基礎データを前向きに開示していることなどが高い評価を受けた。

フェア・ディスクロージャーにおいては、経営陣が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないように十分な注意を払っているかの項目において高い評価を受けた。

コーポレート・ガバナンス関連における、資本政策、株主還元策に対する考え方の十分な説明の項目（平均得点率 54%）において、全体的に得点率が低い中で、自発的に株主に説明する姿勢などが評価され得点率 68%の第 2 位であった。

サイバーエージェント（ディスクロージャー優良企業、総合評価点：73.2 点、第 2 位←5 位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（80%）が第 2 位、説明会等（71%）が第 5 位、フェア・ディスクロージャー（70%）が 3 社同得点第 4 位、コーポレート・ガバナンス関連（61%）が第 8 位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、社長が四半期ごとの説明会に出席し十分な説明を行っていることや、ホーム・ページを通じての積極的な IR への取組み姿勢などが高く評価された。加えて、IR 担当の人員が十分配置されており、担当者の対応も的確であることなど、同部門の機能が充実していることが高い評価を受けた。また、新規事業のリスク情報などを開示している姿勢も評価された。

説明会等においては、収益および財務分析等に必要に関連データが充実していることなどが評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、ネットで月次情報を開示していることなどが評価された。

エン・ジャパン（ディスクロージャー優良企業[2 回連続]、総合評価点：73.0 点、第 3 位←3 位）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（77%）が第 3 位、説明会等（74%）が 2 社同得点第 2 位、フェア・ディスクロージャー（68%）が第 7 位、コーポレート・ガバナンス関連（64%）が第 5 位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、社長自らが自分の言葉で積極的に対話をしていることや、IR 部門の体制も十分であり、担当者が積極的かつ迅速に対応していることなど IR への取組み姿勢が高い評価を受けた。

説明会等においては、経営トップが業界の将来像を含めて、自社のビジョンを語るなど中・長期の見通しについて分かりやすく説明していることが高い評価を受けたほか、説明資料において一貫性のある開示がされ、かつ見やすいことなども高い評価を受けた。

上記のテレウェイヴ、サイバーエージェントおよびエン・ジャパンの 3 社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら 3 社を本年度の新興市場銘柄における優良企業として推薦する。

ディー・エヌ・エー（ディスクロージャー優良企業に準ずる企業、総合評価点：72.4点、第4位・新規対象企業）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（74%）が第5位、説明会等（73%）が第4位、フェア・ディスクロージャー（71%）およびコーポレート・ガバナンス関連（67%）が第3位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、社長が常に率先して IR に取り組んでいることや、四半期ごと等の説明会における説明が充実しているほか、財務担当役員の適切な補佐など、経営陣の積極的な IR 姿勢が評価された。加えて、サービスの有料化に伴う会員の減少の可能性に関するリスク情報を明確にした姿勢も評価された。また、説明会等においては、四半期情報について、非常に分かりやすく説明するなど経営成績の開示が十分に行われていることが、2社同得点で第2位の評価を受けた。そのほか、フェア・ディスクロージャーにおいて、IR 資料を十分に掲載していることや、説明会の動画配信を行っているほか、月次データを掲載するなどホーム・ページを積極的に活用していることでトップの評価を受けた。

ソネット・エムスリー（ディスクロージャー優良企業に準ずる企業、総合評価点：71.0点、第5位・新規対象企業）

同社は、分野別では、経営陣の IR 姿勢等（75%）が第4位、説明会等（67%）が第7位、フェア・ディスクロージャー（74%）が第1位、コーポレート・ガバナンス関連（63%）が第6位となった。

上位の評価となった分野別に具体的に見ると、経営陣の IR 姿勢等においては、社長が IR を重要と認識し、ミーティングなどにおいて積極的に対応している姿勢が評価された。

フェア・ディスクロージャーにおいては、経営陣が情報開示に際し、不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っているかの項目について、2社同得点でトップの評価を受けた。そのほか、ホーム・ページにおける情報開示で説明会資料のほか各種指標を掲載していることなどが評価され第3位の得点率となった。

上記のディー・エヌ・エーおよびソネット・エムスリーのディスクロージャーの向上に対する努力と姿勢は高く評価することができ、ディスクロージャー優良企業に準ずるものと認められる。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

ACCESS（総合評価点：68.3点、第6位←16位、説明会等（74%）2社同得点第2位）

同社は、説明会等における、四半期の情報開示について本決算と遜色のない開示を行うなど、経営実態に即して充実した開示を行っていることでトップの評価を受けた。また、中・長期見通しの説明が十分であることや、説明資料に業界の技術動向や中長期ビジョンを記載していることも評価された。

**ジュピターテレコム（総合評価点：66.9点、第7位・新規対象企業、経営陣のIR姿勢等（70%）
第7位）**

同社は、経営陣のIR姿勢等において、組織としてのIR体制が確立しており、担当者の対応も迅速かつ的確であることが評価された。また、経営陣全体としてIRへの取組みが積極的であることなども評価された。このほか、説明会等において、四半期情報の開示を経営実態に即して行っていることで2社同得点第2位の評価を受けた。

ダヴィンチ・アドバイザーズ（総合評価点：66.0点、2社同順位第8位・新規対象企業、経営陣のIR姿勢等（73%）第6位）

同社は、経営陣のIR姿勢等において、社長が常にIRに率先して取組み自ら説明するなどIRの重要性を認識している姿勢が評価され、2社同得点第5位の得点率となった。このほか、IR担当者の対応も的確であることも評価された。

リプラス（総合評価点：66.0点、2社同順位第8位・新規対象企業、説明会等（70%）第6位）

同社は、説明会等において、中・長期見通しについて十分に説明していることや、説明資料に収益および財務分析に必要なデータを十分に記載していることが評価された。

フィンテック グローバル（総合評価点：65.6点、第10位・新規対象企業、コーポレート・ガバナンス関連（70%）第1位）

同社は、特に、コーポレート・ガバナンス関連における、資本政策、株主還元策に対する考え方の十分な説明の項目（平均得点率54%）において、全体的に得点率が低い中で、トップの得点率70%の評価となった。このほか、中・長期の見通しについて十分に説明していることで第3位の評価を受けた。

以 上

平成18年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (新興市場銘柄)
(評価対象企業50社中上位の25社)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢・ IR部門の機能		2. 説明会、インタビュー 一、説明資料等にお ける開示および四半 期開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. コーポレート・ガバ ナンスに関連する 情報の開示	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
1	テレウェイヴ	79.8	34.6	1	24.1	1	14.3	2	6.8	2
2	サイバーエージェント	73.2	31.8	2	21.4	5	13.9	4	6.1	8
3	エン・ジャパン	73.0	30.8	3	22.2	2	13.6	7	6.4	5
4	ディー・エヌ・エー	72.4	29.5	5	22.0	4	14.2	3	6.7	3
5	ソネット・エムスリー	71.0	29.9	4	20.1	7	14.7	1	6.3	6
6	ACCESS	68.3	26.9	10	22.2	2	13.2	13	6.0	9
7	ジュビターテレコム	66.9	27.8	7	19.9	8	13.2	13	6.0	9
8	ダヴィンチ・アドバイザーズ	66.0	29.0	6	19.5	12	11.3	32	6.2	7
8	リブラス	66.0	26.5	13	21.0	6	13.3	10	5.2	34
10	フィンテック グローバル	65.6	26.7	11	19.4	14	12.5	22	7.0	1
11	第一興商	64.9	25.2	20	19.9	8	13.9	4	5.9	12
12	インデックス・ホールディングス	64.8	27.2	8	18.9	16	13.1	15	5.6	19
13	一休	63.9	26.1	15	18.5	19	13.3	10	6.0	9
13	アブリックス	63.9	26.1	15	19.5	12	12.7	18	5.6	19
15	日本アジア投資	63.8	26.0	17	18.8	17	13.3	10	5.7	15
16	スパークス・アセット・マネジメント投資	63.1	26.7	11	19.9	8	11.2	33	5.3	27
17	オプト	63.0	27.2	8	18.5	19	11.7	27	5.6	19
18	SBIイー・トレード証券	62.6	26.2	14	18.4	21	12.7	18	5.3	27
19	インターネットイニシアティブ	62.2	25.1	21	16.6	37	13.9	4	6.6	4
20	楽天	61.9	24.7	23	18.8	17	13.4	9	5.0	39
21	日本ベリサイン	61.7	23.8	30	19.1	15	12.9	16	5.9	12
22	レックス・ホールディングス	61.4	25.5	19	16.7	35	13.5	8	5.7	15
23	アセット・マネージャーズ	60.7	26.0	17	19.6	11	10.7	38	4.4	47
24	総合医科学研究所	60.2	24.5	25	17.6	24	12.6	21	5.5	22
25	ぐるなび	59.8	24.1	29	17.8	22	12.7	18	5.2	34
	評価対象企業評価平均点	59.4	24.4		17.8		11.8		5.4	

(注) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は8.1点、昨年度は8.4点であった。

18年度評価項目および配点一覧(新興市場銘柄)

1. 経営陣のIR姿勢・IR部門の機能・IRの基本スタンス	配点 (40)点
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 経営陣がIRを重要と認識していると思いますか。	20
(2) IR部門の機能	
・ IRの体制が整えられ、対応は積極的ですか。	5
(3) IRの基本スタンス	
・ 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	15
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示および四半期開示	配点 (30)点
(1) 説明会、インタビューにおける開示	
・ 中・長期の見通しについて十分に説明されていますか。	10
(2) 説明資料等(短信およびその附属資料を含む)における開示	
・ 収益および財務分析に必要なデータは十分に記載されていますか。	10
(3) 四半期情報開示	
・ 四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか。	10
3. フェアー・ディスクロージャー	配点 (20)点
(1) フェアー・ディスクロージャーへの取り組み姿勢	
・ 経営陣が情報開示に際し不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。 十分である:10点 平均的である:5点 不十分である:0点	10
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページ(ウェブ・サイト)を積極的に活用する姿勢が見られますか。	10
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (10)点
資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策に対する考え方が十分に説明されていますか。	10

新興市場銘柄専門部会委員

部会長	齋藤 剛	JPモルガン証券
部会長代理	納 博司	いちよし経済研究所
	蛭原 健史	野村アセットマネジメント
	河野 逸郎	日興アセットマネジメント
	熊井 泰明	みずほインベスターズ証券
	田崎 僚	野村証券
	得能 修	インベスコ投信投資顧問
	戸崎 裕隆	コスモ証券
	中川 雅嗣	国際投信投資顧問
	松田 親佳	大和証券投資信託委託

評価実施アナリスト（99名〈氏名等の掲載の承諾を得られていない14名を含む〉）

秋山 真理	シュローダー投信投資顧問	熊井 泰明	みずほインベスターズ証券
新井 修	新光投信	栗島 理恵	水戸証券
有沢 正一	岩井証券	栗原 智也	住友信託銀行
池野 智彦	エース証券東京支店	合田 泰政	メリルピ日本証券
石井 隆一	立花証券	後藤 恵美	日興コーポリアル証券
石口 政樹	富国生命投資顧問	小宮 知希	明治トレストナーアセットマネジメント
石飛 益徳	エース証券東京支店	権藤 貴志	農林中金全共連アセットマネジメント
伊勢 和正	みずほ信託銀行	齋藤 剛	JPモルガン証券
伊藤 彰洋	三井住友アセットマネジメント	鮫島 誠一郎	いちよし経済研究所
岩田 俊幸	新光証券	清水 毅	第一勧業アセットマネジメント
梅林 秀光	大和総研	鈴木 直樹	シュローダー投信投資顧問
蛭原 健史	野村アセットマネジメント	鈴木 直人	三菱UFJ信託銀行
大塚 俊一	いちよし証券	須山 弘之	みずほインベスターズ証券
大西 等	コスモ証券 東京支店	諏訪 哲朗	三菱UFJ信託銀行
岡崎 淳一	大和証券投資信託委託	関谷 央憲	モルガン・スタンレー・アセット・マネジメント投信
岡谷 貴	新光投信	相馬 宏幸	みずほインベスターズ証券
奥川 智彦	新光証券	曾根 基春	三菱UFJ証券
小澤 公樹	三菱UFJ証券	染谷 知	三菱UFJ信託銀行
金井 一篤	いちよし経済研究所	高世 智明	インベスコ投信投資顧問
川上 治	住友信託銀行	滝口 圭介	興銀第一ライフアセットマネジメント
河野 逸郎	日興アセットマネジメント	竹内 織絵	インベスコ投信投資顧問
川又 信之	東海東京調査センター	竹林 正喜	大和証券投資信託委託
北 洋	住友信託銀行	田崎 僚	野村証券
木下 博	三木証券	田嶋 由利子	住友信託銀行
木村 勝	コスモ証券 東京支店	谷口 剛	野村アセットマネジメント

寺岡 秀明	大和総研	広住 勝朗	大和総研
寺島 正	大和証券投資信託委託	廣瀬 治	東海東京調査センター
徳永 祐美	ニッセイアセットマネジメント	藤井 真由美	インベスト投信投資顧問
得能 修	インベスト投信投資顧問	藤野 敬太	日興アセットマネジメント
徳野 央彦	三菱UFJ信託銀行	正木 裕二	損保ジャパン・アセットマネジメント
戸崎 裕隆	コスモ証券東京支店	松尾 十作	水戸証券
中川 雅嗣	国際投信投資顧問	松田 親佳	大和証券投資信託委託
中谷 幸司	ニッセイアセットマネジメント	松本 大介	大和総研
仲西 恭子	興銀第一ライフ・アセットマネジメント	馬目 俊一郎	コスモ証券 東京支店
中村 哲也	大和総研	三須 博志	ティ・アント・ティ・アセットマネジメント
納 博司	いちよし経済研究所	葉袋 央	ソシエティ・エネラルアセットマネジメント
根来 裕昭	住友信託銀行	宮崎 充	SMBCフレッド 調査センター
根間 尚志	モルガン・スタンレー証券	村岡 真一郎	モルガン・スタンレー証券
野口 真紀	大和証券投資信託委託	村木 正雄	大和総研
原 英嗣	野村アセットマネジメント	矢口 加奈子	日興コーディアル証券
兵庫 真一郎	三菱UFJ信託銀行	安田 秀樹	エース証券東京支店
平松 謙一	東京海上アセットマネジメント投信	渡辺 勇仁	大和証券投資信託委託
蛭川 修一	明治トレンサー・アセットマネジメント		

個人投資家向け情報提供

コムシスホールディングス、大東建託、ソネット・エムスリー、ディー・エヌ・エー、アサヒビール、麒麟麦酒、テレウェイヴ、武田薬品工業、エーザイ、サイバーエージェント、エン・ジャパン、小松製作所、ダイキン工業、松下電器産業、キヤノン、東京エレクトロン、日産自動車、ヤマハ発動機、ローソン、ファミリーマート、三菱商事、りそなホールディングス、住友信託銀行、東日本旅客鉄道、日本郵船、KDDI、東京瓦斯、大阪瓦斯、野村総合研究所、エヌ・ティ・ティ・データ (計 30 社)

1. 評価対象企業の選定

昨年度ディスクロージャー優良企業選定対象として新たに取上げた個人投資家向け情報提供は、本年度も評価を継続した。本優良企業選定の評価対象企業は、本年度のディスクロージャー優良企業選定対象である各業種（13 業種）および新興市場銘柄についての選定結果における上位 1 割の企業（小数点切上げ）の 30 社とした。

2. 評価方法等

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	本文中の略称	評価項目数	配点
①個人投資家向け会社説明会の開催等	個人投資家向け会社説明会	4	15
②ホーム・ページにおける開示等	ホーム・ページ	9	64
③事業報告書の内容	事業報告書	3	21
計		16	100

(2) 具体的評価項目と配点および評価方法

具体的な評価項目および配点は 122 頁に記載したとおりであるが、このうち、個人投資家向け会社説明会の開催の有無等 7 項目についての評価は、各評価対象企業にアンケート調査を実施し、その回答結果を基に評点を付した。残りの 9 項目の評価は、ディスクロージャー研究会「個人投資家向け情報提供専門部会」の委員（15 名）が行い、最終評価は両者の評点を合算して行った。

3. 評価結果

(1) 総括

評価結果の概要は次のとおりである（個人投資家向け情報提供における評価比較総括表は 121 頁参照）。

総合評価平均点は 65.0 点で、上位評価企業 4 社までの評価点は 80 点台の高い評価となり、続いて上位 8 位までの 4 社が 70 点台のまずまずの評価となった。評価項目の 3 分野について

て平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、個人投資家向け会社説明会が 38%、ホーム・ページが 71%、事業報告書が 65%となった。個人投資家向け会社説明会においては、説明会を開催していない 11 社（全体の 37%）は、この分野の評点が 0 点となること等から、平均得点率は 40%を下回る結果となった。

なお、各評価対象企業の総合評価点の標準偏差は 11.8 点であった。

評価対象企業へのアンケート結果を基に評価した具体的項目（7）について見ると、個人投資家向け会社説明会の開催回数は、本優良企業評価開始時点（7 月 21 日）以前の過去 1 年間に説明会を開催している企業 19 社の平均で 4.2 回（昨年度：19 社・4.6 回）であった。また、説明会に社長等代表役員が参加して説明を行っている企業は、19 社中 13 社（68%）である。さらに、個人投資家向け会社説明会の内容をホーム・ページに掲載している企業は、19 社中 13 社（68%）である。この 13 社について見ると、配布資料に加え動画で視聴できる企業が 10 社と掲載している企業の 77%を占め、配布資料のみは 3 社であった。

次に、ホーム・ページに関しては、個人投資家向けサイトを設けている企業は、全体のうち 13 社（43%）である。また、直近の年度決算説明会の説明資料（短信は除く）は、1 社を除く企業がホーム・ページに掲載しており、このうち、2 社を除き大半の企業が説明会開催と同時または開催日当日に速やかに掲載している。また、①ホーム・ページに事業報告書および、②よくある質問と回答（FAQ、説明会時の質疑応答を除く）を掲載しているか、③投資家がホーム・ページを通じて問い合わせを行い、回答を受け取ることができるかの項目については、いずれも多く企業の（①90%、②80%、③97%）が行っている（できる）としている。

また、専門部会委員による評価は、九つの具体的評価項目について行った。その評価は、開示内容が、一般投資家に理解できるように具体的に分かりやすく説明・記載されているか、また、利用しやすいように工夫がされているかといった観点から行った。

これらの項目についての評価結果は次のとおりである。

【個人投資家向け会社説明会】

- ・ホーム・ページに掲載された個人投資家向け会社説明会の充実度と分かりやすさ、平均得点率（以下省略）30%（開催なし・内容の掲載なしの 17 社は 0 点の評価。なお、内容を掲載している 13 社で見ると 70%である。）

【ホーム・ページ】

- ① 画面構成、探しやすさなどを含めた、全体としての IR に関するホーム・ページの充実度、71%
- ② 事業内容（主力商品、主力サービス等）の説明の分かりやすさ、74%
- ③ 決算資料（短信、説明会資料、補足資料等）について
 - A 業績動向の説明の具体性と分かりやすさ、74%
 - B 経営目標、経営戦略の説明の具体性と分かりやすさ、69%
- ④ よくある質問と回答（FAQ）の充実度と分かりやすさ、53%（掲載されていない 6 社は 0 点の評価。なお、掲載している 24 社で見ると 66%である。）

【事業報告書】

- ① 全体として、図表を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が理解しやすいように十分に工夫されているか、67%
- ② 経営方針、中長期経営ビジョンの説明の簡潔度と分かりやすさ、60%
- ③ 業績の動きの説明の分かりやすさ、69%

(2) 優良企業の評価概要

三菱商事（総合評価点：89.7点、第1位、[2回連続優良企業]）

同社は、分野別では、個人投資家向け会社説明会（得点率〔評価点／配点〕（以下省略）99%）およびホームページ（89%）が第1位、事業報告書（同社は株主通信）（87%）が第2位となった。

具体的評価項目の評価概要は次のとおりである。

個人投資家向け会社説明会は5回開催され（この項目の評点は、開催回数に応じ、5回以上：3点、5回未満：1.5点、なし：0点の3段階とした。）、社長が参加して説明を行っている。説明会の内容はホームページに掲載され、業績動向や事業内容について、個人投資家を意識した、分かりやすく、数値、図解付きの丁寧な解説が付された資料が提供されていること、また動画も配信され内容も充実していることが極めて高く評価された。

ホームページにおいては、個人投資家向けコーナーを設けその内容が充実しているほか、全体的にシンプルで、かつ探しやすさや、使いやすさに配慮されていることが高い評価を受けた。また、事業内容や業績動向等の説明が個人投資家の目線で簡潔に、しかも分かりやすく工夫されていることなども高く評価されるなど、この分野の九つの具体的評価項目中、7項目でトップ（複数社同得点を含む）の評価を受けた。

事業報告書については、事業部門が多岐にわたる中、特定の事業部門を取上げ分かりやすく説明する工夫がされていることや、中期経営計画、業績説明、事業紹介、トピックス等がバランス良く記載されていることなどが高く評価された。また、中期経営計画の具体的な目標や施策について、図表などを活用しながら十分なスペースを割いて丁寧に、かつ簡潔に分かりやすく説明されていることなども高い評価を受けた。

サイバーエージェント（総合評価点：85.5点、第2位）

同社は、分野別では、個人投資家向け会社説明会（83%）が2社同得点第5位、ホームページ（84%）が第3位、事業報告書（91%）が第1位となった。

具体的評価項目の評価概要は次のとおりである。

個人投資家向け会社説明会は4回開催され社長が参加して説明を行っている。説明会の内容はホームページに掲載され、インターネットメディア事業等セグメントごとに図表や画像を駆使して業務内容が良く理解できるように分かりやすく説明されていることなどが高く評価された。

ホームページにおいては、業績状況、決算説明会等の映像配信、財務ハイライト等開示内容が投資家向けのページ上で一覧することができ、知りたい情報にたどり着きやすく工夫

されていることが高く評価された。また、イーコマース市場の推移や売上高、セグメントごとの業績推移と戦略が分かりやすく明示されていることや、全体として動画・図表を多用し、見やすく分かりやすいことなども評価された。

事業報告書については、全体的に見やすく工夫され、内容も充実していることが極めて高く評価された。具体的には、グラフ・イラストの活用や、各セグメントの担当役員が、事業内容、業績、戦略について明確かつ具体的に説明を行っていることのほか、ネットビジネスの全体像が詳細に解説されていることなどが評価された。また、中長期計画について図表や数値目標を用いるなどして丁寧に説明されていることや、グラフで表示された四半期ごとの業績推移と年度の業績予想の図表が分かりやすいことなども評価され、この分野でトップの評価を受けた。

住友信託銀行（総合評価点：84.4点、第3位、[2回連続優良企業]）

同社は、分野別では、**個人投資家向け会社説明会**（97%）が第2位、**ホーム・ページ**（84%）が第4位、**事業報告書**〈同社はすみしんレポート－営業の報告－〉（77%）が第6位となった。

具体的評価項目の評価概要は次のとおりである。

個人投資家向け会社説明会は9回開催され社長が参加して説明を行っている。説明会の内容はホーム・ページで動画配信され、業績動向、戦略について数値・図表・グラフを使って分かりやすく解説されていることに加えて、社長とジャーナリスト等との対談も配信していることなどが極めて高く評価された。

ホーム・ページにおいては、上記の対談等の工夫に加えて、個人投資家向けコーナーが良く整理されており分かりやすく、その内容が充実していることや、文字サイズが変更できることなど使いやすさが高く評価された。また、事業内容（主力商品、主力サービス等）の説明に関し、ホーム・ページトップに「住友信託ってどんな銀行」を掲載し、図表、イラスト、などを使って簡潔に理解しやすく工夫されていることなどが高い評価を受けた。

事業報告書については、社長インタビューや社員が語るといった各種の特集コーナーを設けるなど内容に工夫を凝らしていること、また、事業内容なども幅広く丁寧に解説されていることが高く評価された。さらに、簡潔な構成になっており、大判サイズにして読みやすく作成されていることなども評価された。

上記の**三菱商事**、**サイバーエージェント**、**住友信託銀行**の3社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら3社を本年度の個人投資家向け情報提供における優良企業として推薦する。

以 上

平成 18 年度 個人投資家向け情報提供における評価比較総括表

(単位：点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 個人投資家向け会社説明 会の開催等		2. ホーム・ページにおける 開示等		3. 事業報告書の内容	
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位
	評価対象企業		(配点 15 点)		(配点 64 点)		(配点 21 点)	
			開催回数、社長等代表役員 の説明の有無等 4 項目		個人投資家向け資料の有無 や、事業内容、決算説明資 料の分かりやすさ等 9 項目		経営方針、中・長期経営ビジ ョンや業績動向の説明の分か りやすさ等 3 項目	
1	三菱商事	89.7	14.8	1	56.7	1	18.2	2
2	サイバーエージェント	85.5	12.5	5	53.9	3	19.1	1
3	住友信託銀行	84.4	14.5	2	53.7	4	16.2	6
	評価対象企業(30社) 評価平均点	65.0	5.7		45.6		13.7	

(注)評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は 11.8 点であった。

平成18年度評価項目および配点一覧(個人投資家向け情報提供)
(網掛けの項目は対象企業へのアンケート結果を基に評点)

1. 個人投資家向け会社説明会の開催等	配点 (15点)
(1) 過去1年間(7月21日以前)に個人投資家向け会社説明会を何回開催していますか。 (A.5回以上:3点、B.5回未満:1.5点、C.開催なし:0点)	3
(2) (1)でAまたはBの場合、説明会に社長等代表役員が参加して説明を行っていますか。 (A.行っている:3点、B.行っていない:0点、C.開催なし:0点)	3
(3) (1)でAまたはBの場合、個人投資家向け説明会の内容はホーム・ページに掲載されて誰でも閲覧できますか。 (A.配布資料に加え動画で視聴ができる:4点、B.配布資料の掲載のみ:2点、C.掲載なし:開催なし:0点)	4
(4) ホームページに掲載された個人投資家向け説明会の内容は、分かりやすく(一般投資家に理解できるように)、かつ充実していますか。 (A.良好である:5点、B.平均的である:2.5点、C.不十分:1点、D.掲載なし・開催なし:0点)	5
2. ホーム・ページにおける開示等	配点 (64点)
(1) 全体として、IRに関するホーム・ページは利用しやすく、かつわかりやすく工夫されていますか。 (画面構成、探しやすさなどを含めて) (A.良好:10点、B.概ね良好:7点、C.平均的:5点、D.やや不十分:3点、E.改善の余地が多い:1点)	10
(2) 個人投資家向けサイト(個人投資家の皆様へ等)が設けられていますか。 (A.あり:3点、B.なし:0点)	3
(3) 事業内容(主力商品、主力サービス等)が分かりやすく、(一般投資家に理解できるように)説明されていますか。	10
(4) 決算資料(ホームページに掲載されている短信、説明会資料、補足資料等)について	
A. 業績の動きが、具体的にかつ分かりやすく(一般投資家に理解できるように)説明されていますか。	12
B. 経営目標・経営戦略が、会社の強みや課題等を踏まえて、具体的にかつ分かりやすく(一般投資家に理解できるように)説明されていますか。	12
(5) 直近の年度決算説明会の説明資料(短信は除く)は、説明会の日以降速やかにホームページに掲載していますか。 (A.同時・即日:3点、B.翌日以降:1点、C.掲載なし:0点)	3
(6) 事業報告書(下記3参照)がホーム・ページに掲載されていますか。 (A.掲載あり:3点、B.掲載なし:0点)	3
(7) ホーム・ページに掲載のよくある質問と回答(FAQ)「説明会時の質疑応答は除く」は充実し、分かりやすいですか。 (掲載がない場合:0点)	8
(8) 投資家からの問い合わせ等について	
・個人を含む投資家がホーム・ページを通じ問い合わせを行い、回答を受け取ることができるようになっていますか。 (A.できる:3点、B.できない:0点)	3
3. 事業報告書の内容(注)	配点 (21点)
(1) 全体として、図表等を用いることや適切な文字の大きさにするなど、読み手が見やすく、かつ理解し易いように十分な工夫がなされて作成されていますか。 (A.良好:7点、B.概ね良好:5点、C.平均的:3.5点、D.やや不十分:2点、E.改善の余地が多い:1点)	7
(2) 経営方針、中・長期経営ビジョンが分かりやすく、かつ簡潔に説明されていますか。	7
(3) 業績の動きが分かりやすく(読み手が理解し易いように)説明されていますか。	7

(注) 事業報告書が作成されていない場合は、株主通信、ディスクロージャー誌など名称の如何を問わず一般株主等へ事業・業績の概況について分かりやすい解説を行っている資料

個人投資家向け情報提供専門部会委員

部 会 長	豊永 雅一	みずほインバーステーズ証券
部会長代理	品田 民治	野村證券
	井上 政則	野村證券
	牛尾 貴	丸三証券
	大塚 俊一	いちよし証券
	河合 信夫	新光証券
	川崎 元夫	大和証券
	栗本 恭一	日興コーディアル証券
	小林 久恒	日興コーディアル証券
	高橋 卓也	大和証券
	武市 真	三菱UFJ証券
	藤木 宏和	岡三証券
	堀内 敏一	コスモ証券
	松丸 修	三菱UFJ証券
	椋目 孝治	東洋証券

本著作物の著作権は、社団法人 日本証券アナリスト協会®に属します。本著作物の全部または一部を、許可なく印刷、複写、転載、磁気もしくは光記録媒体への入力等、その方法の如何を問わず、これを複製することを禁じます。

証券アナリストによる
ディスクロージャー優良企業選定
(平成 18 年度)

平成 18 年 9 月発行

編集兼発行所 社団法人 日本証券アナリスト協会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町 2-1
東京証券取引所ビル 5 階
電話 03(3666)1515
<http://www.saa.or.jp>

印刷所 株式会社 太平社
